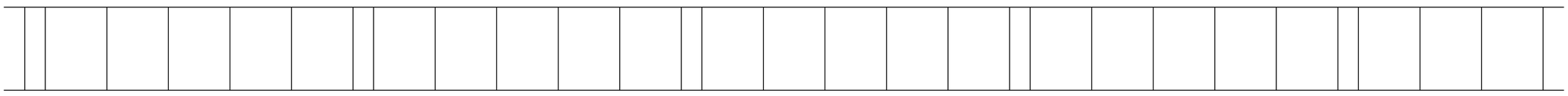
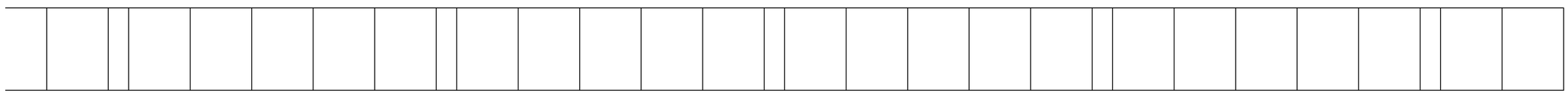
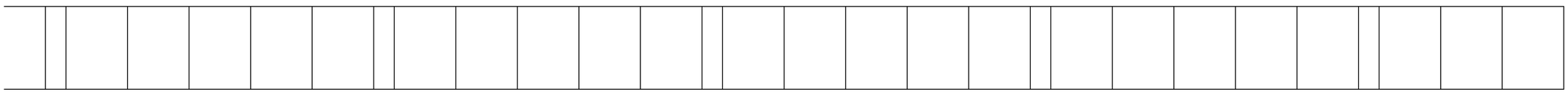
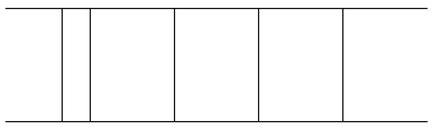
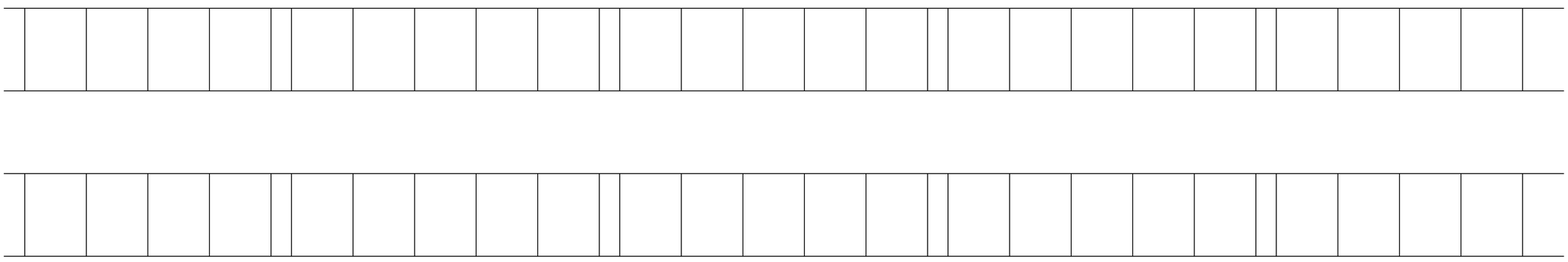
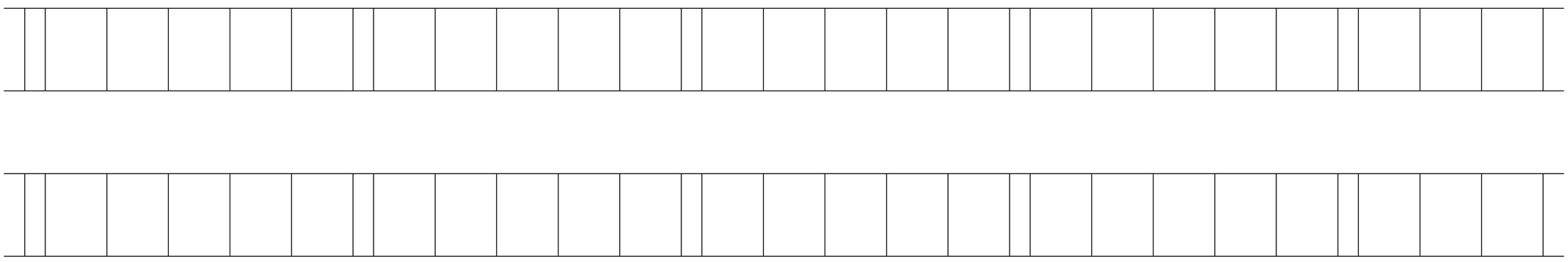
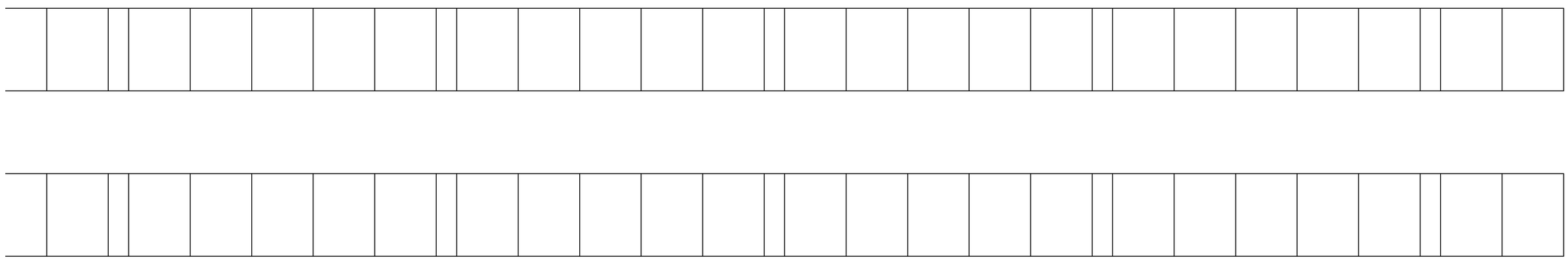
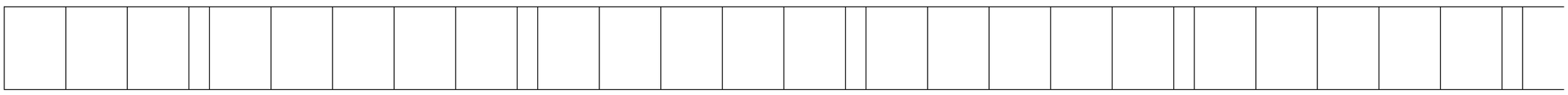
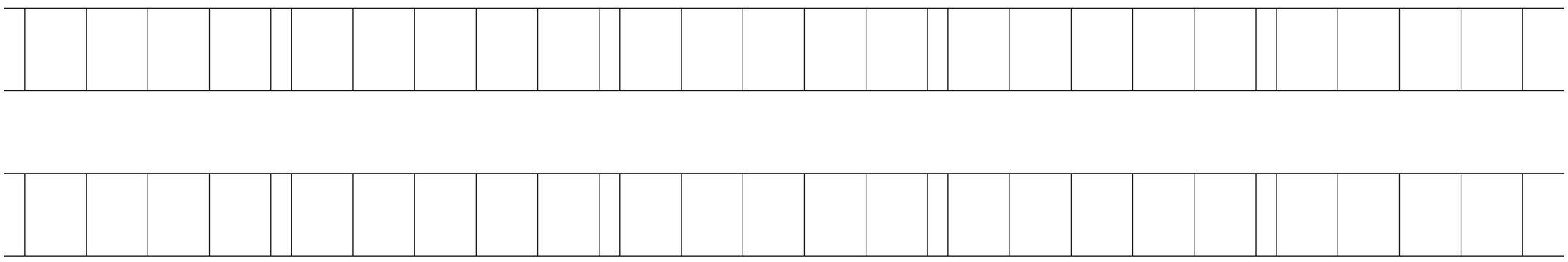
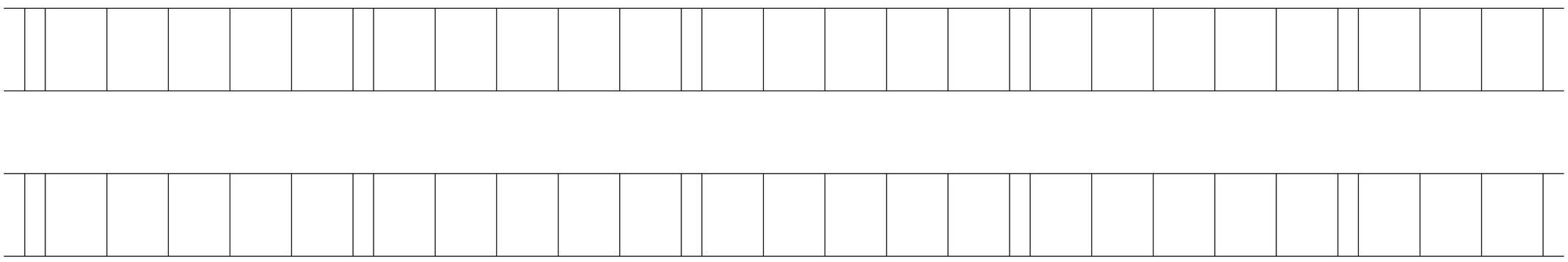
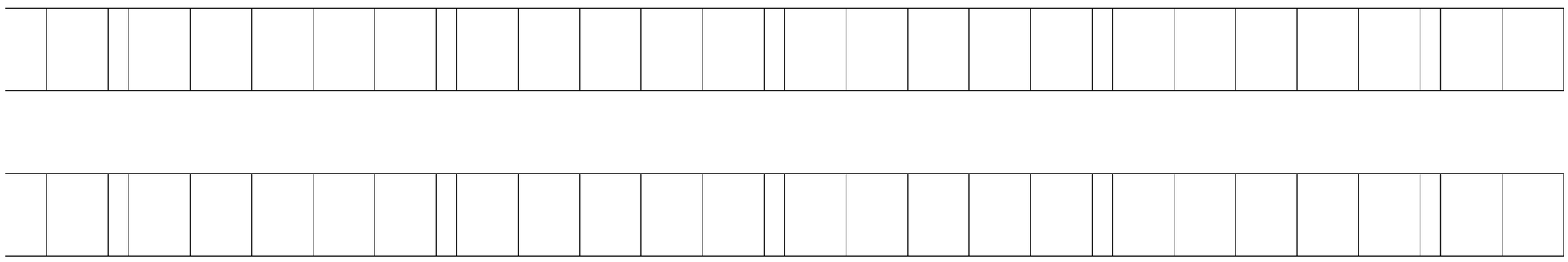
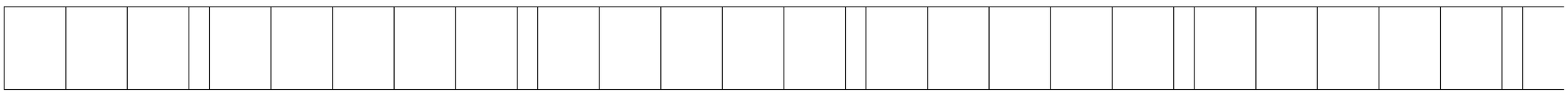
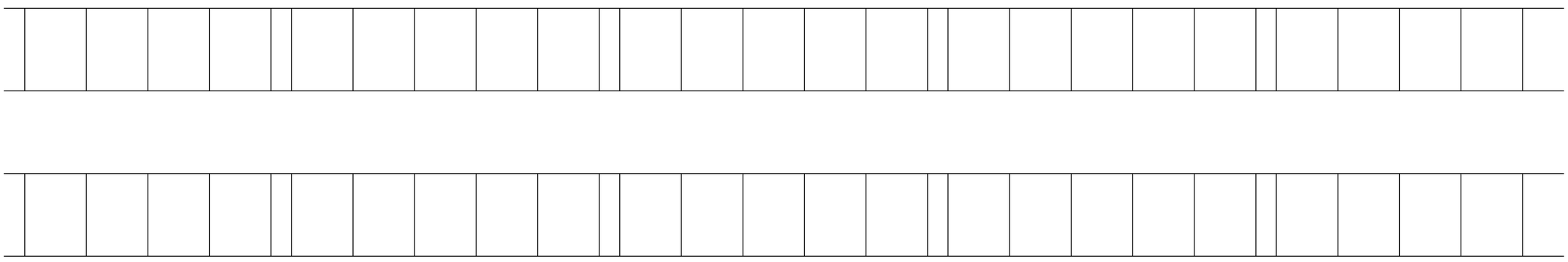
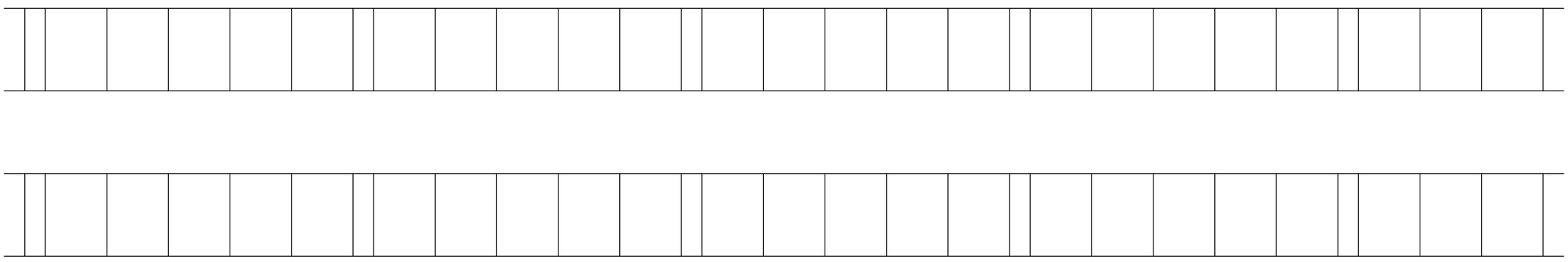
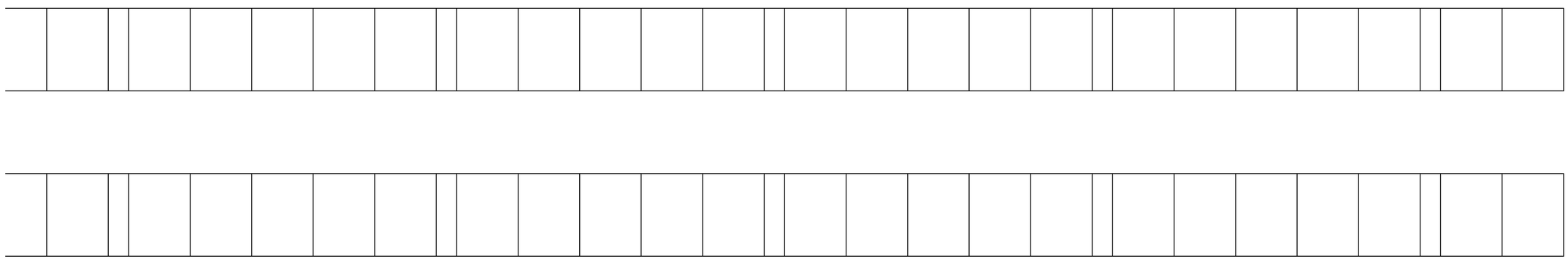
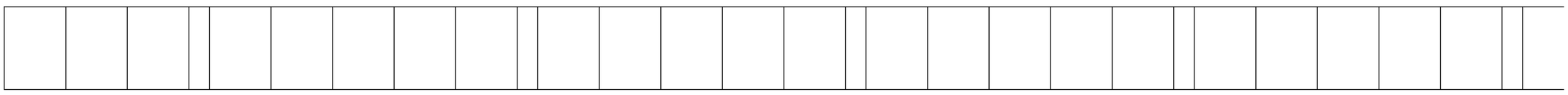
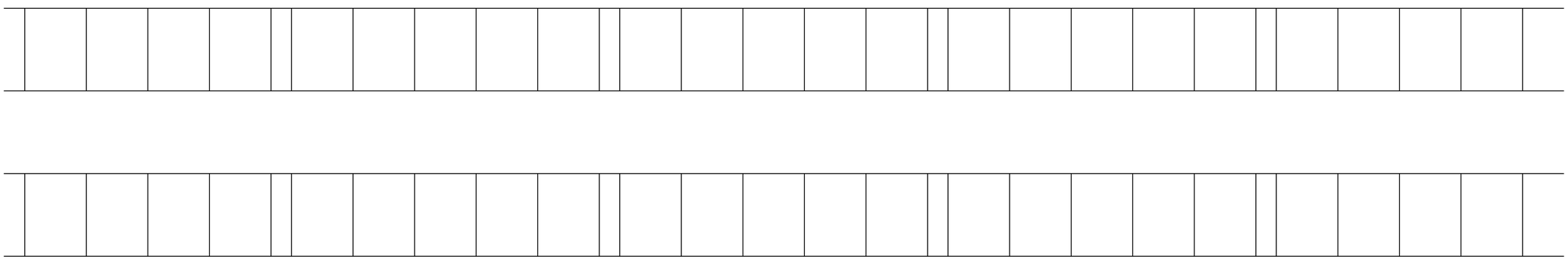
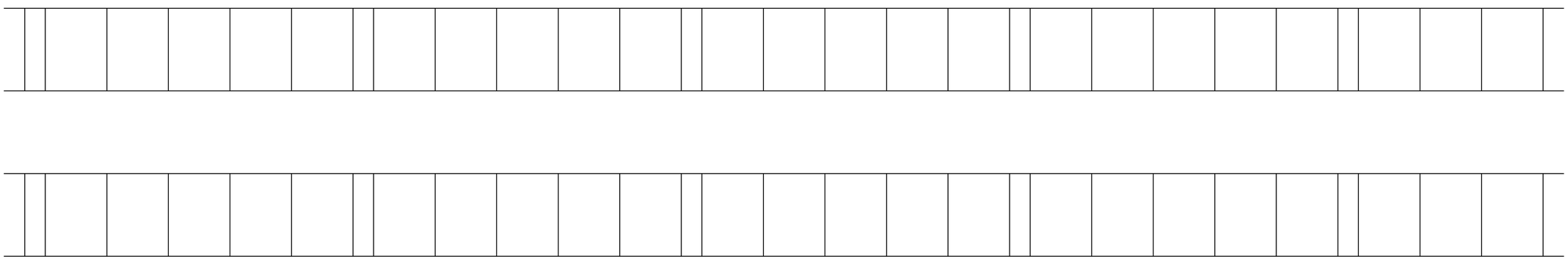
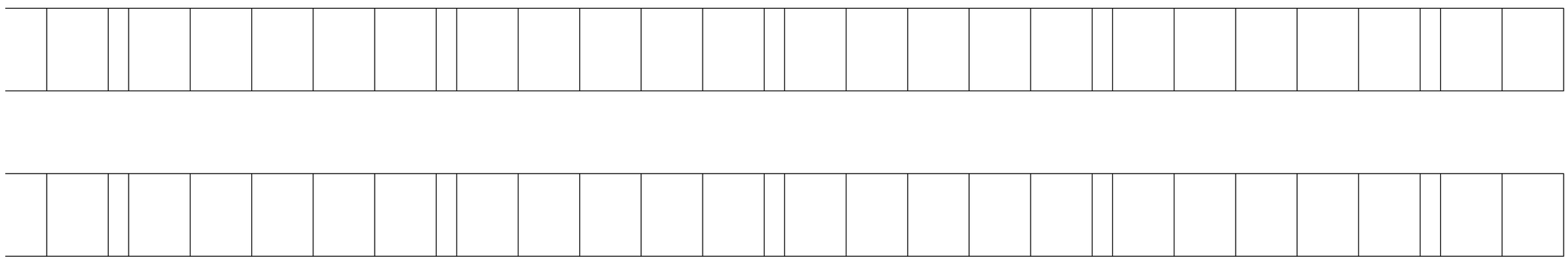
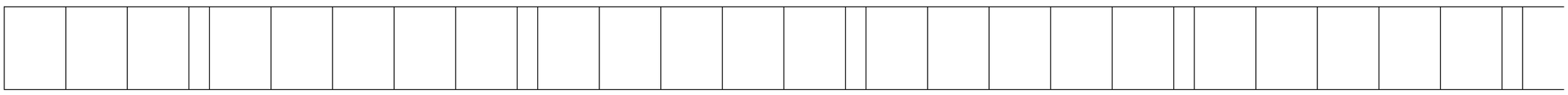
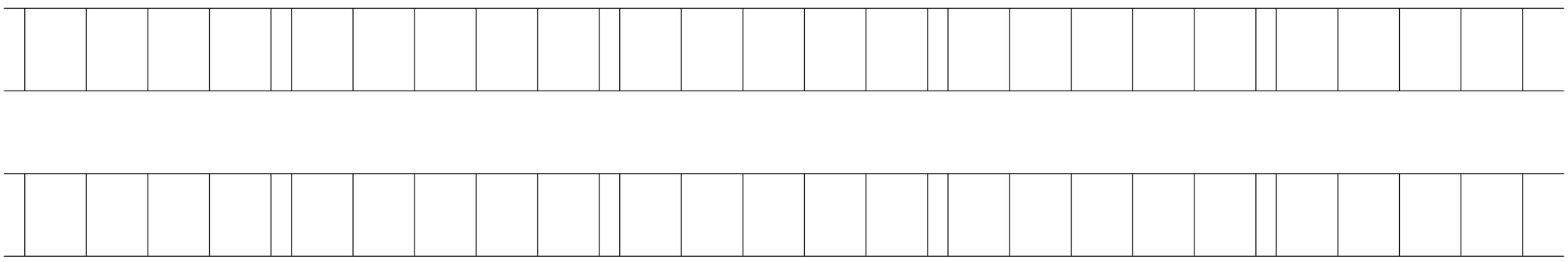
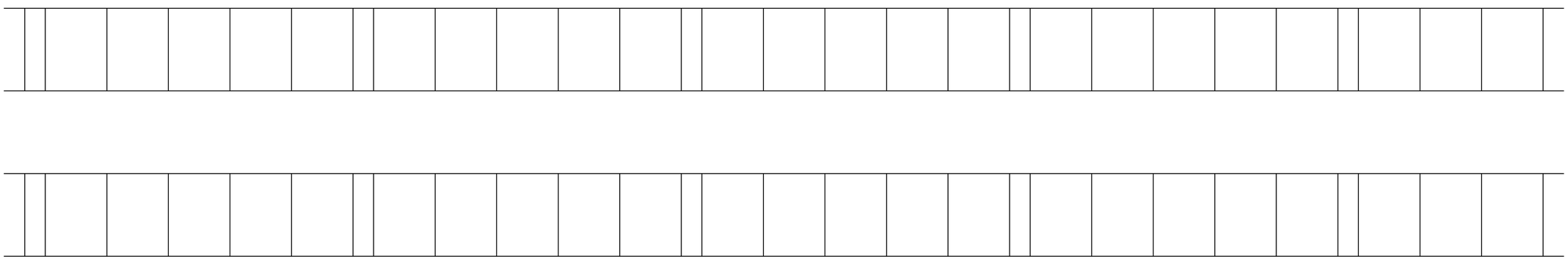
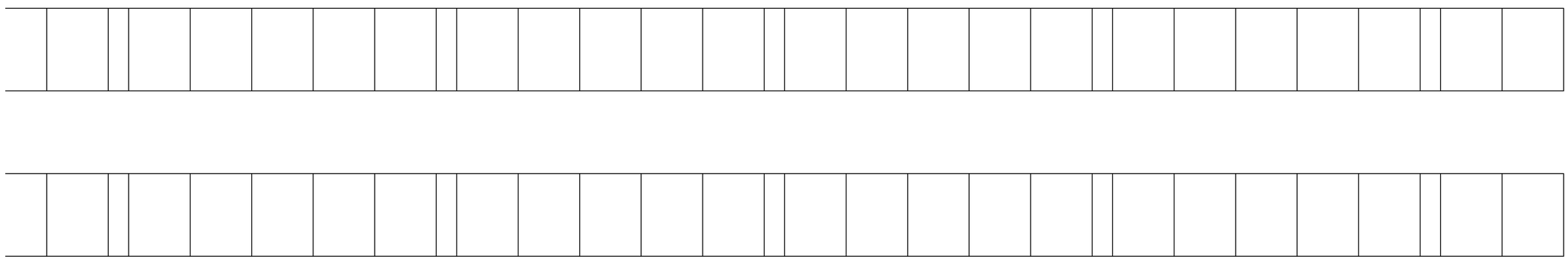
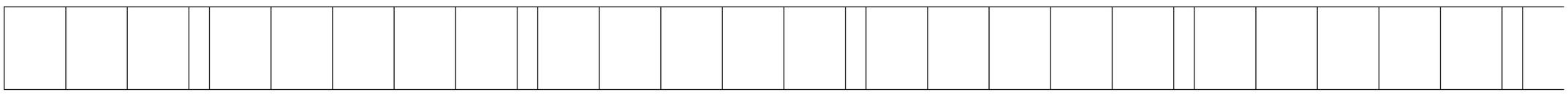
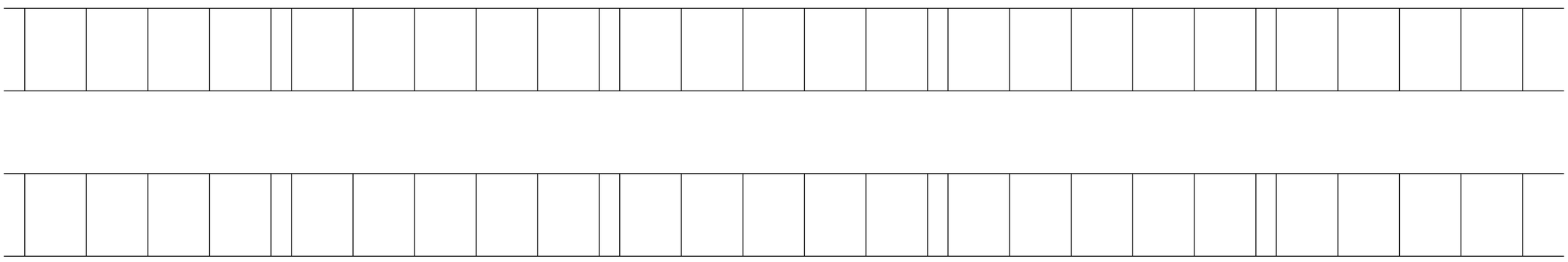
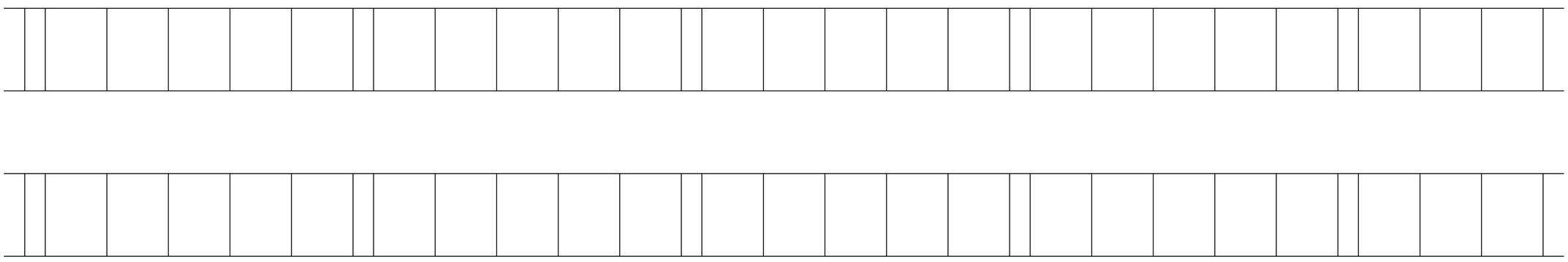
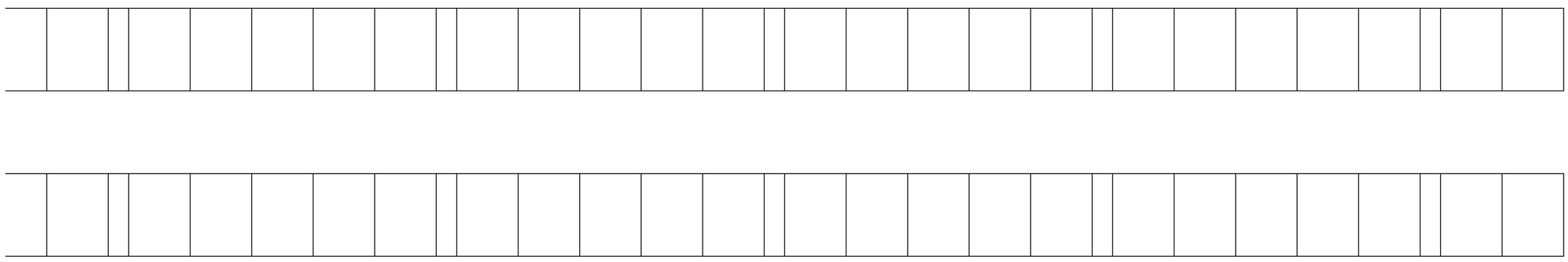
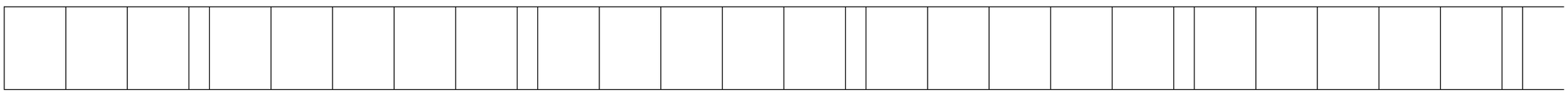
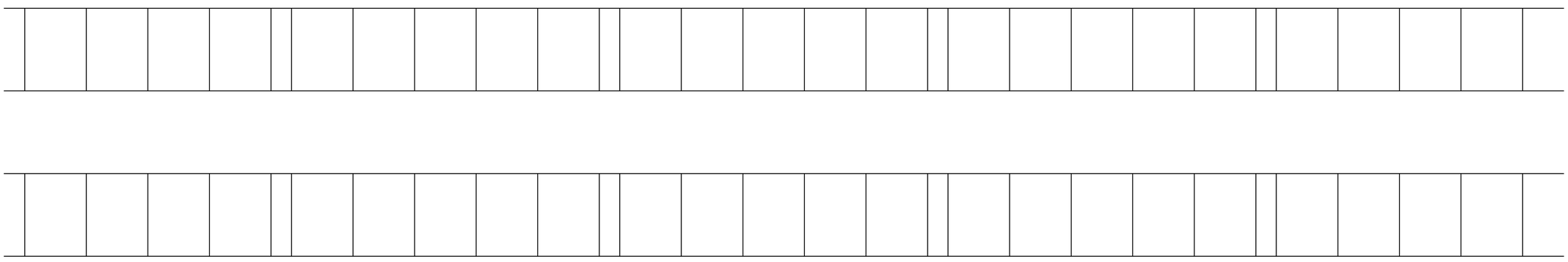
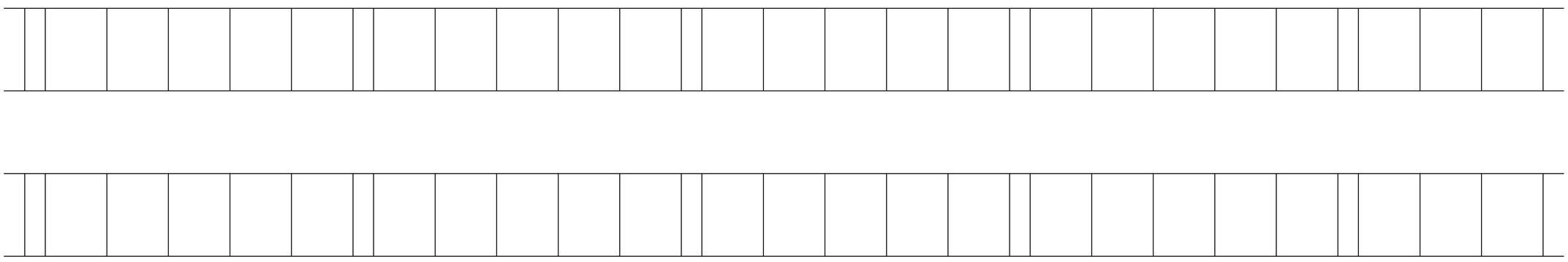
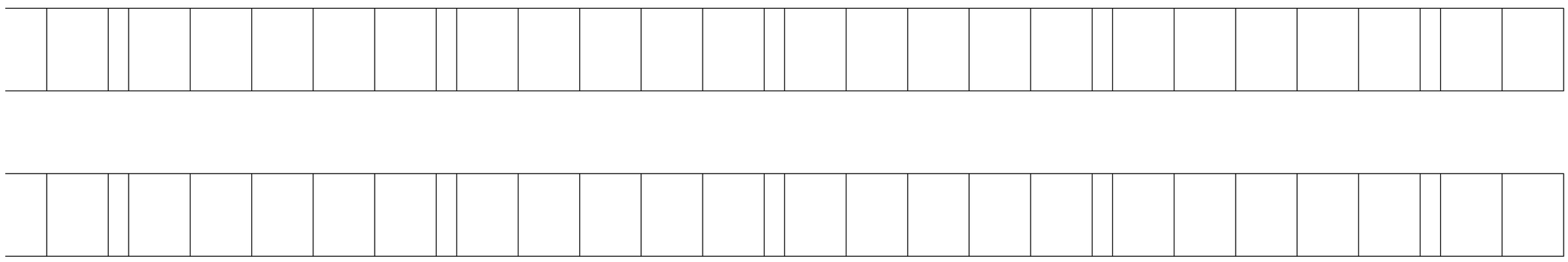
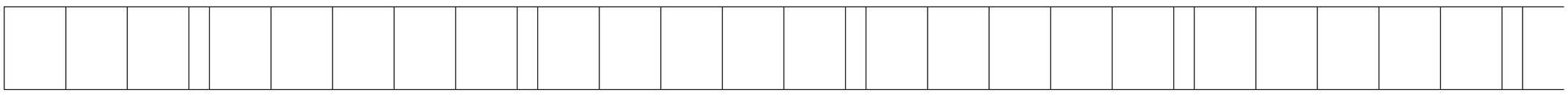
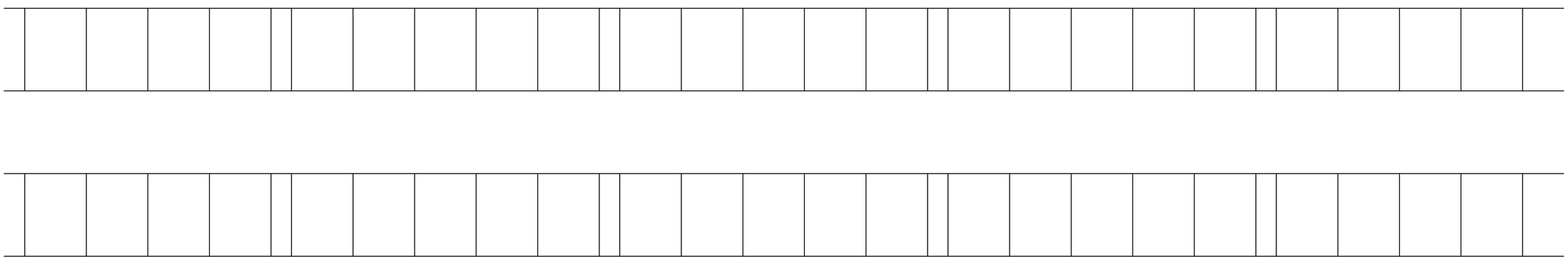
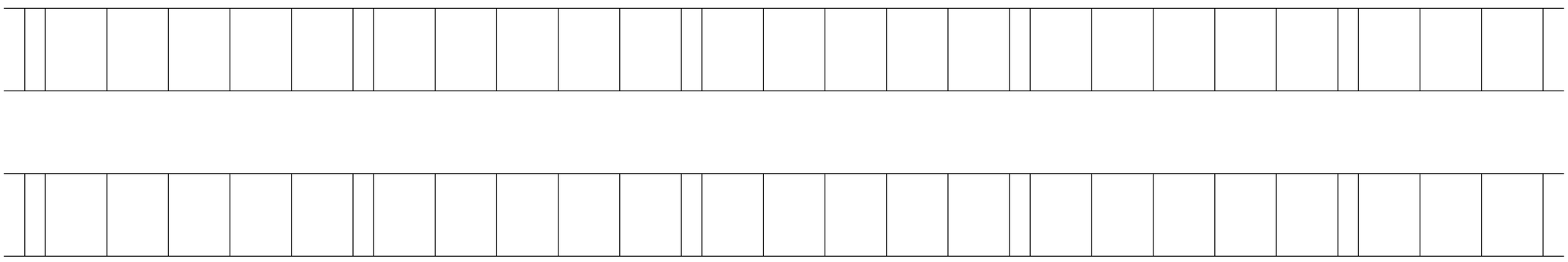
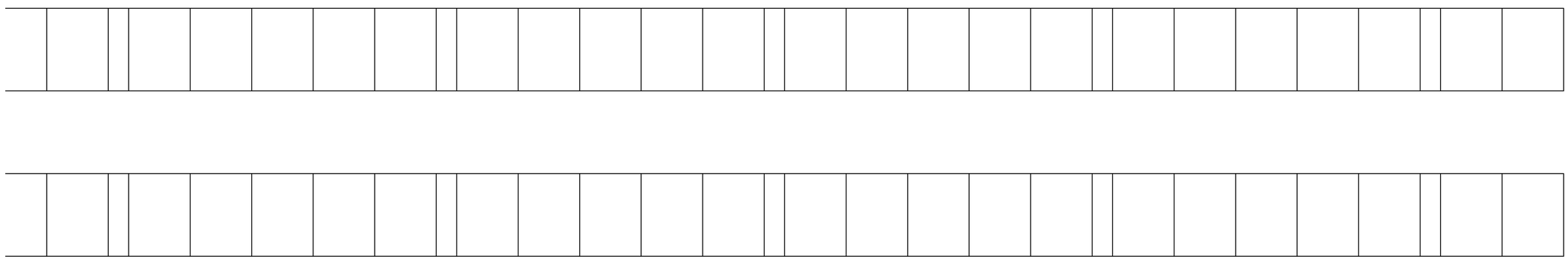
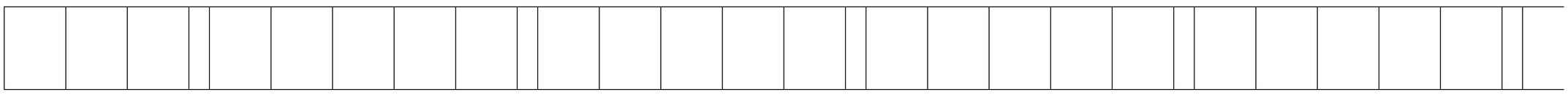
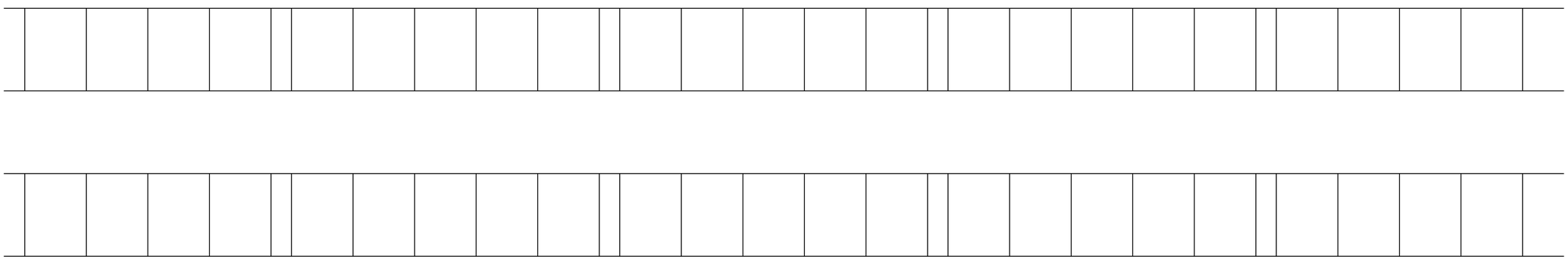
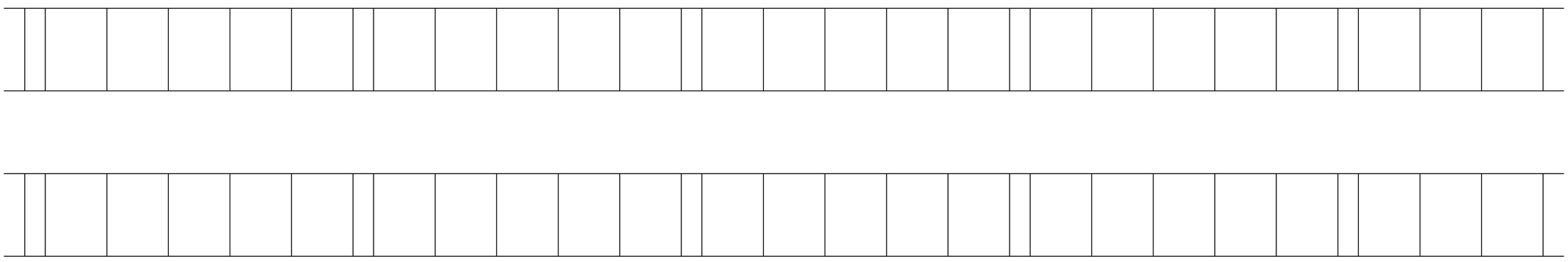
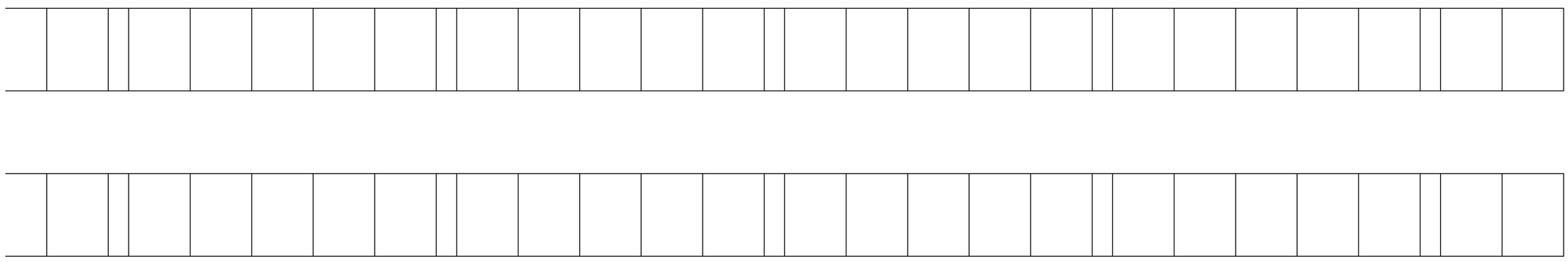
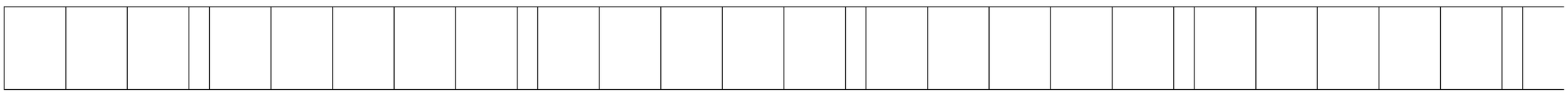
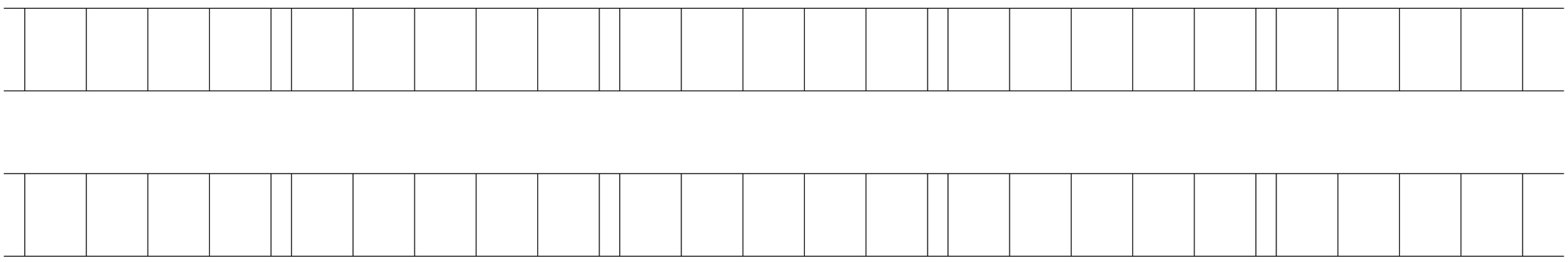
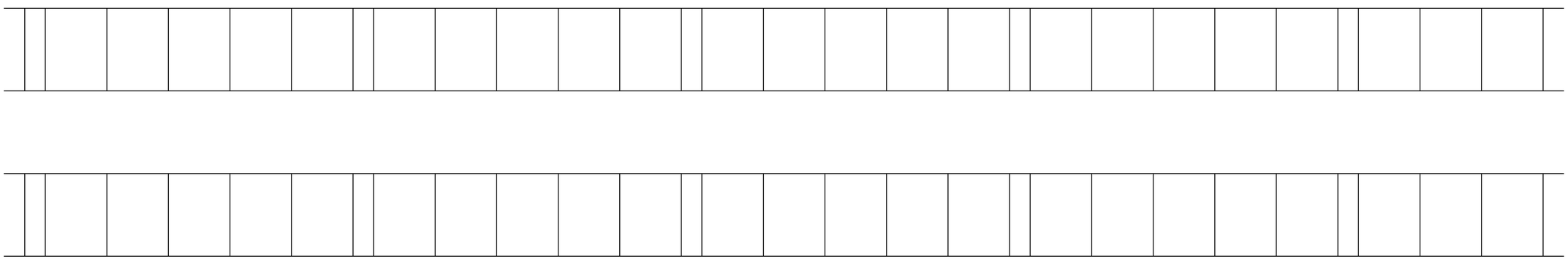
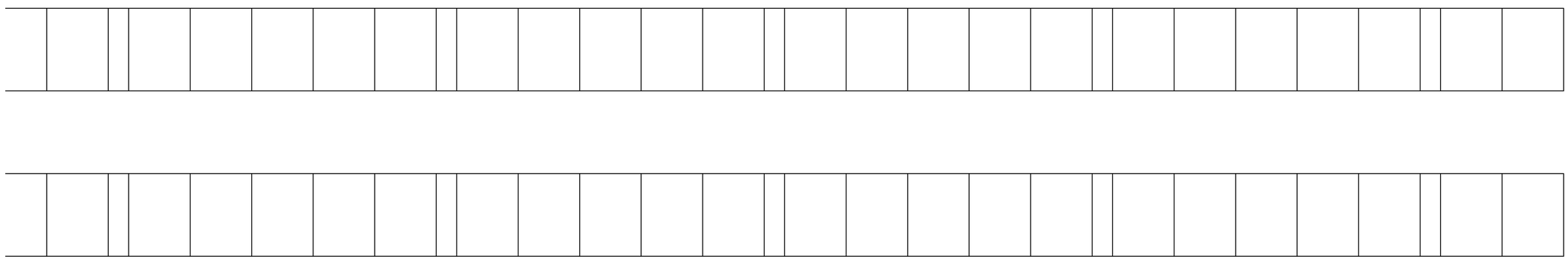
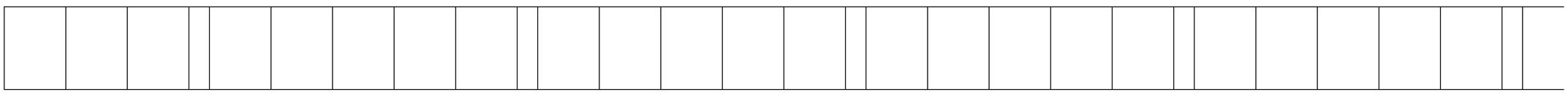
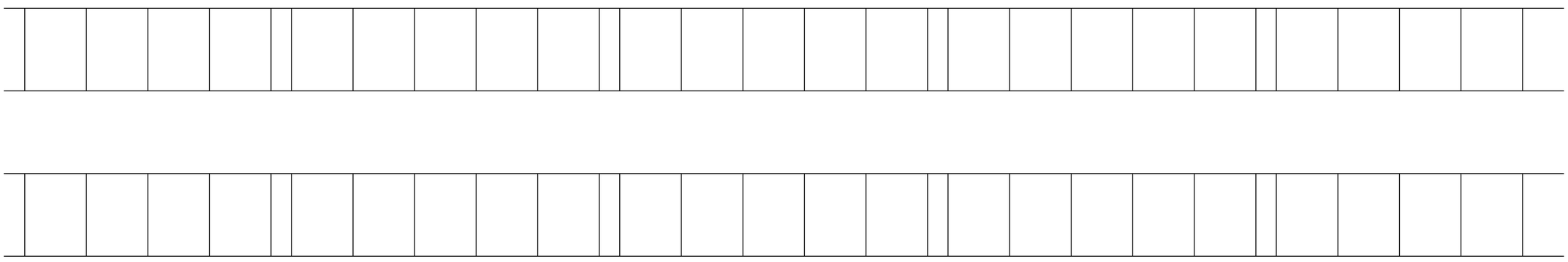
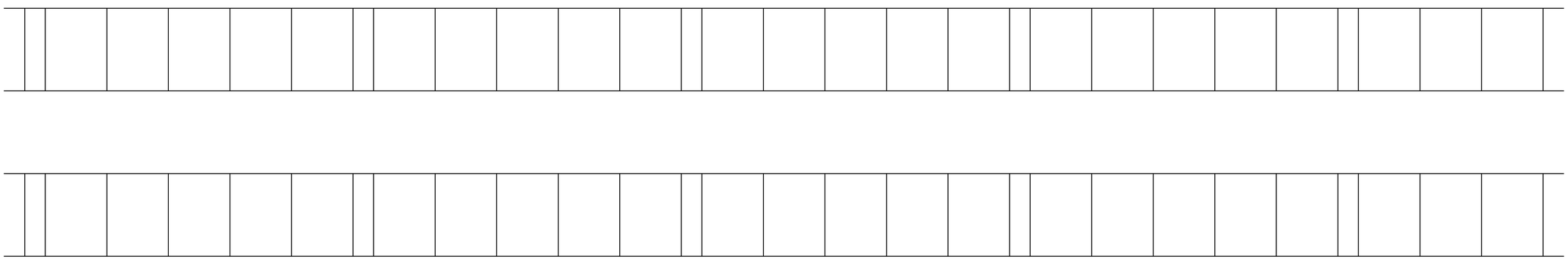
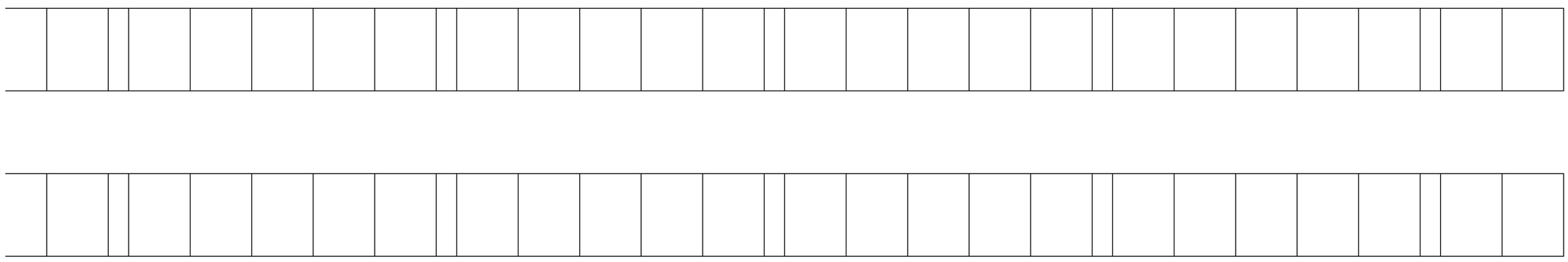
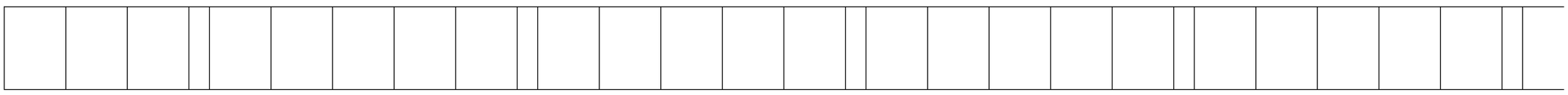
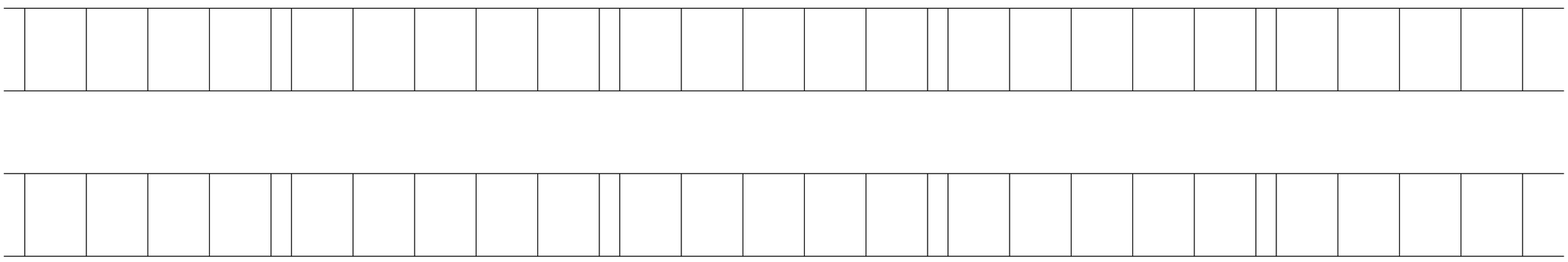
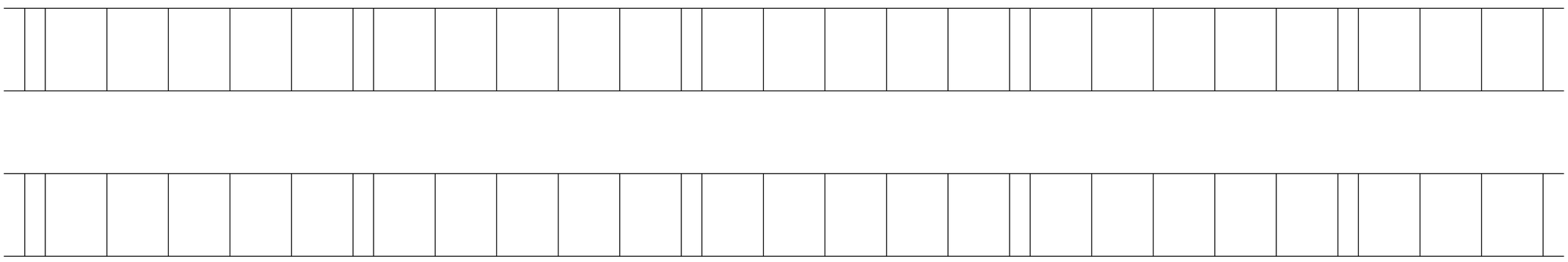
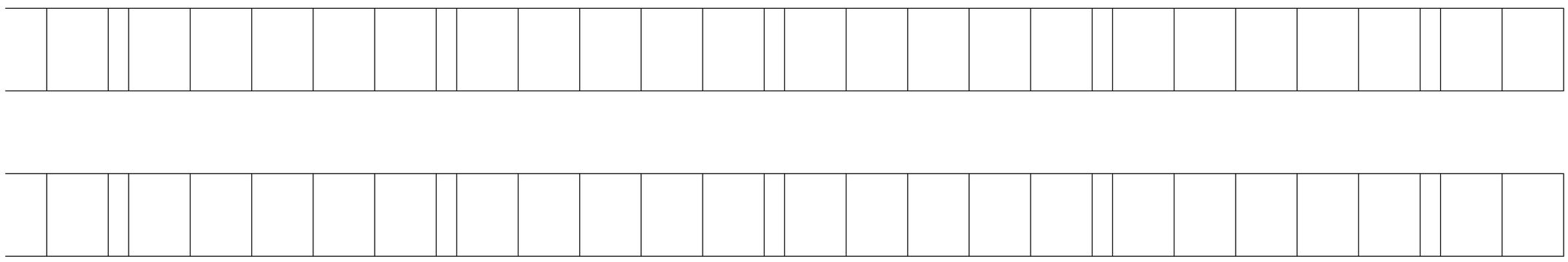
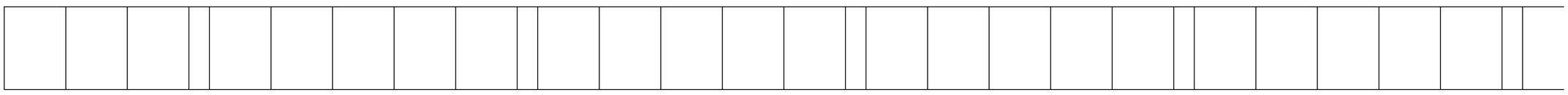
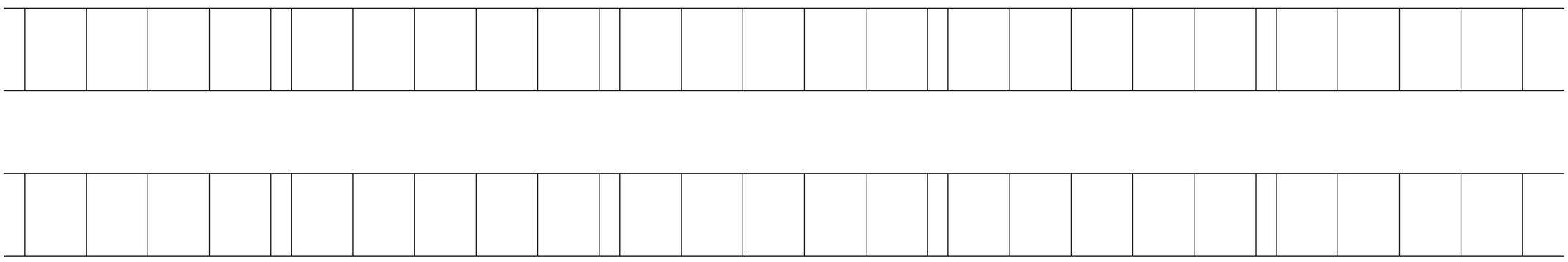
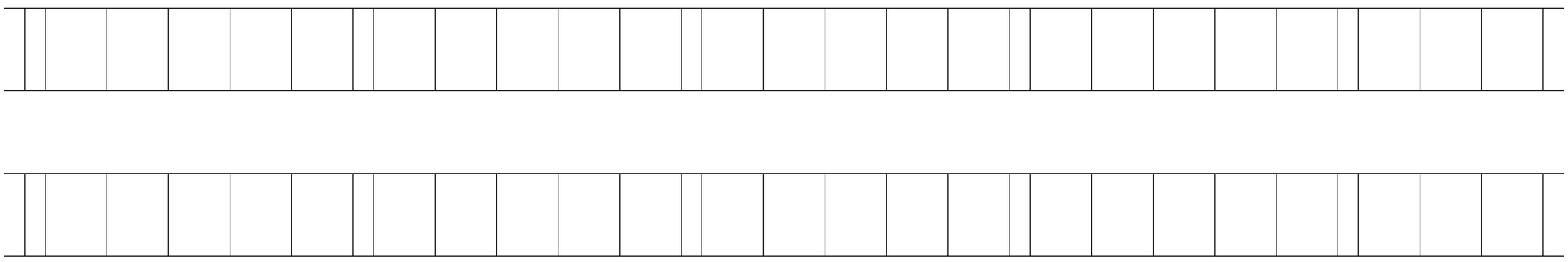
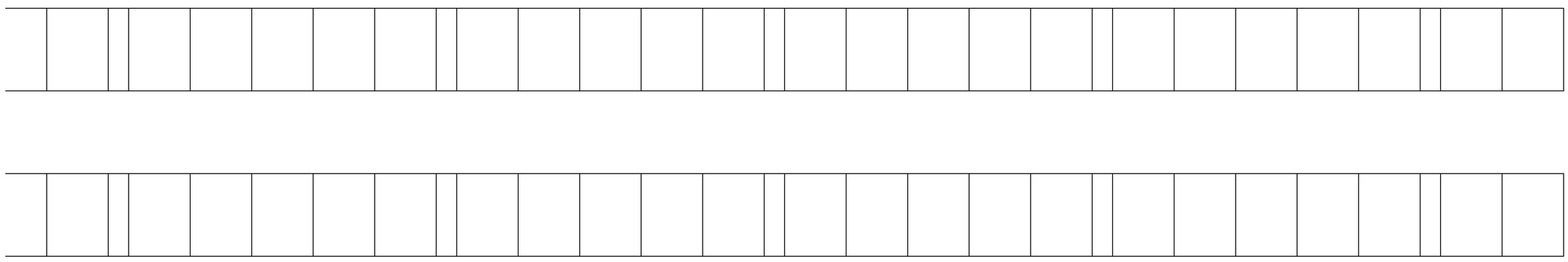
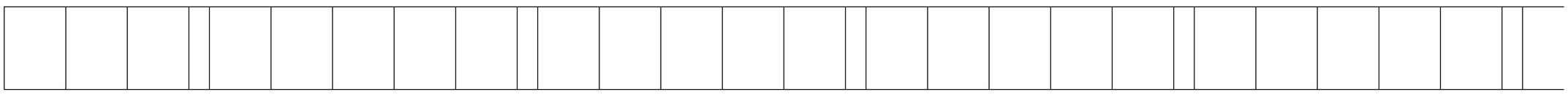
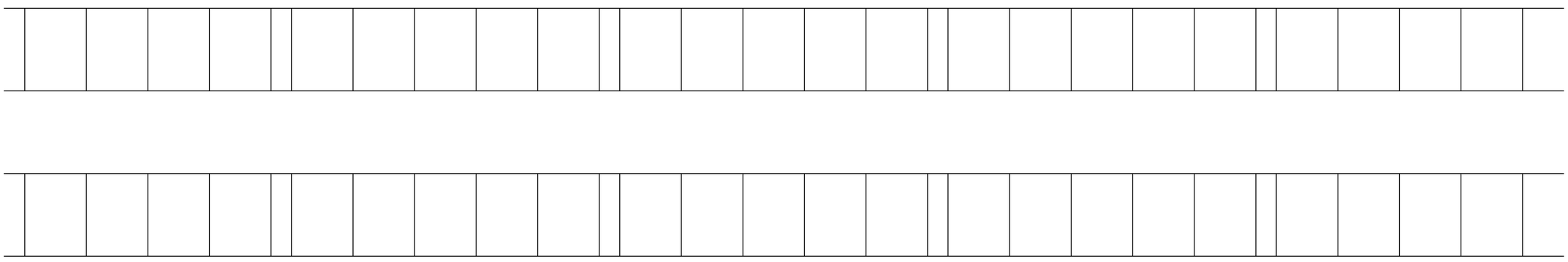
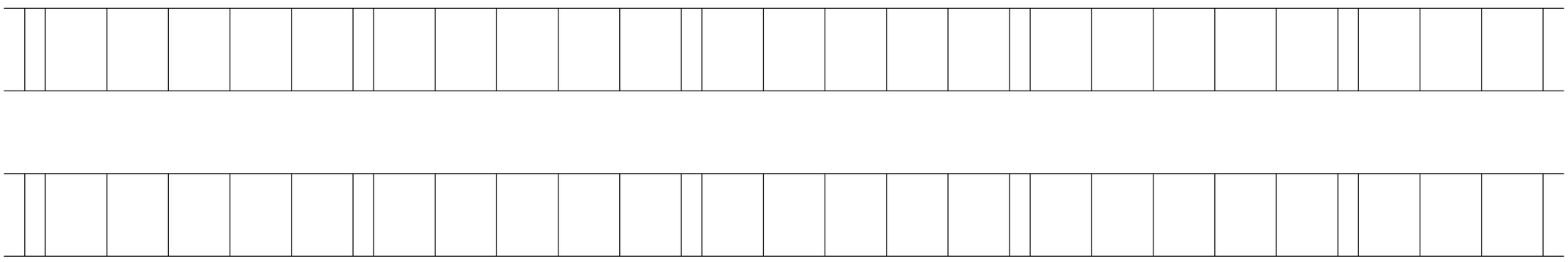
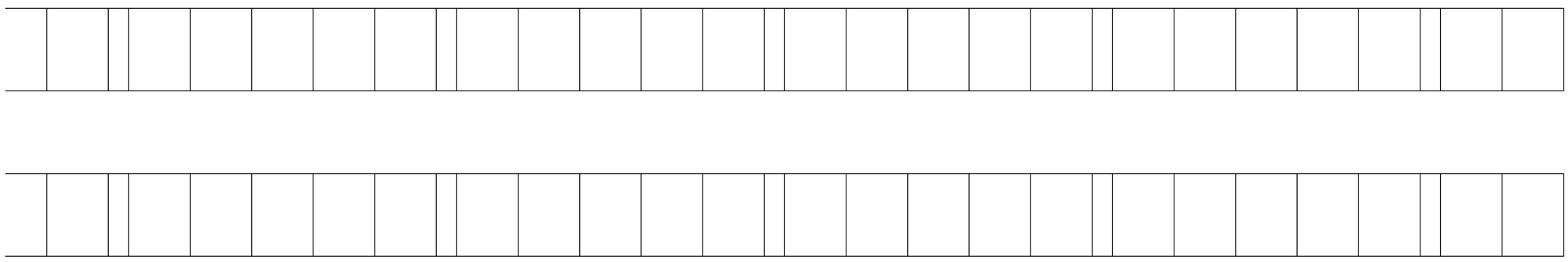
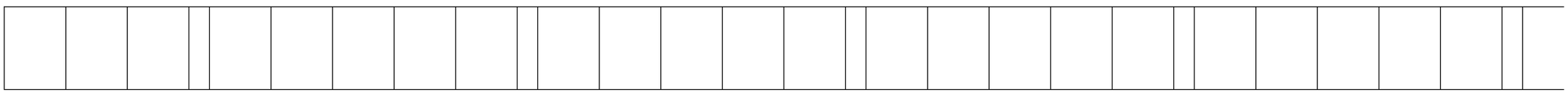
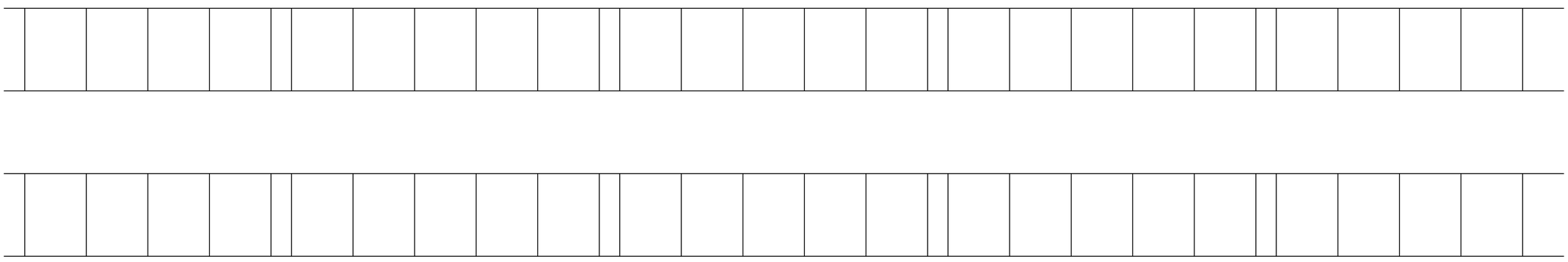
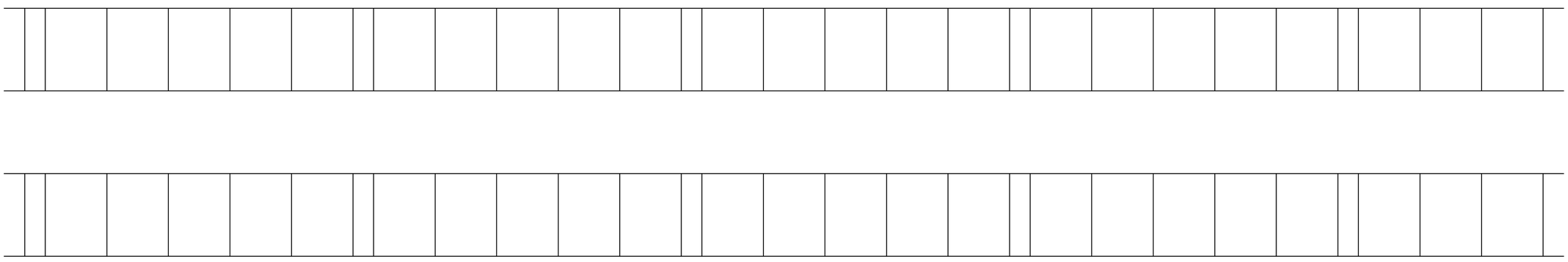
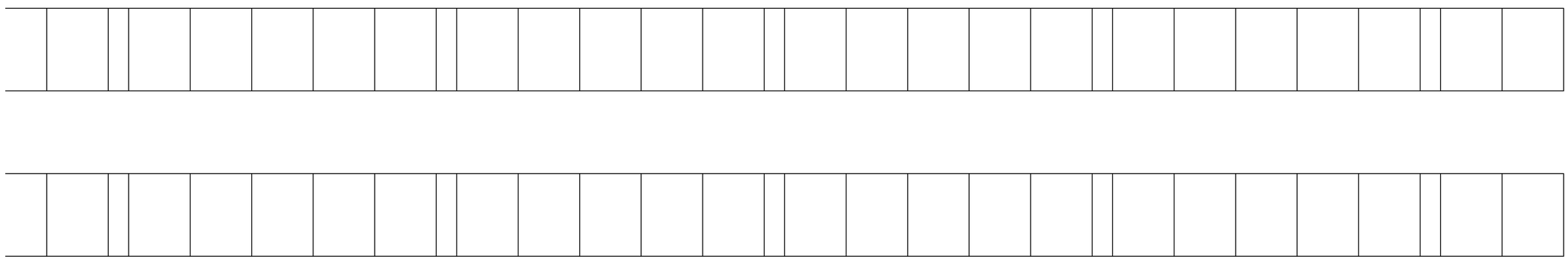
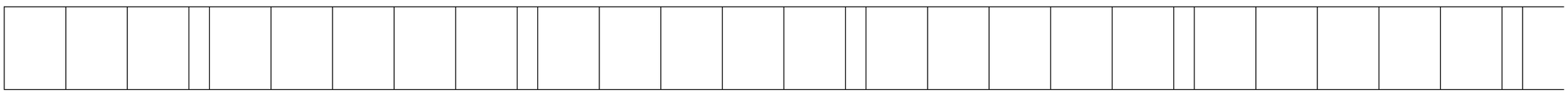
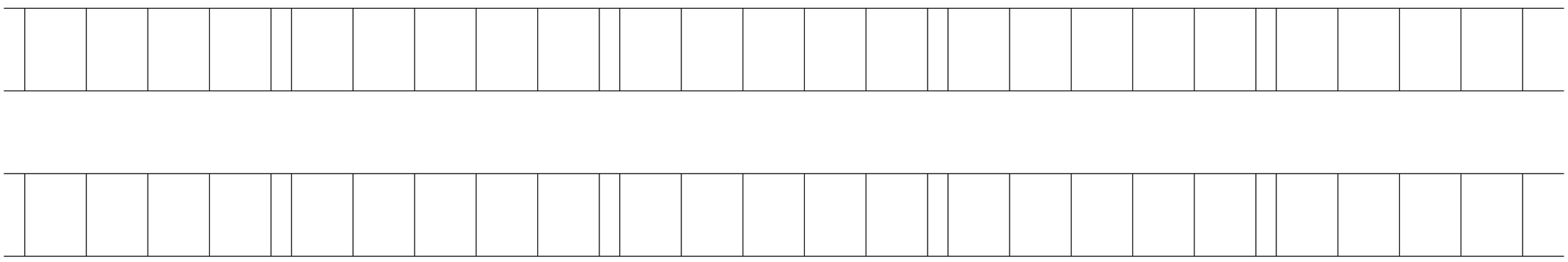
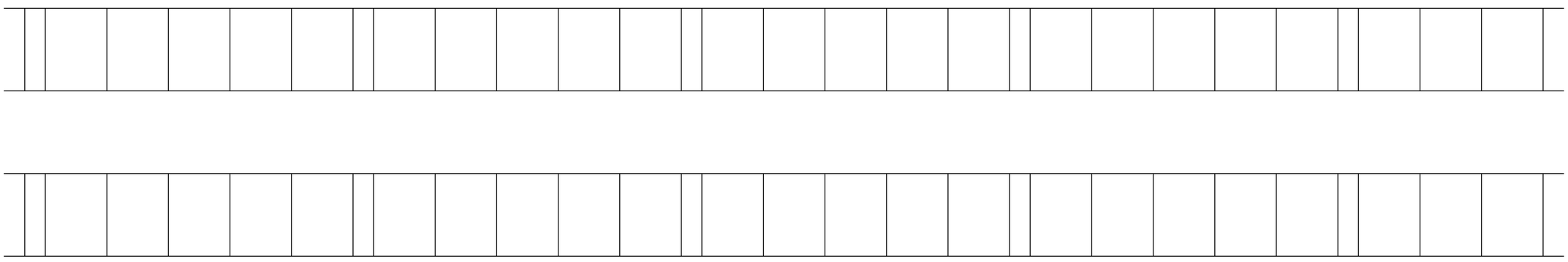
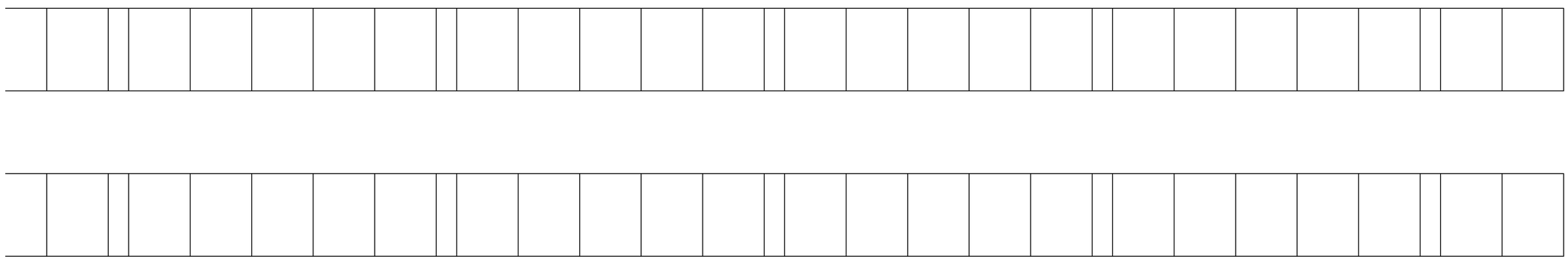
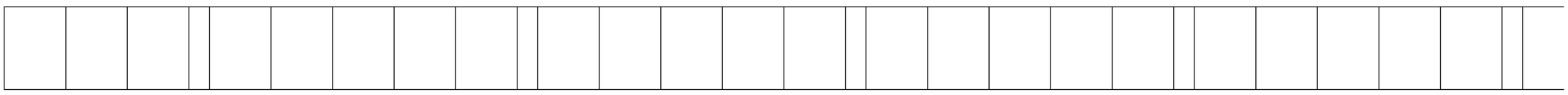
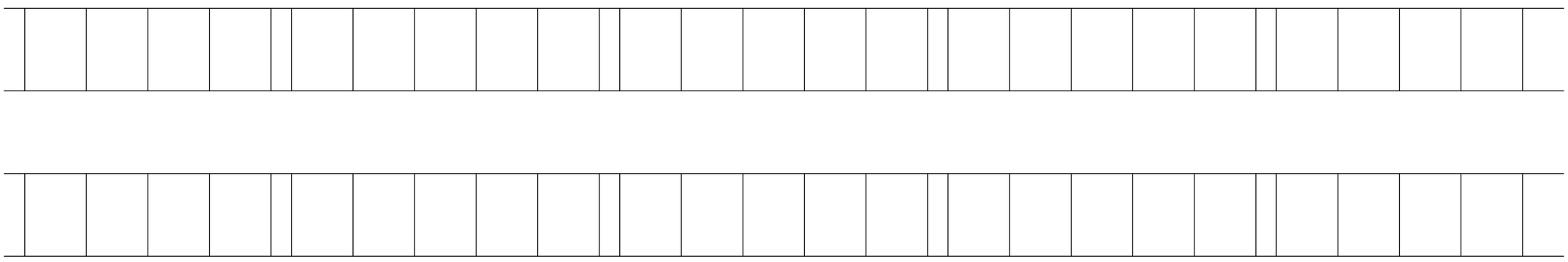
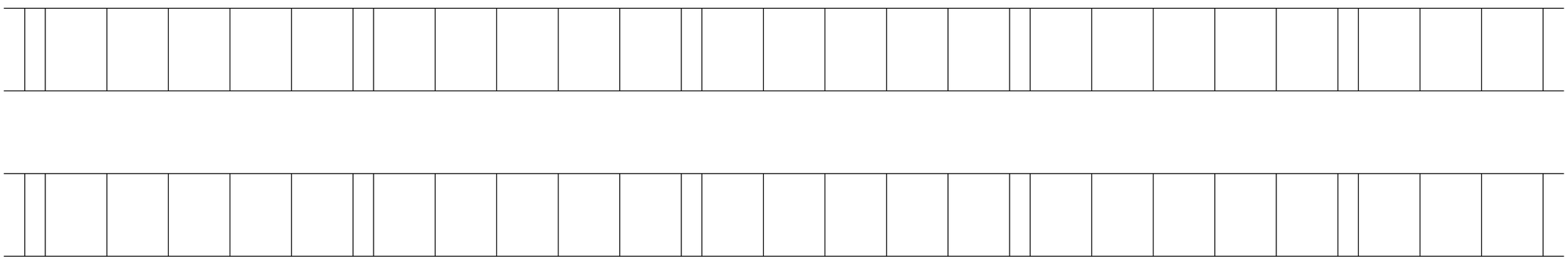
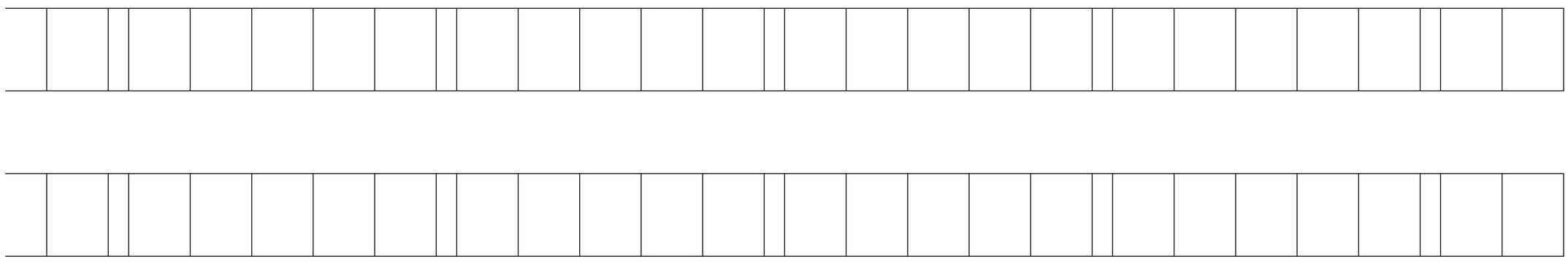
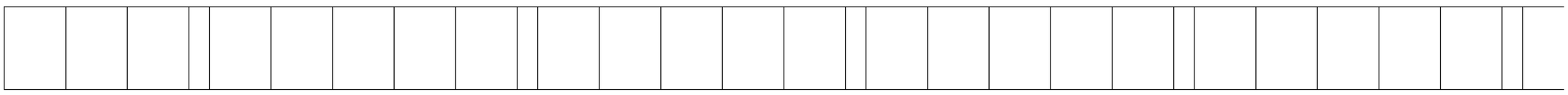
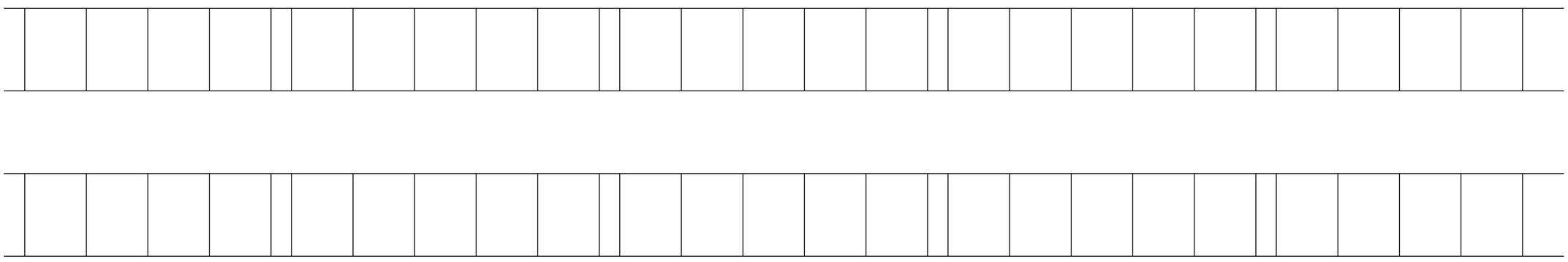
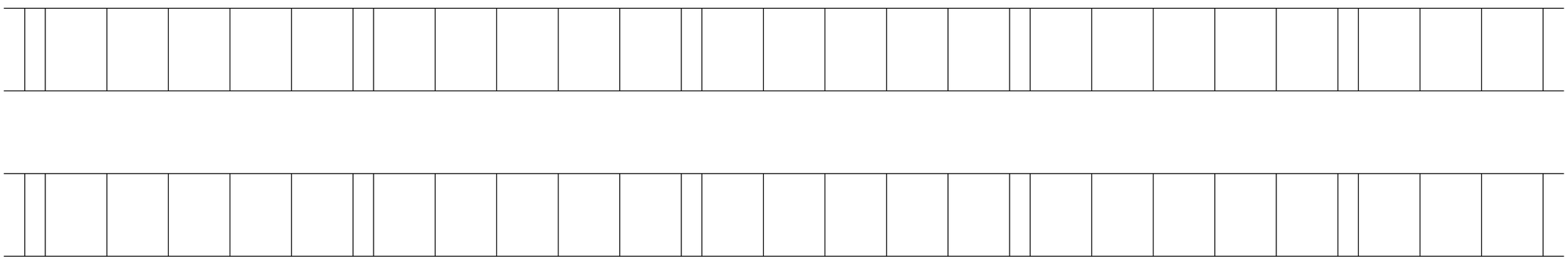
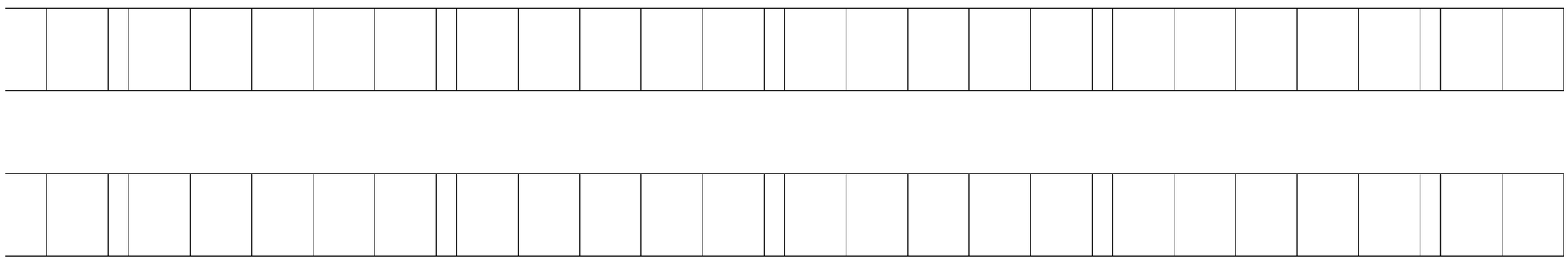
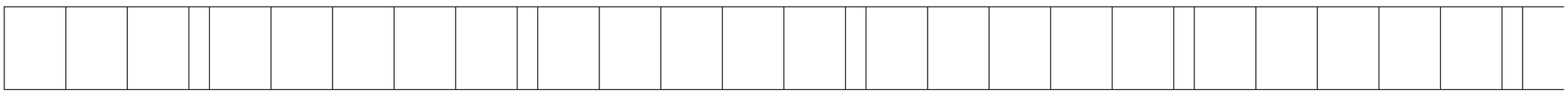
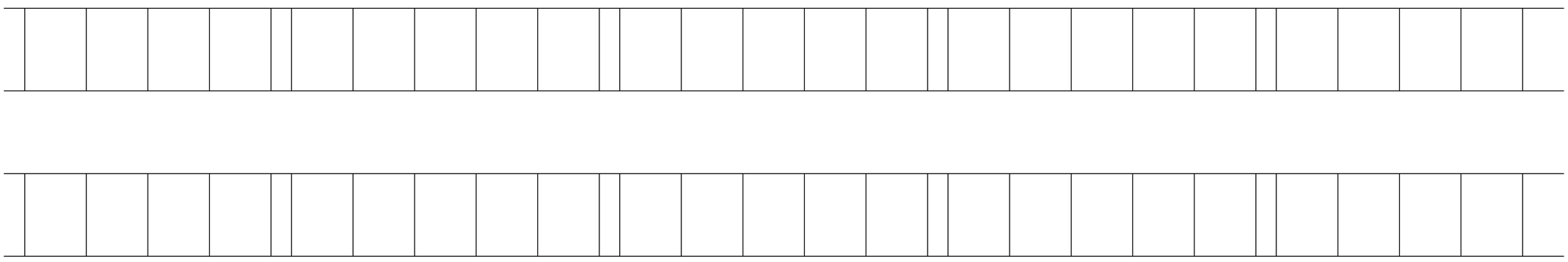
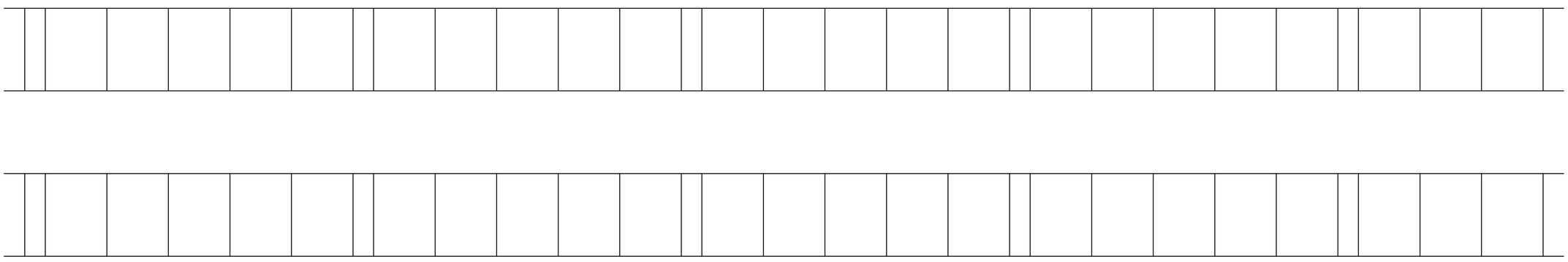
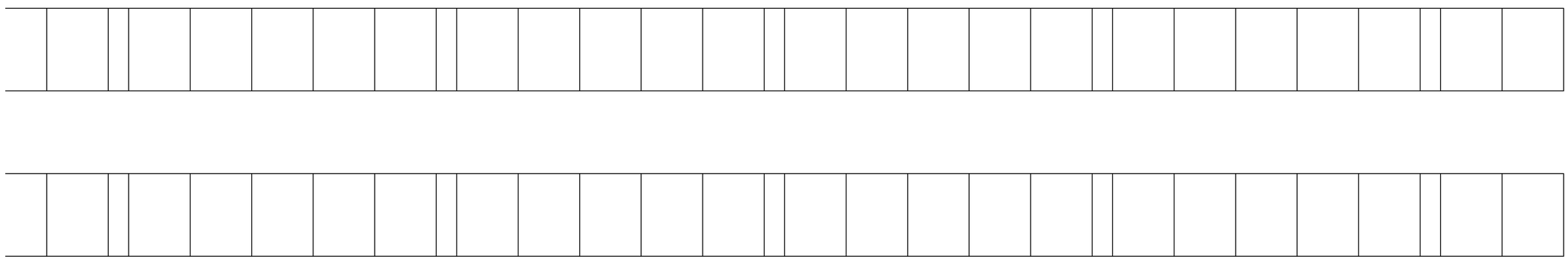
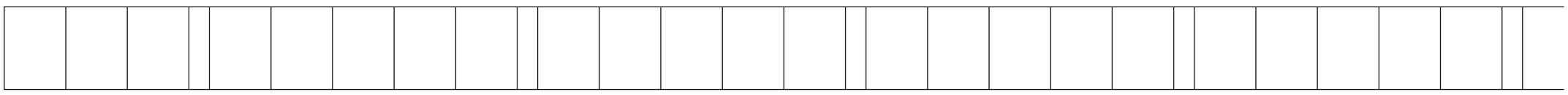
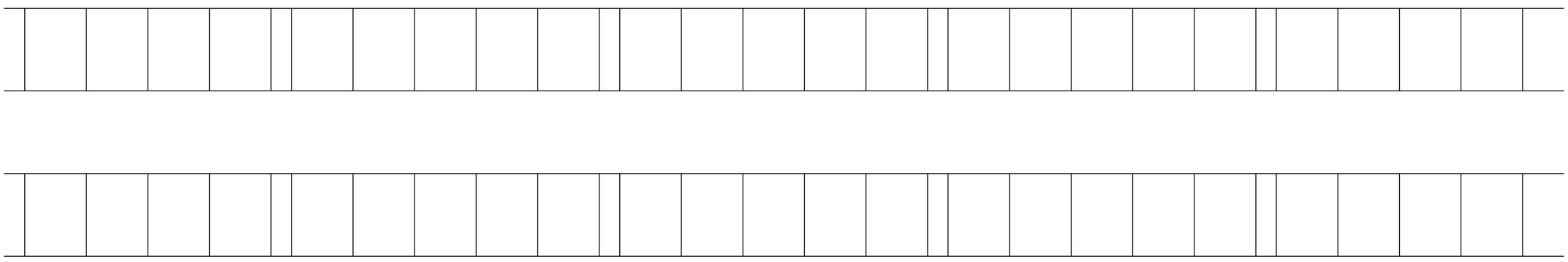
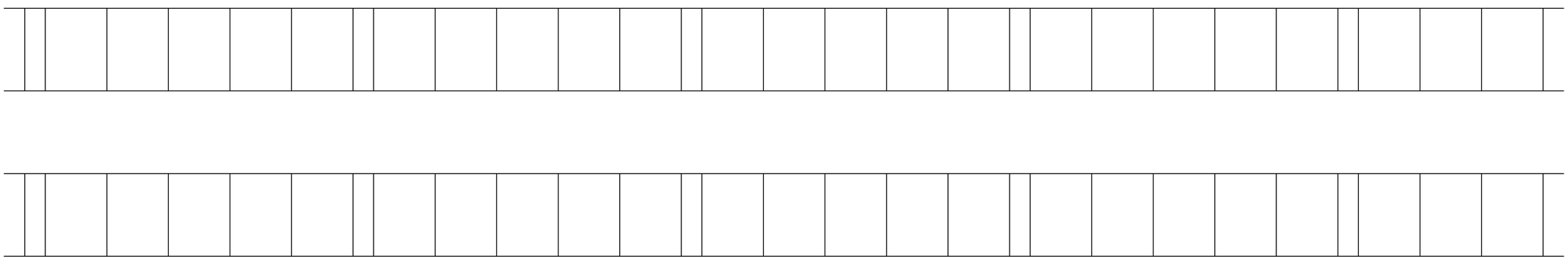
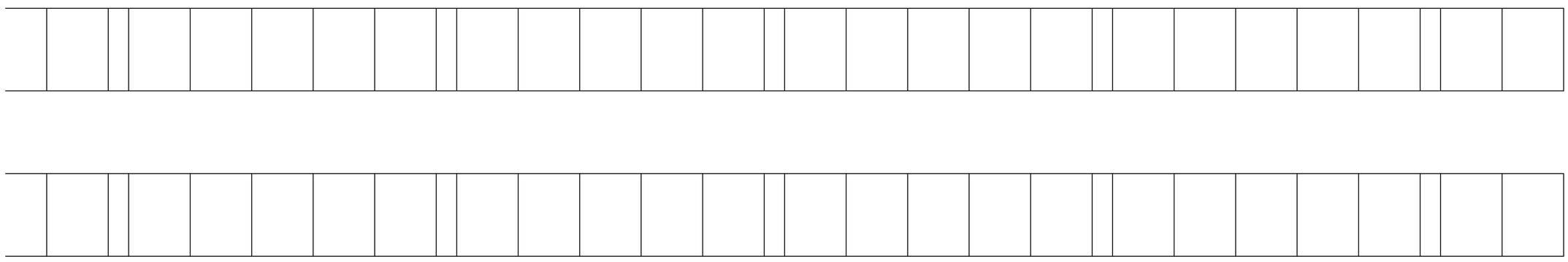
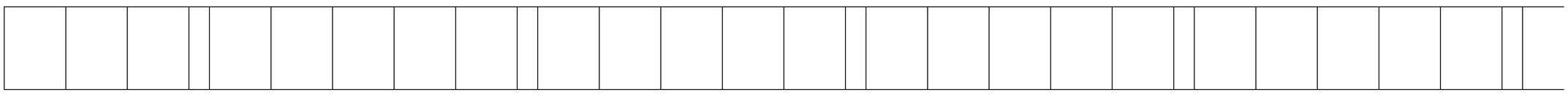
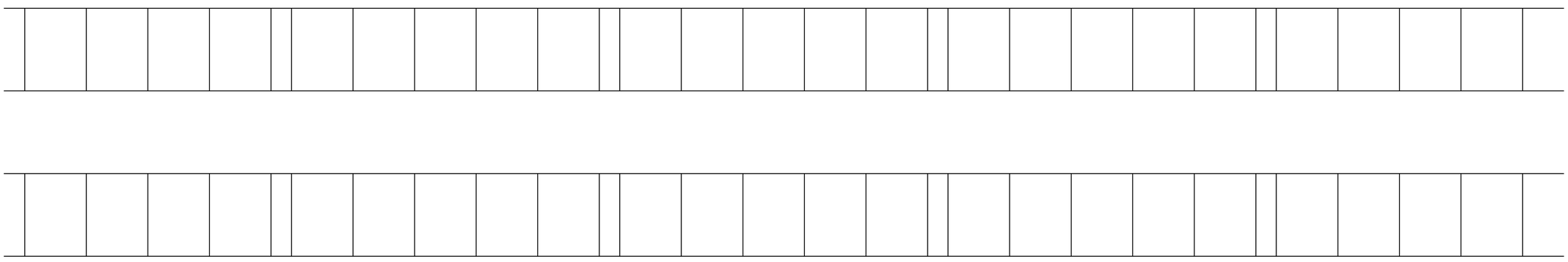
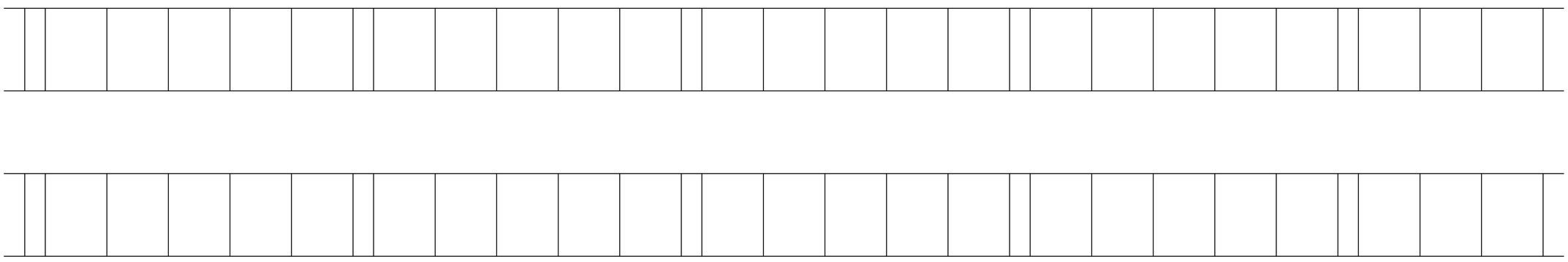
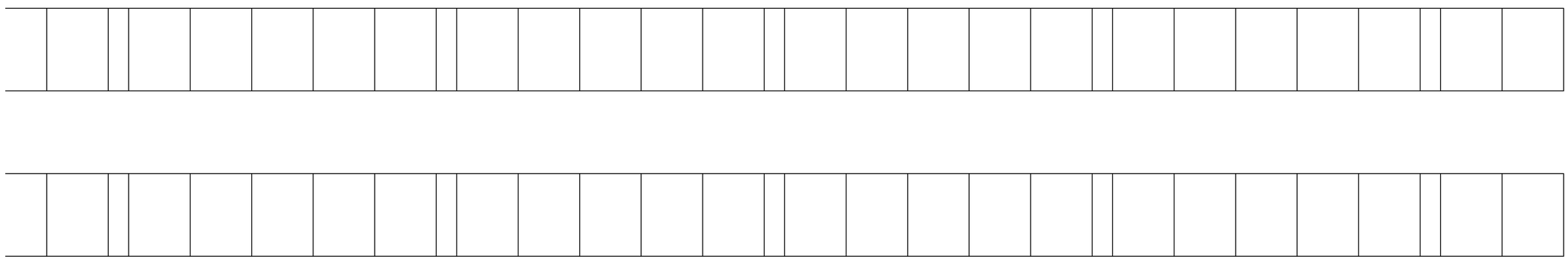
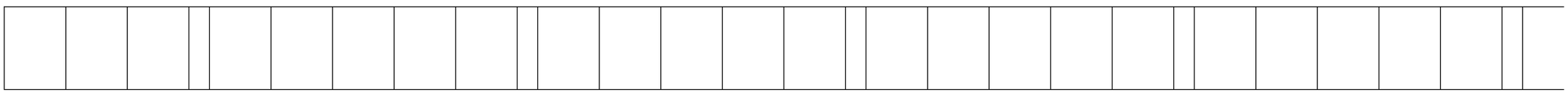
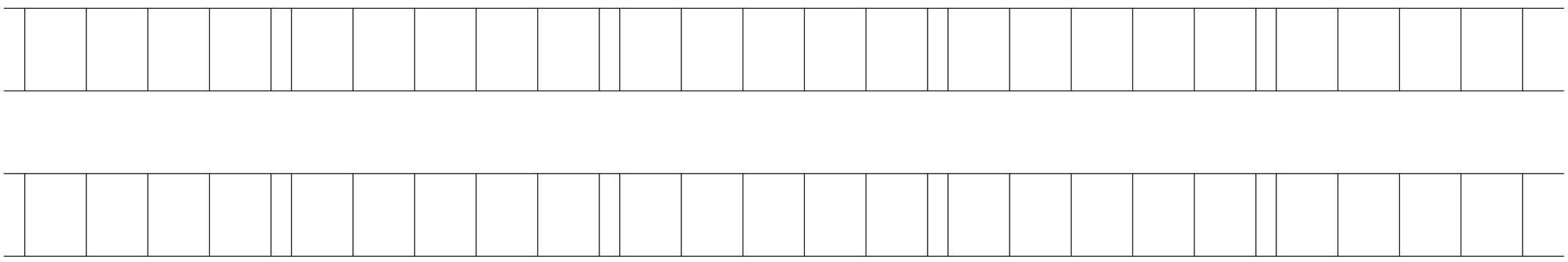
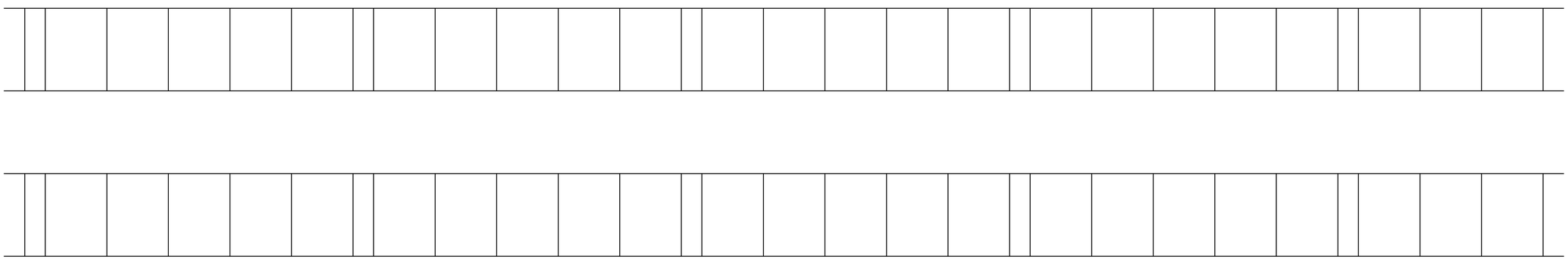
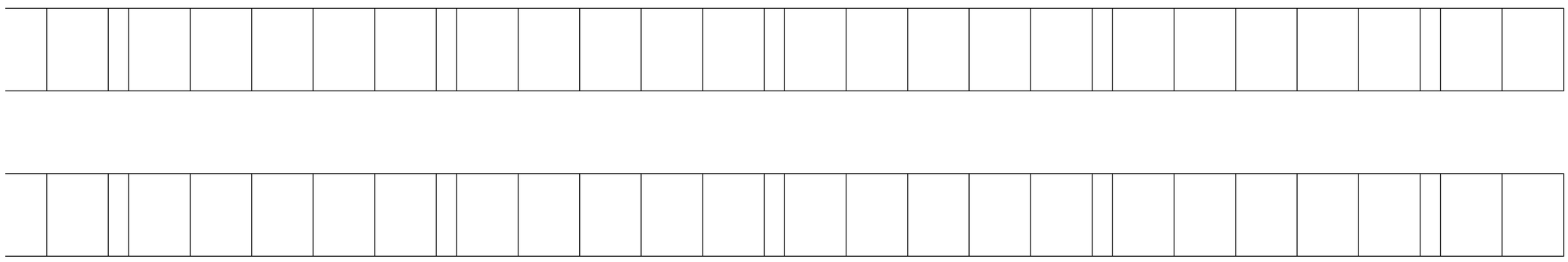
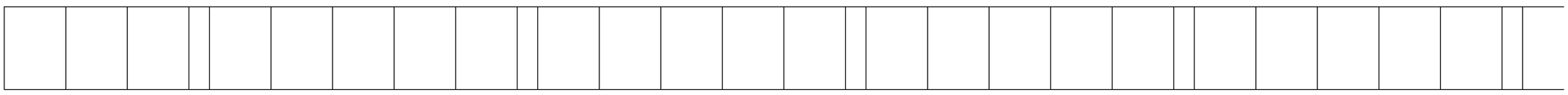
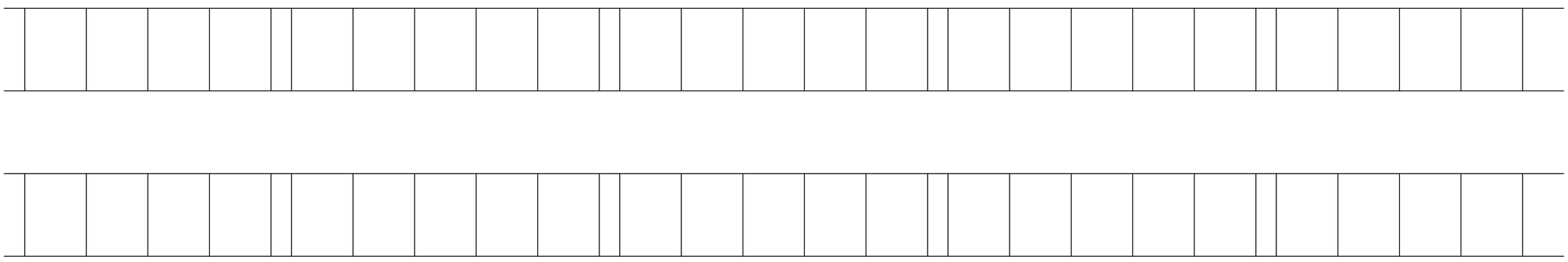
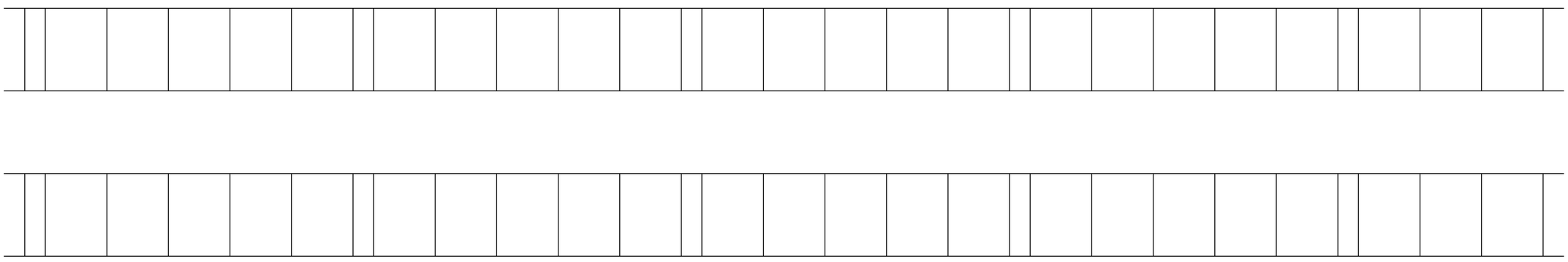
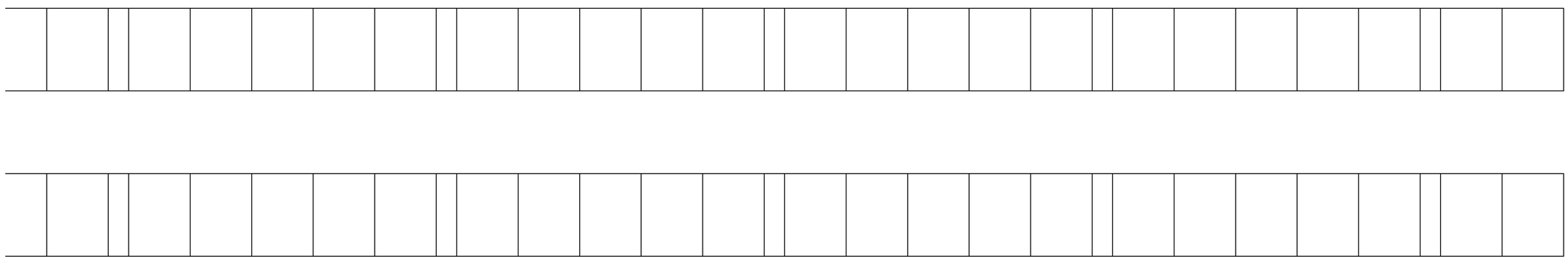
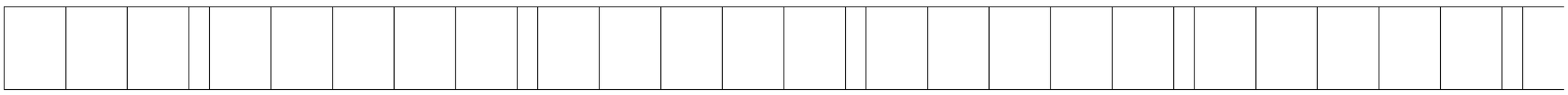
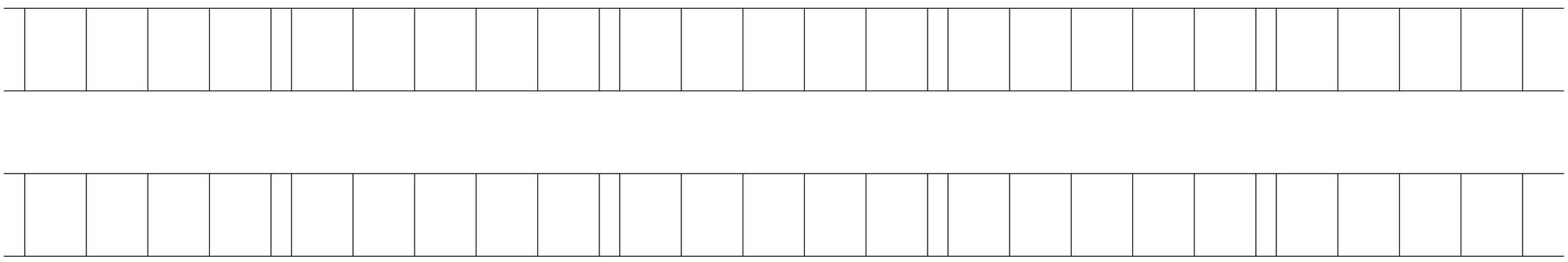
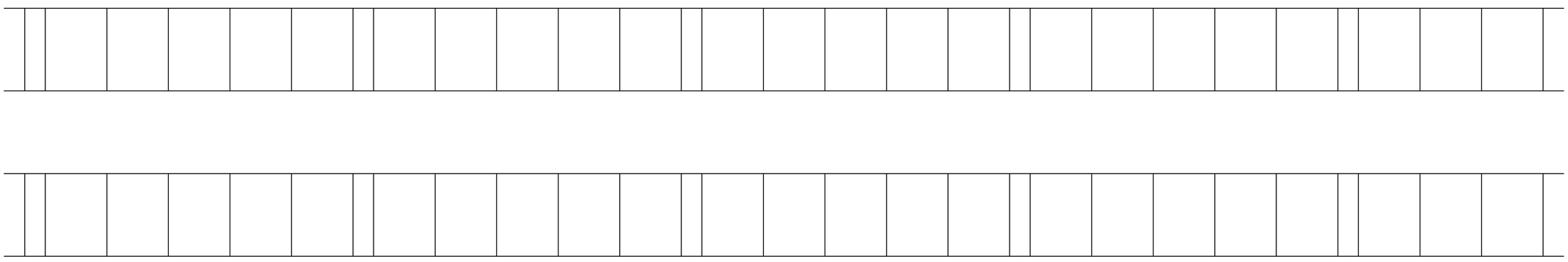
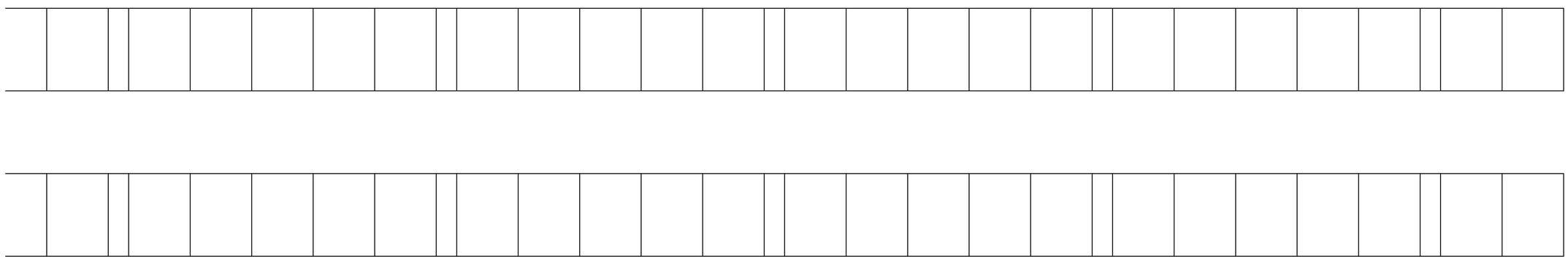
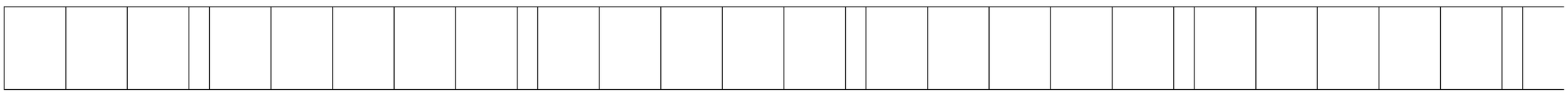
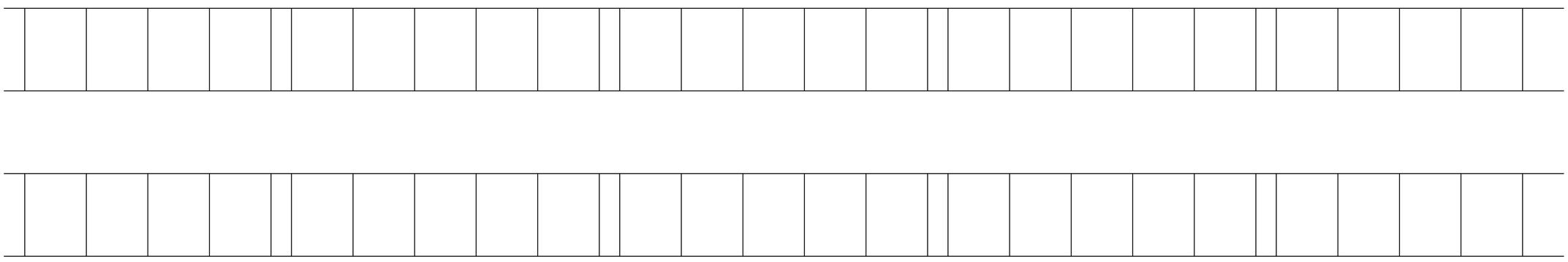
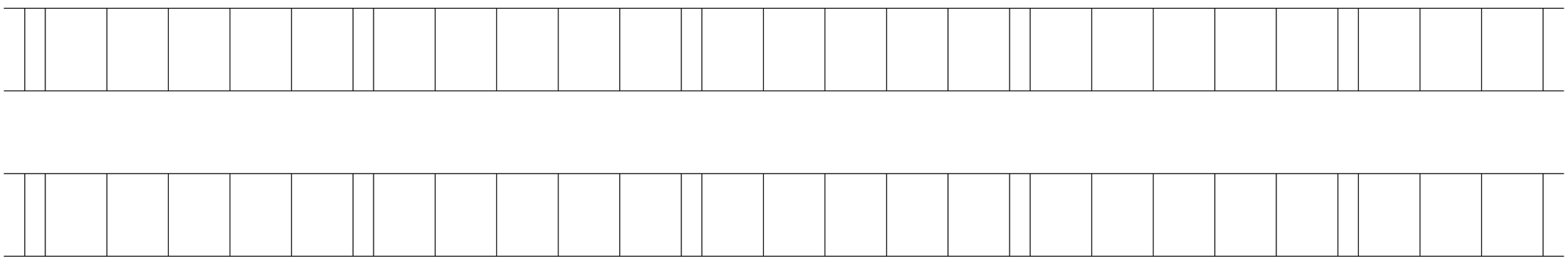
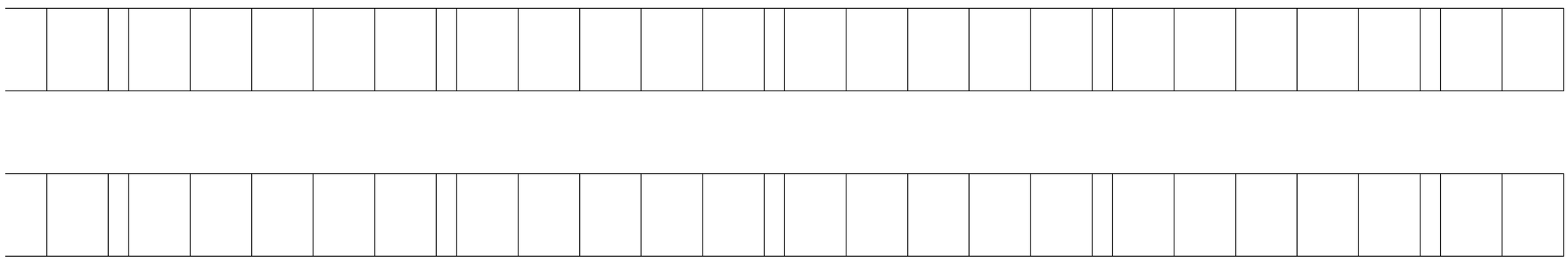
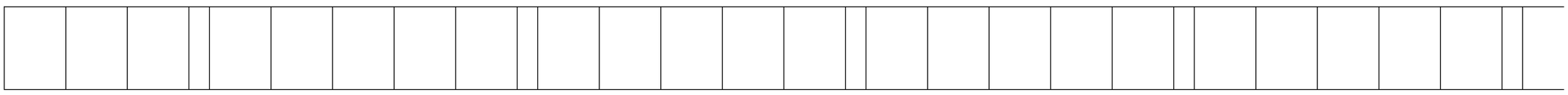
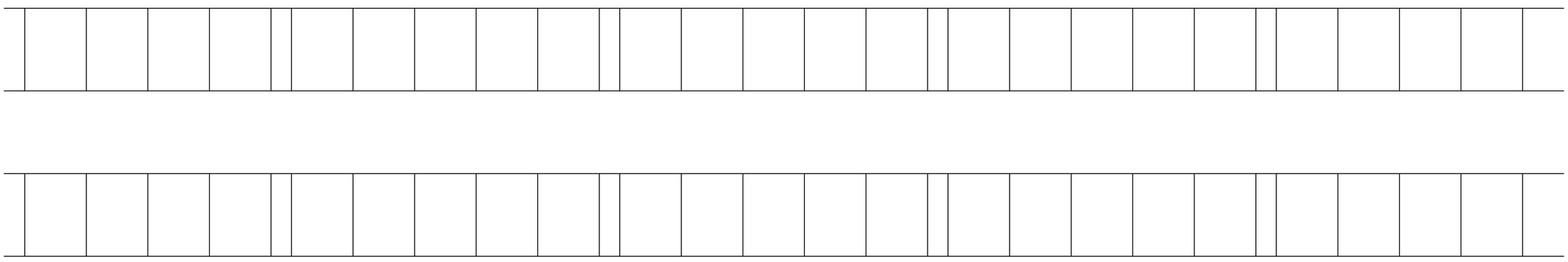
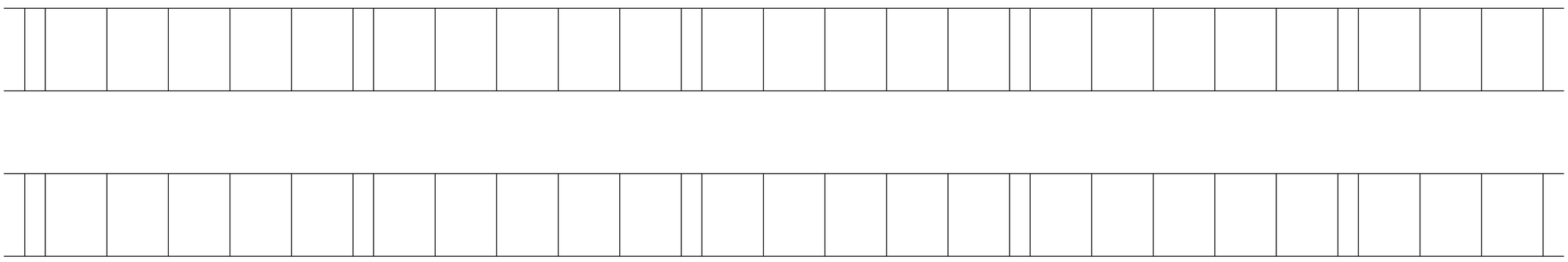
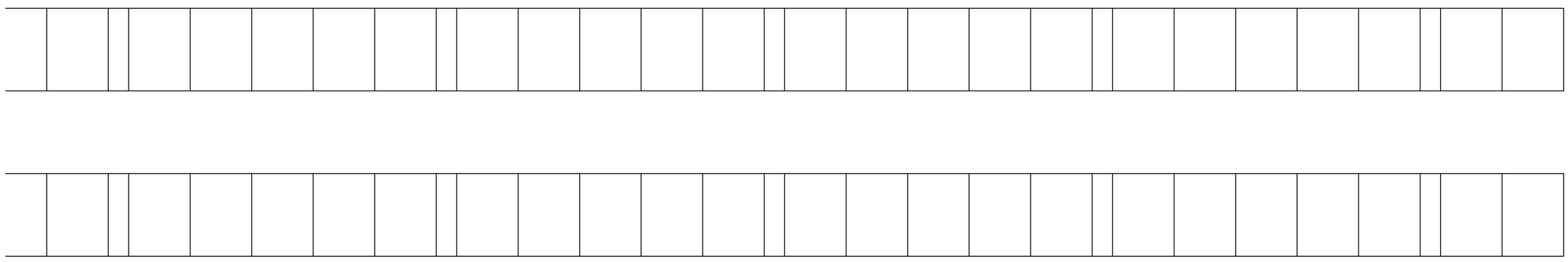
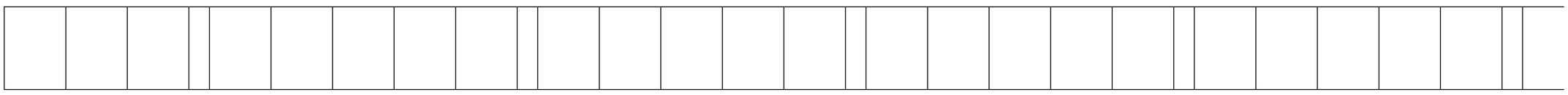
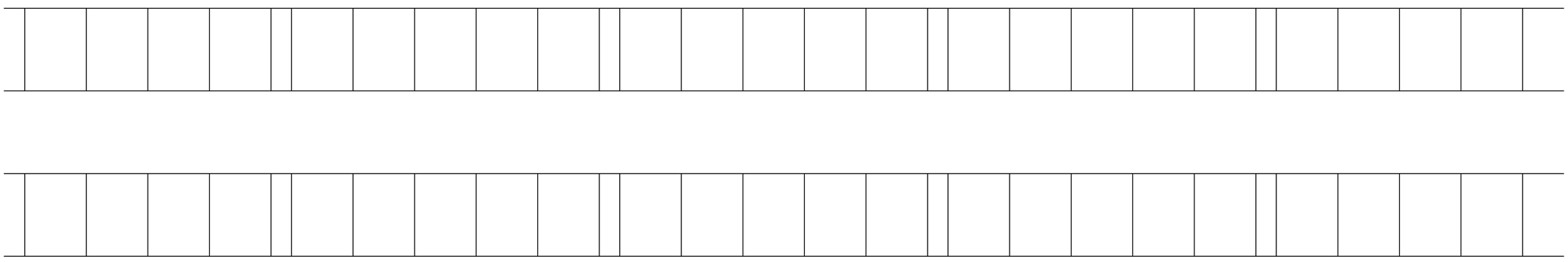
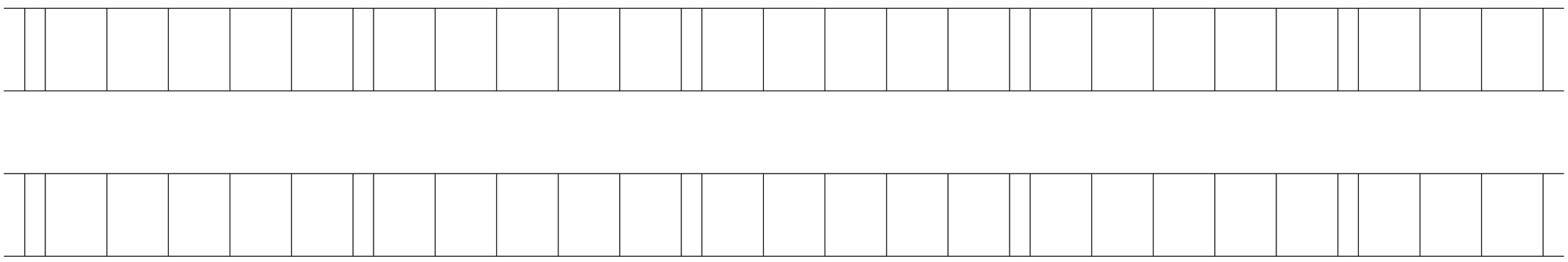
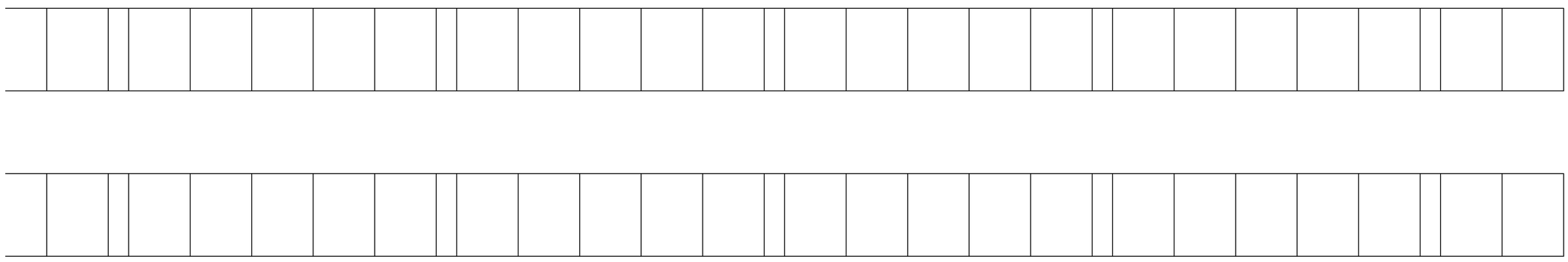
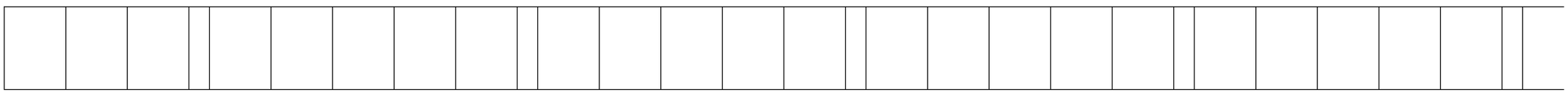
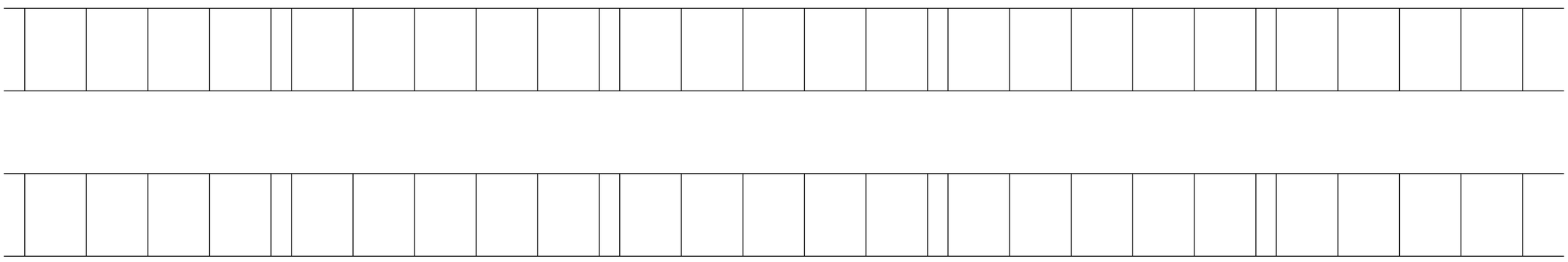
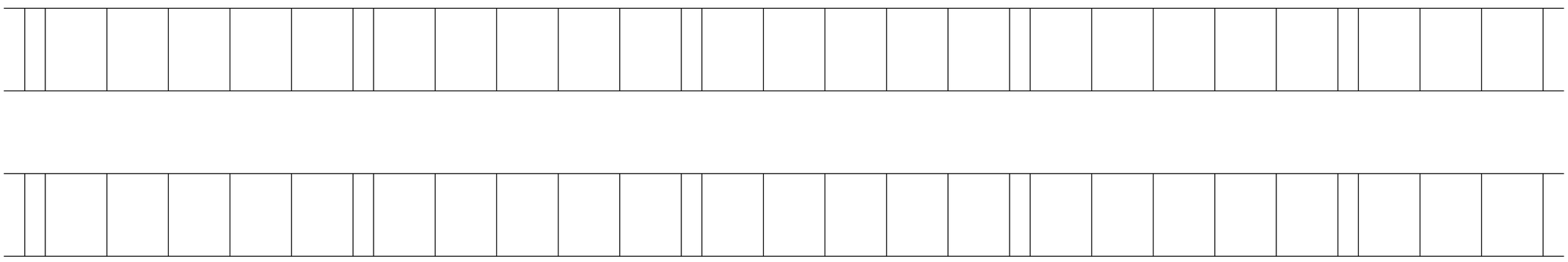
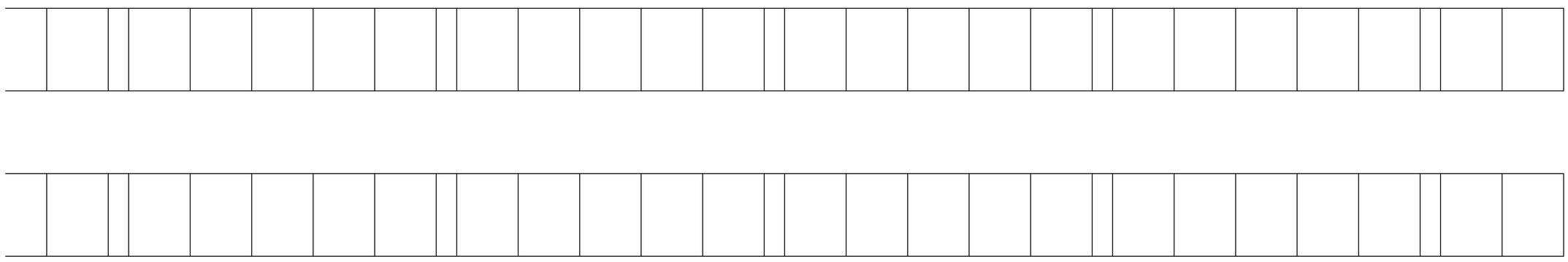
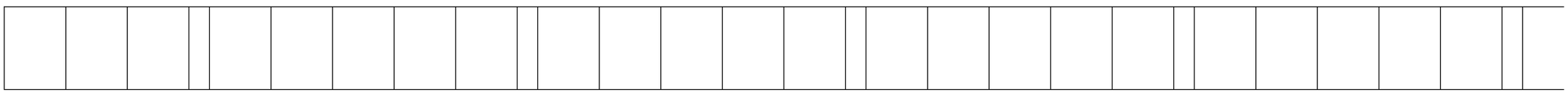
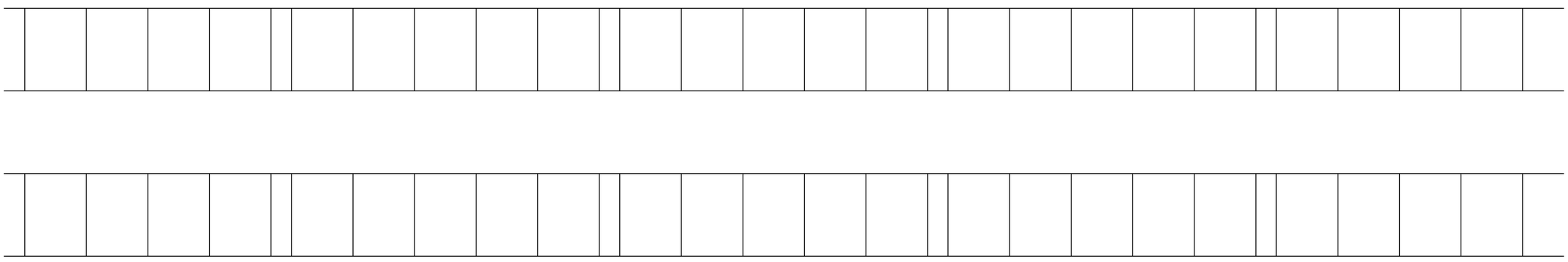
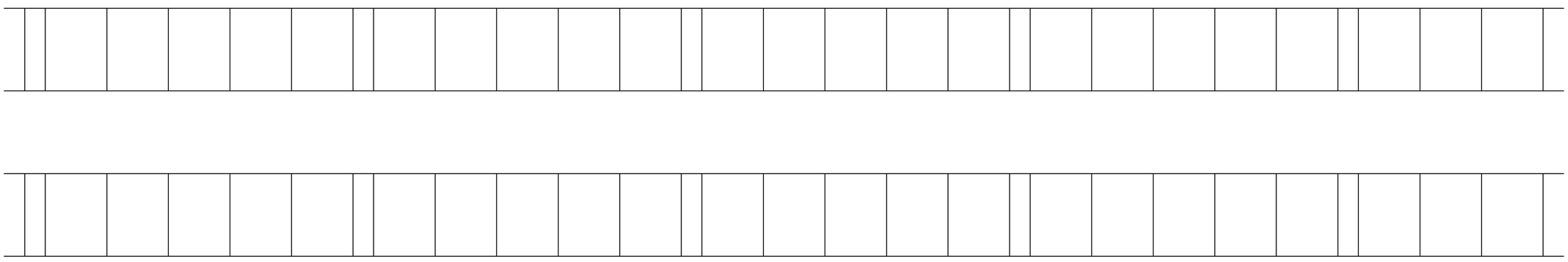
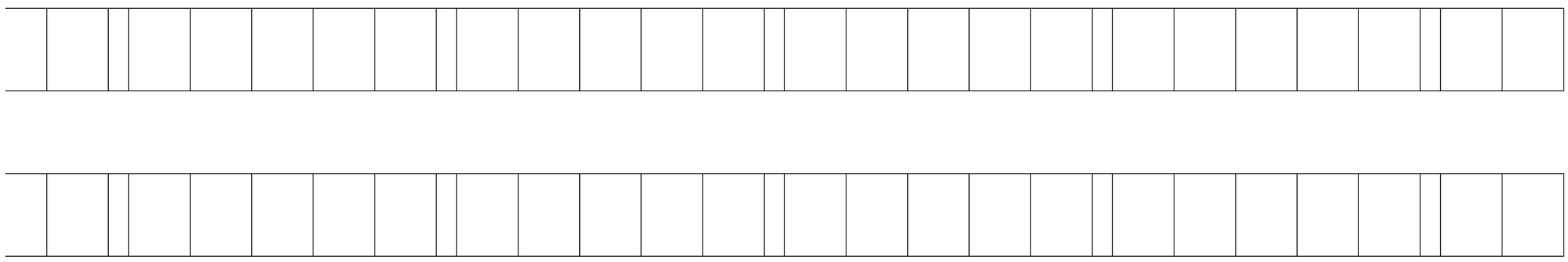
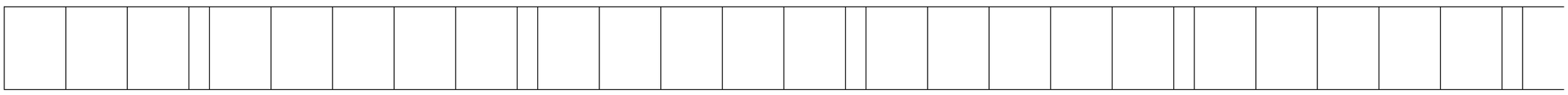
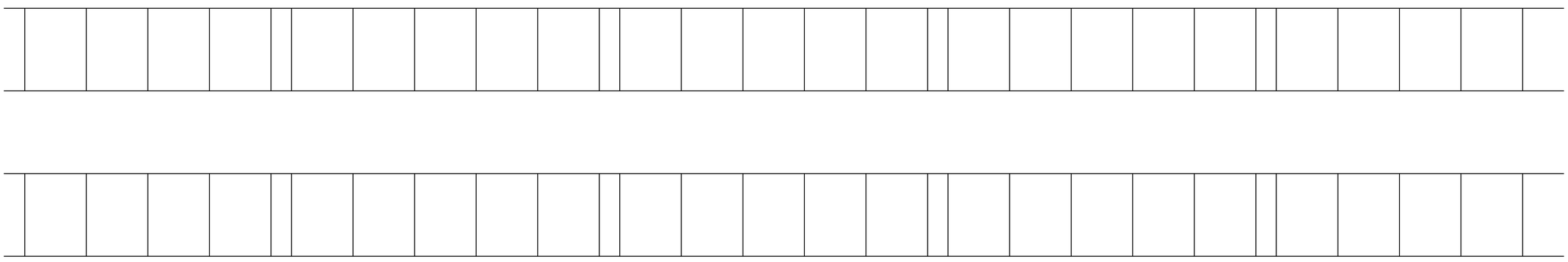
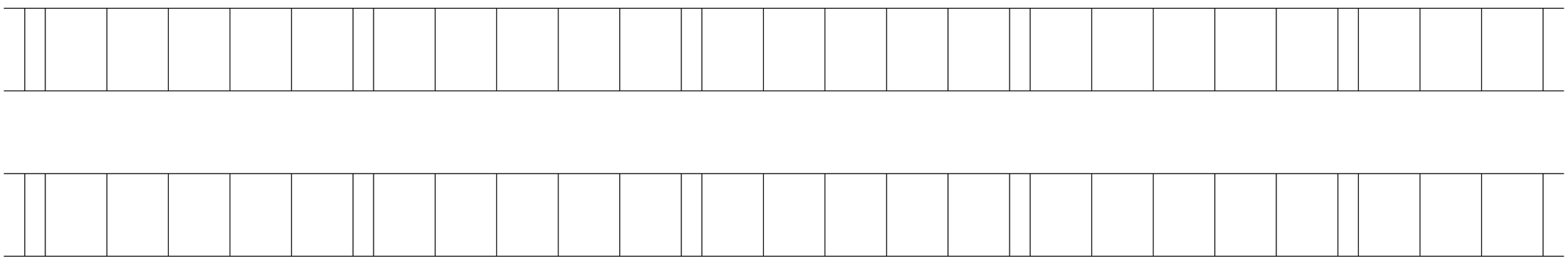
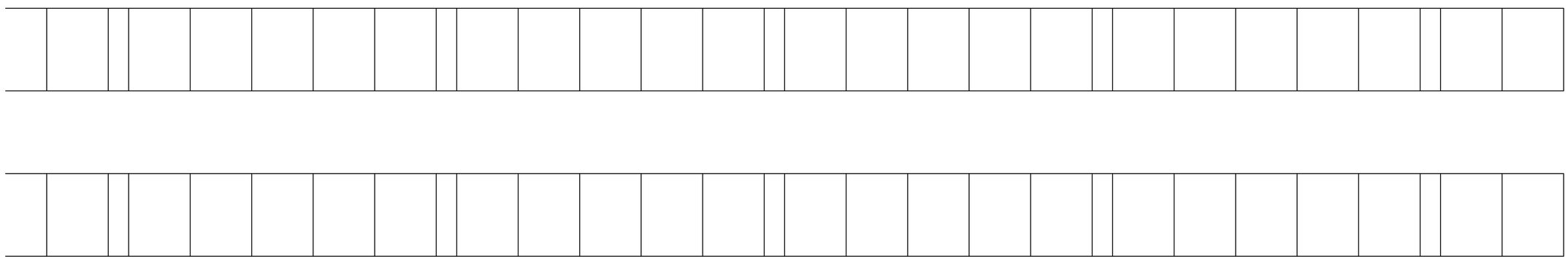
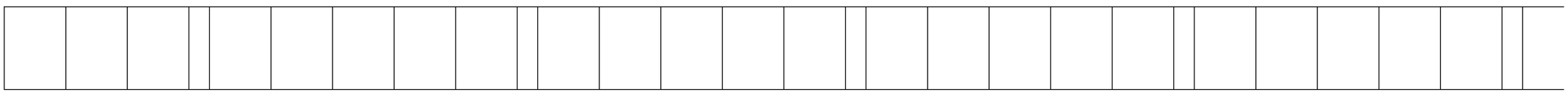
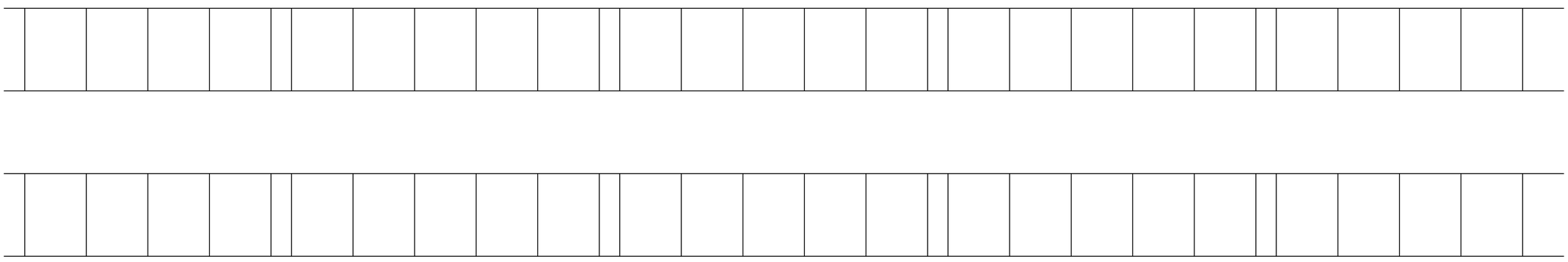
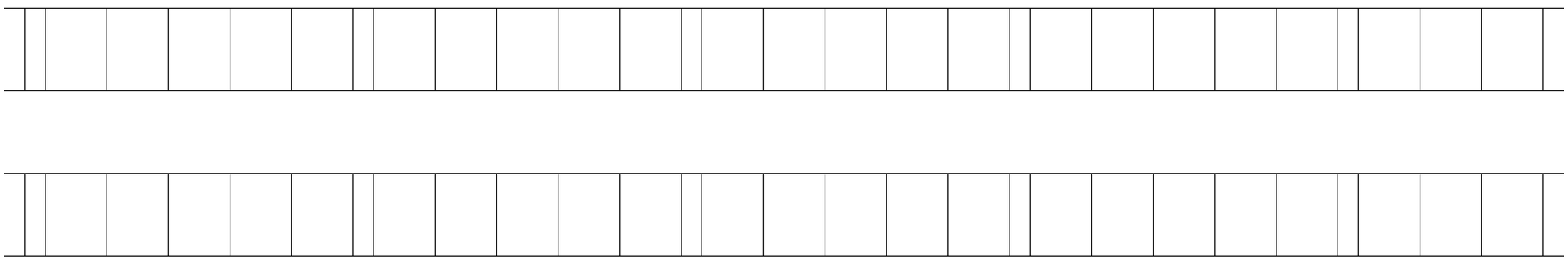
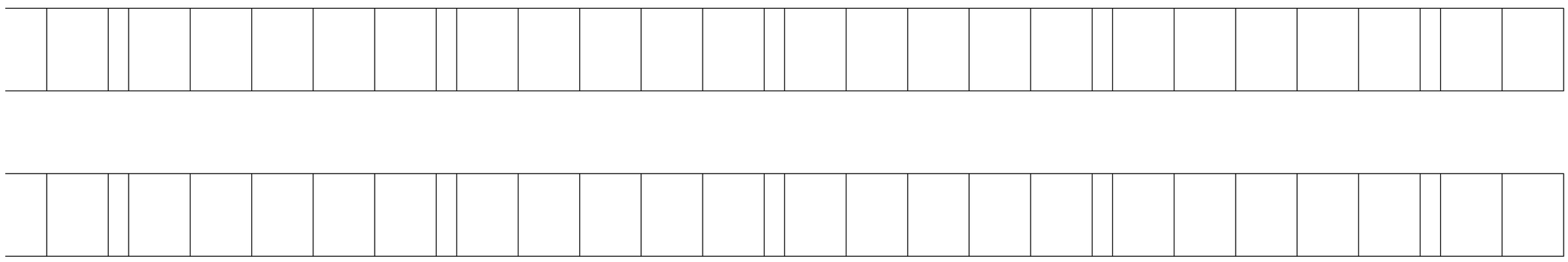
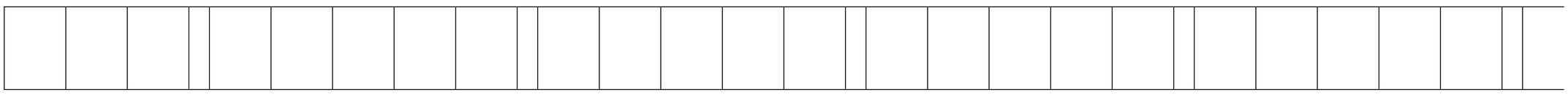
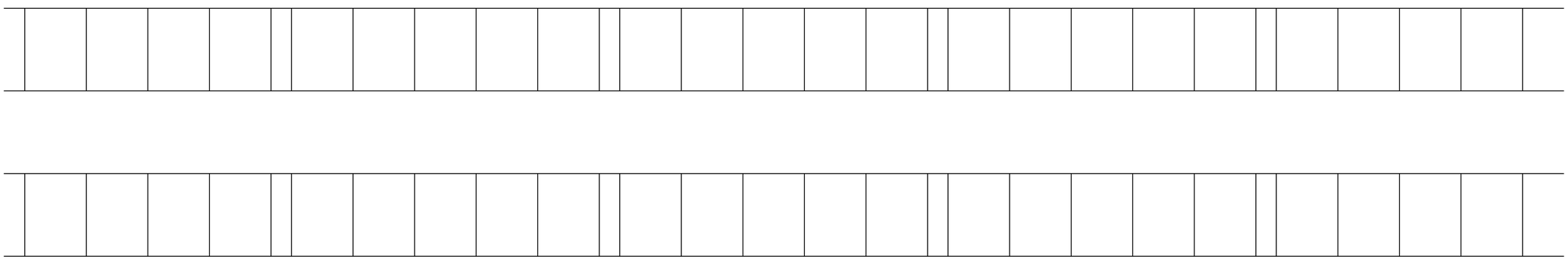
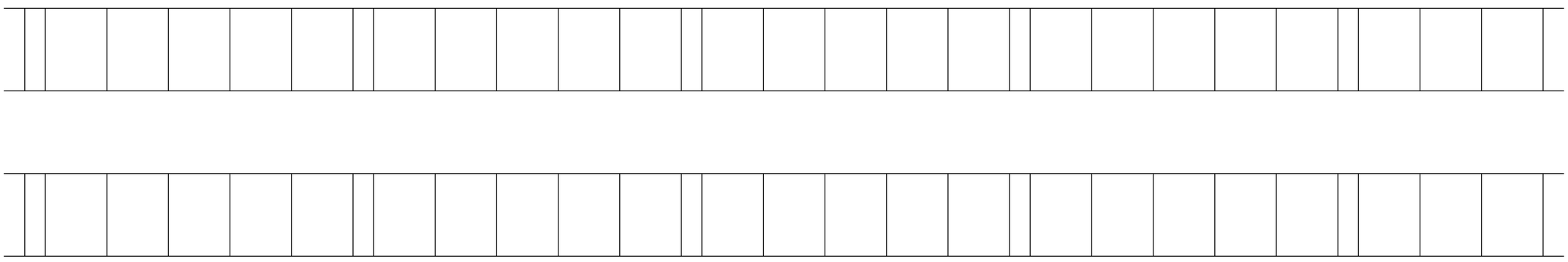
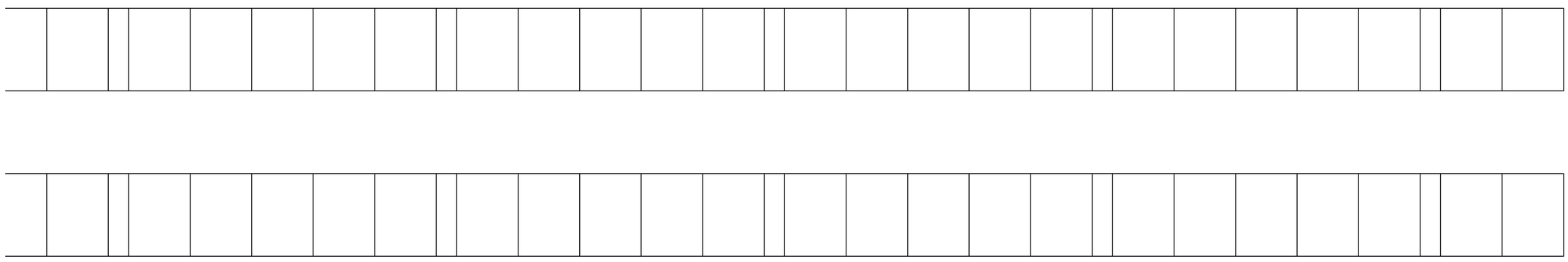
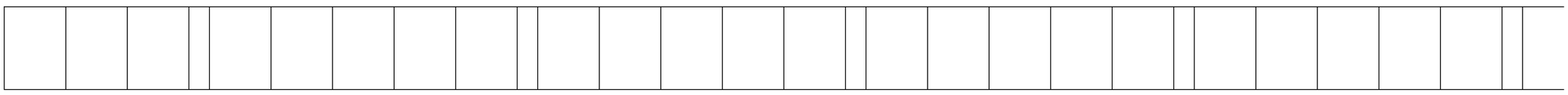
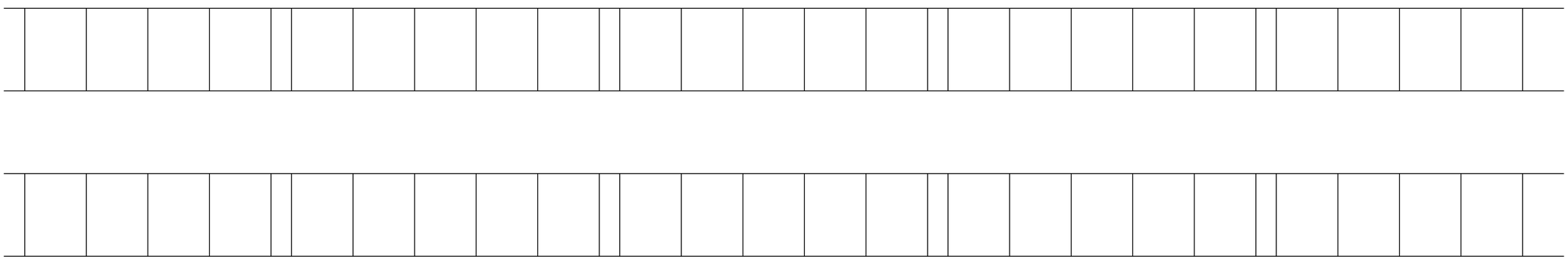
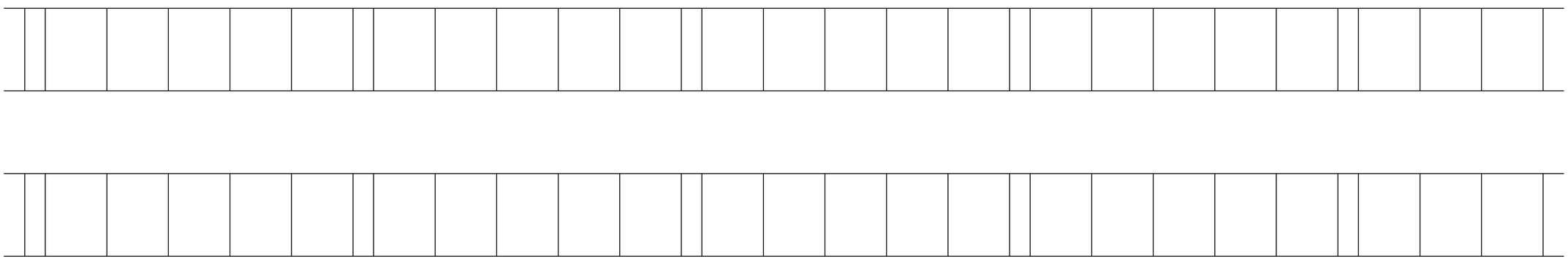
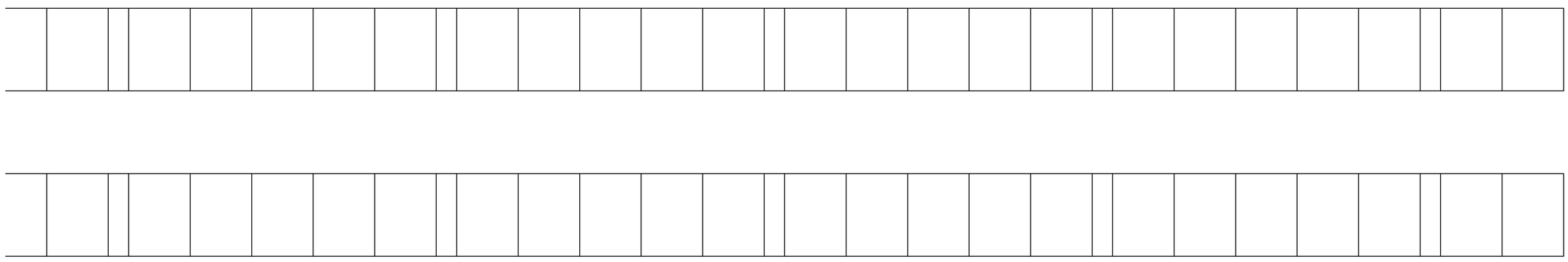
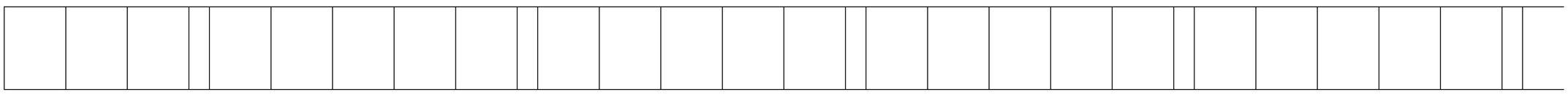
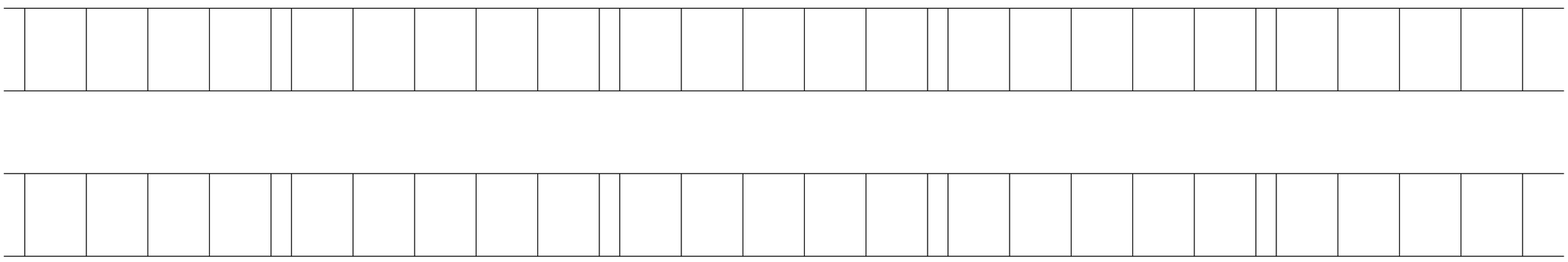
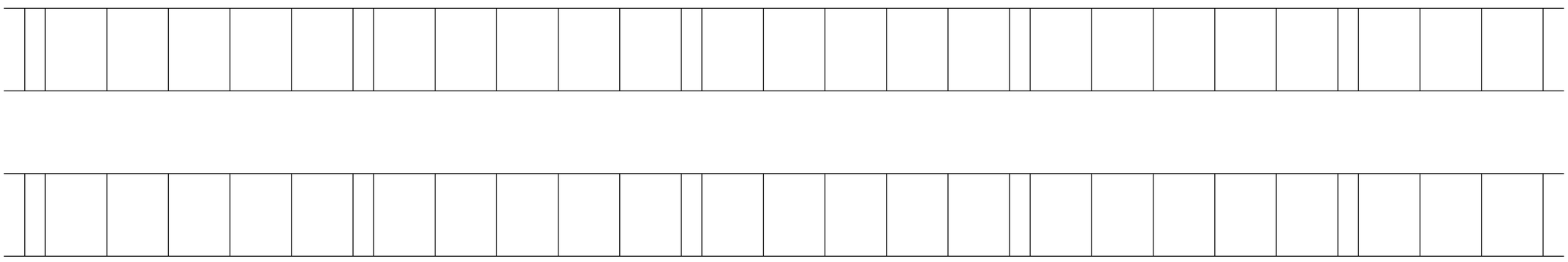
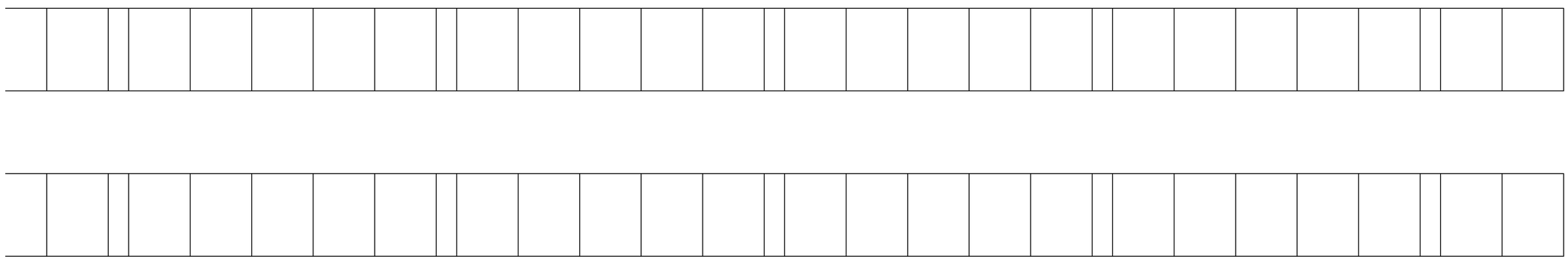
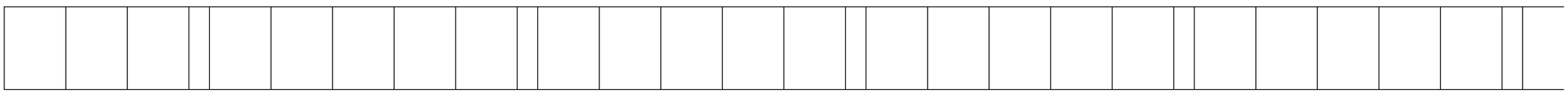
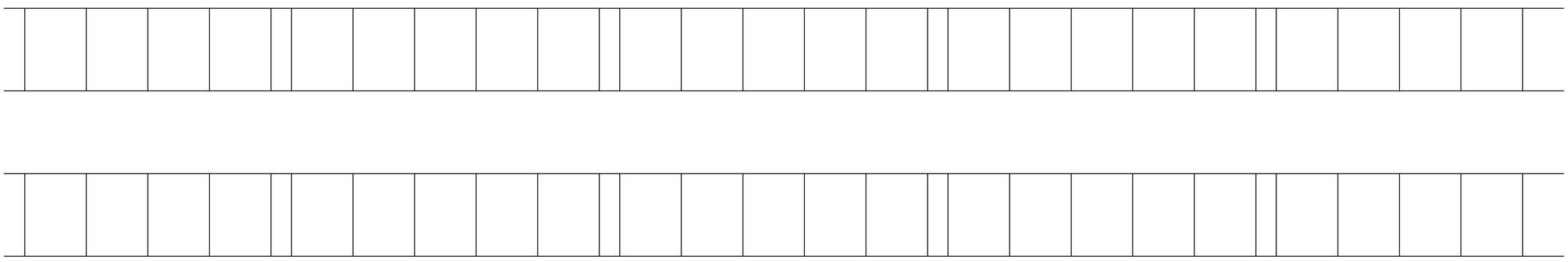
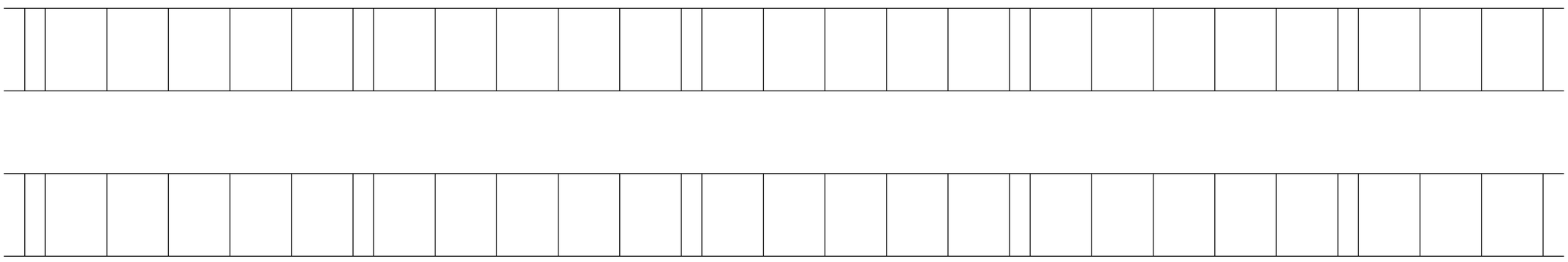
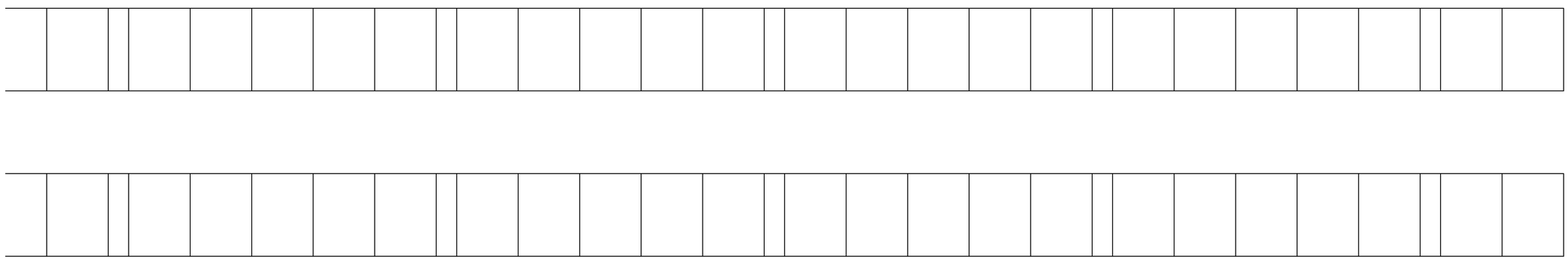
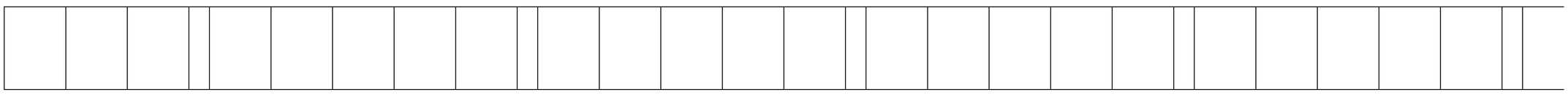
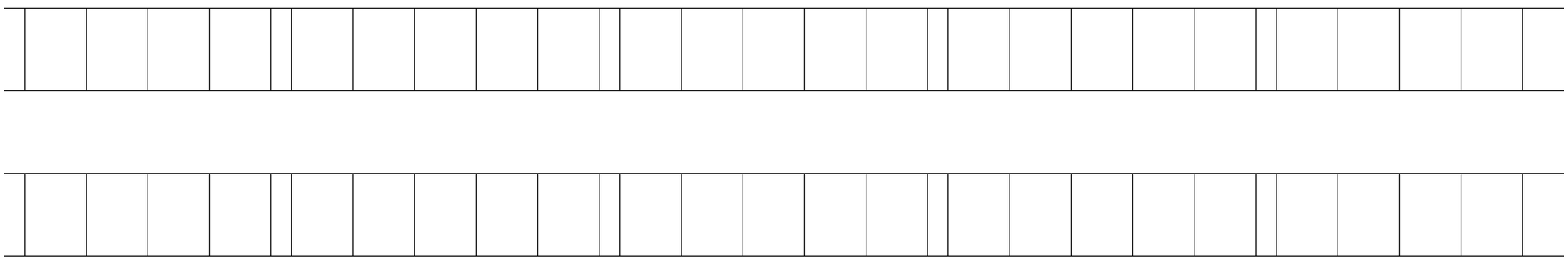
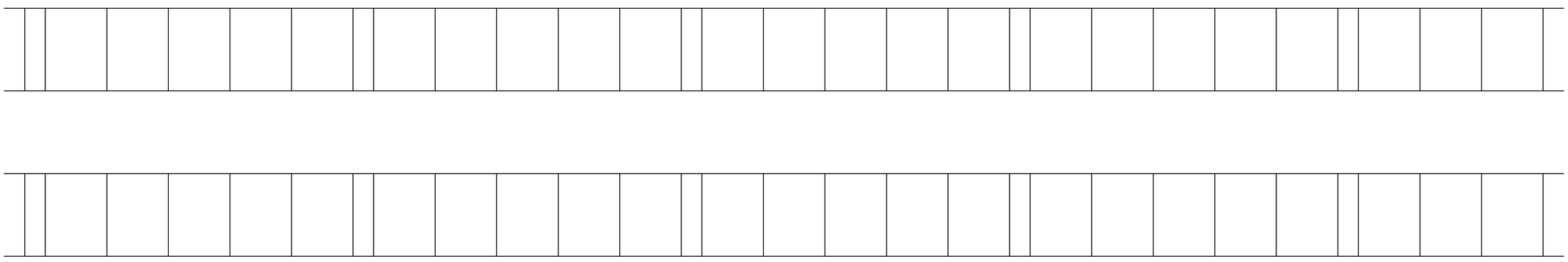
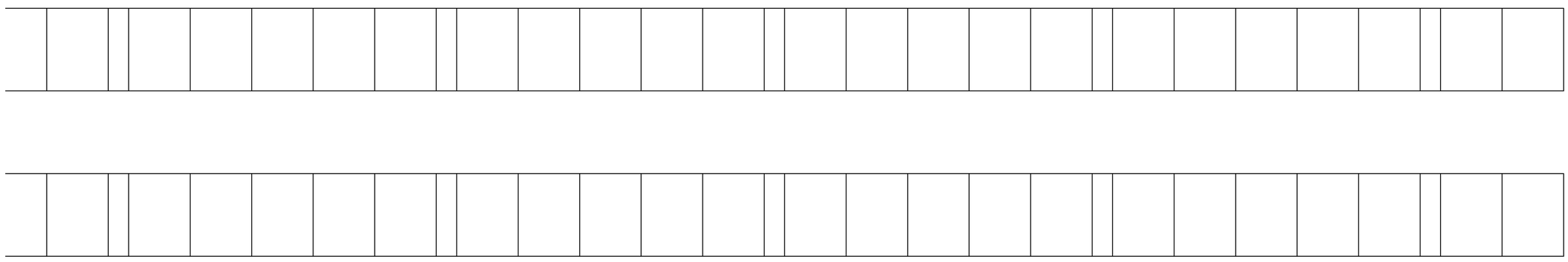
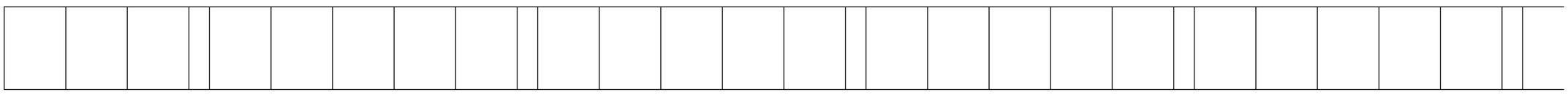
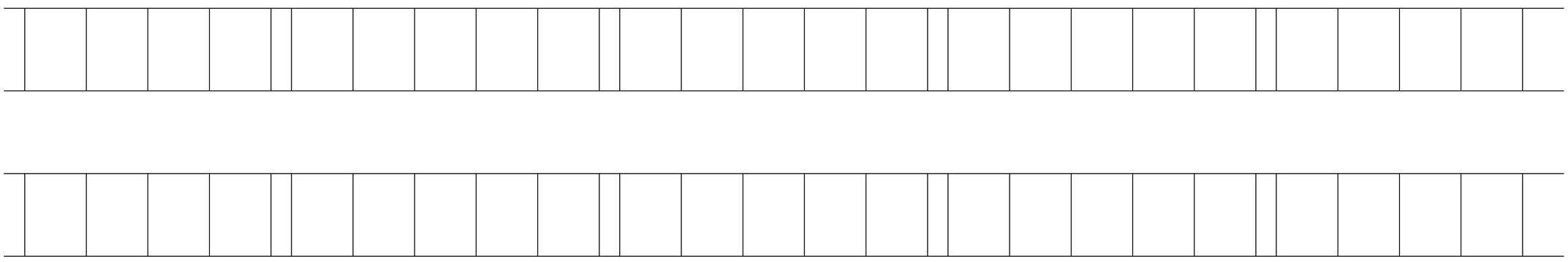
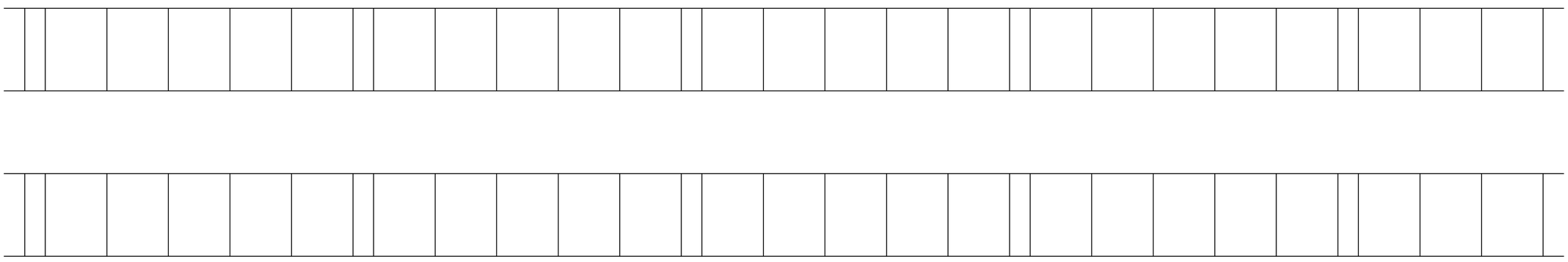
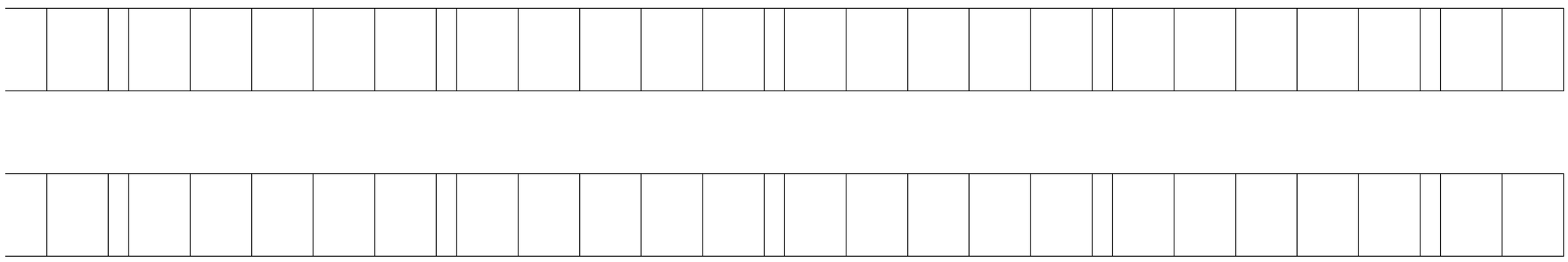
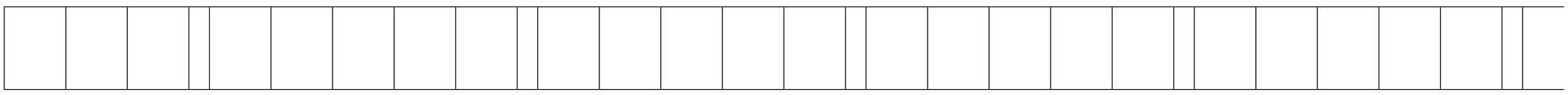
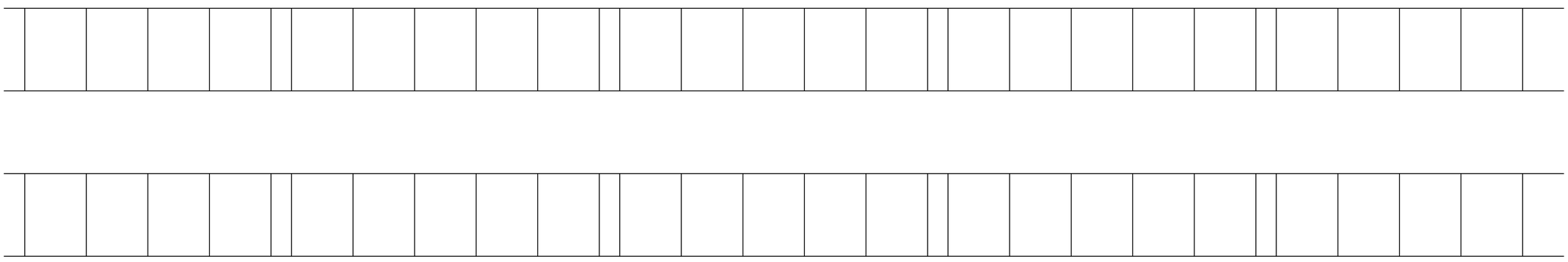
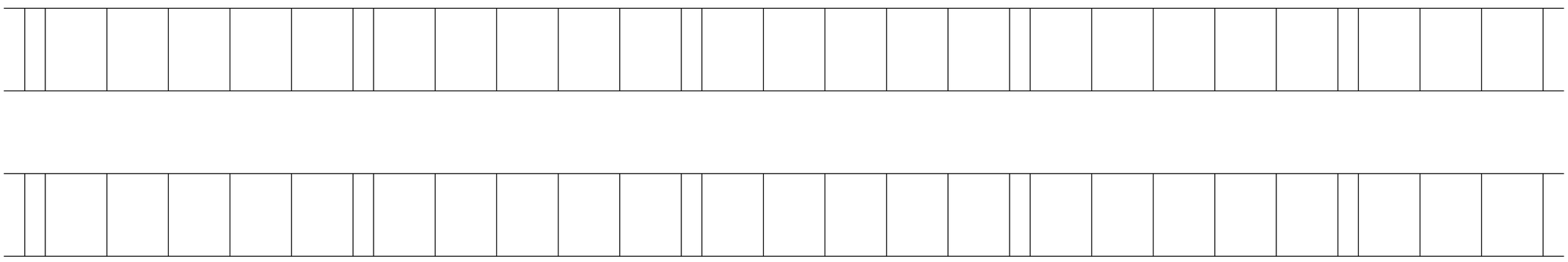
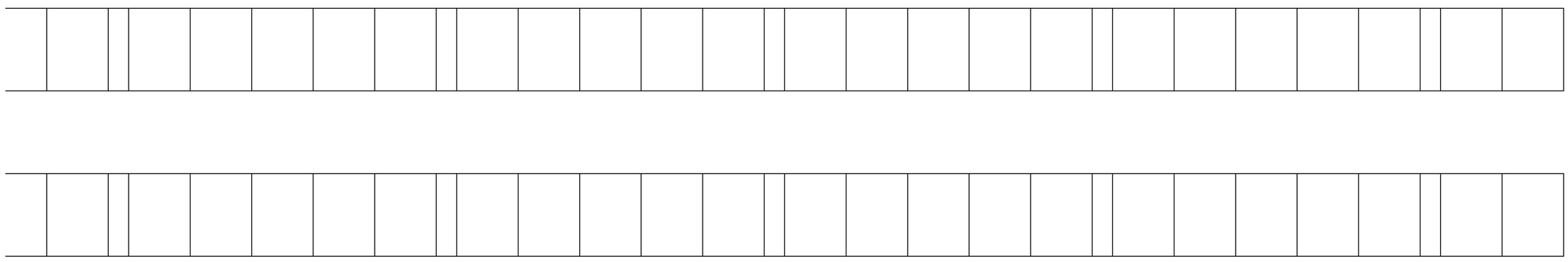
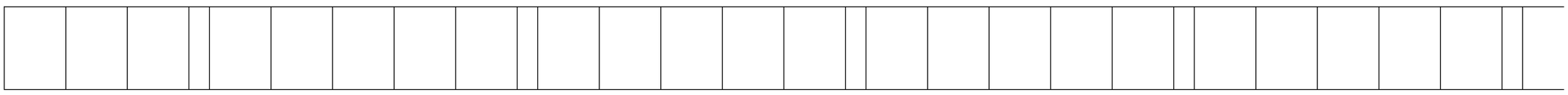
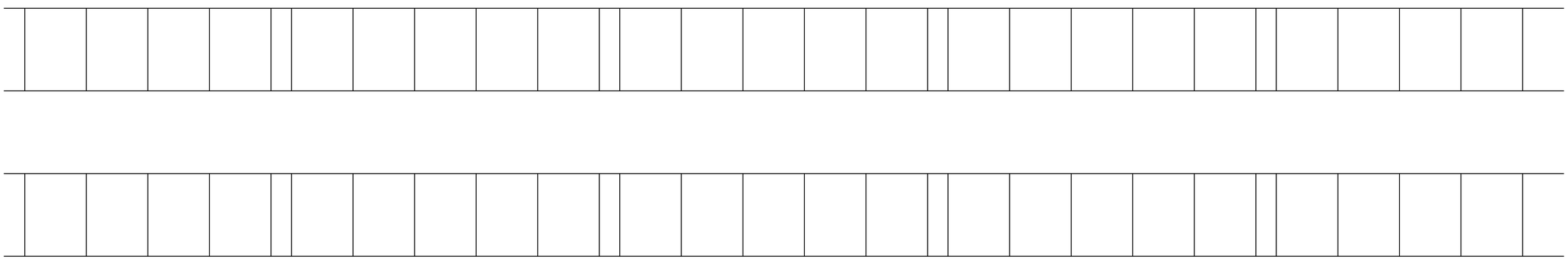
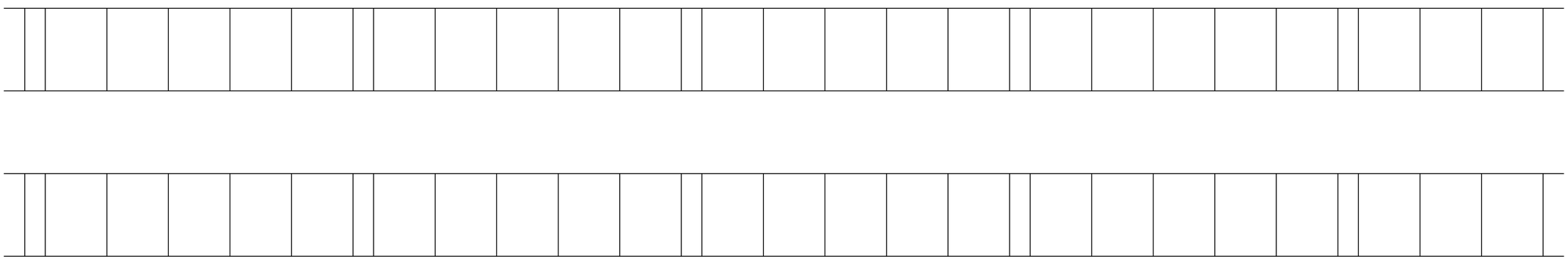
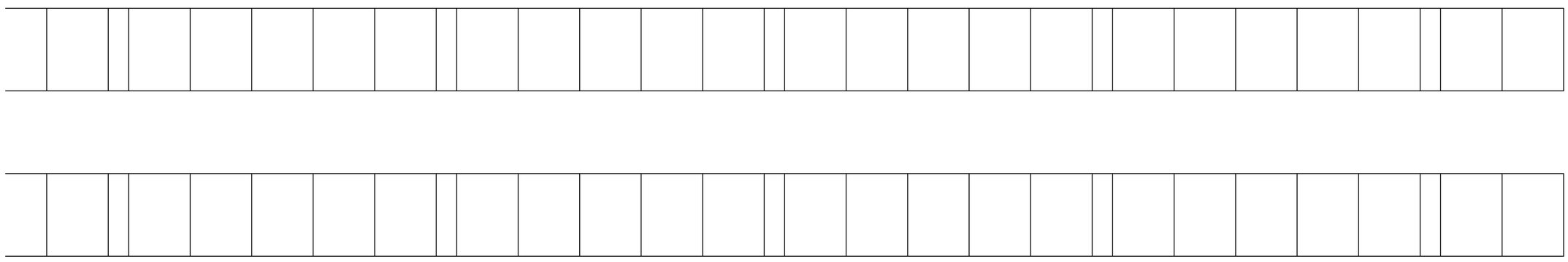
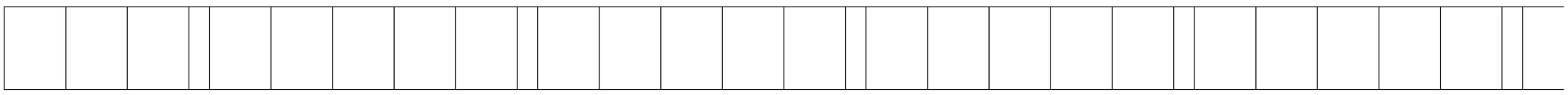
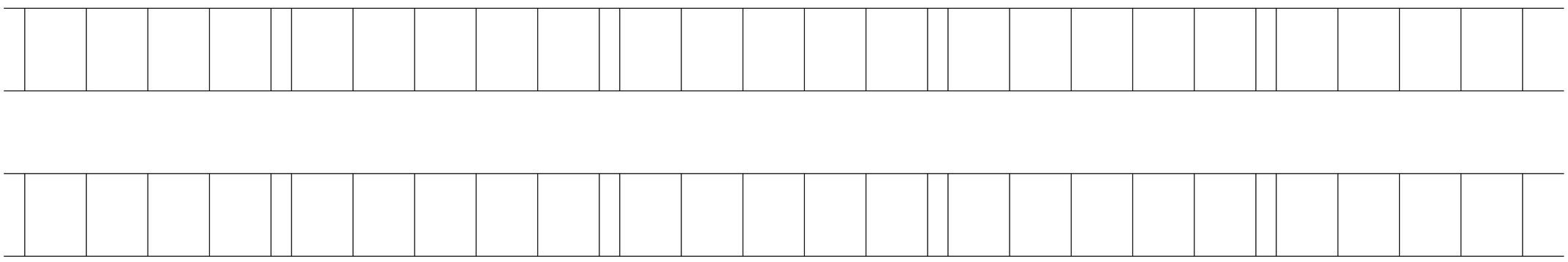
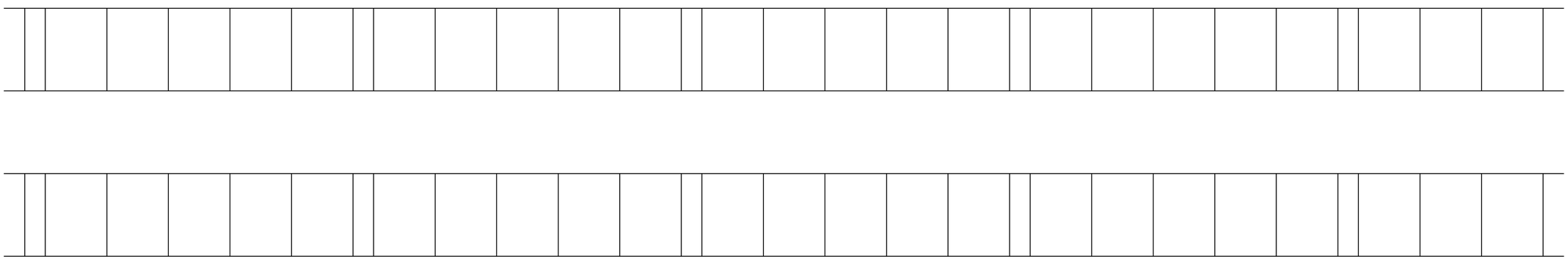
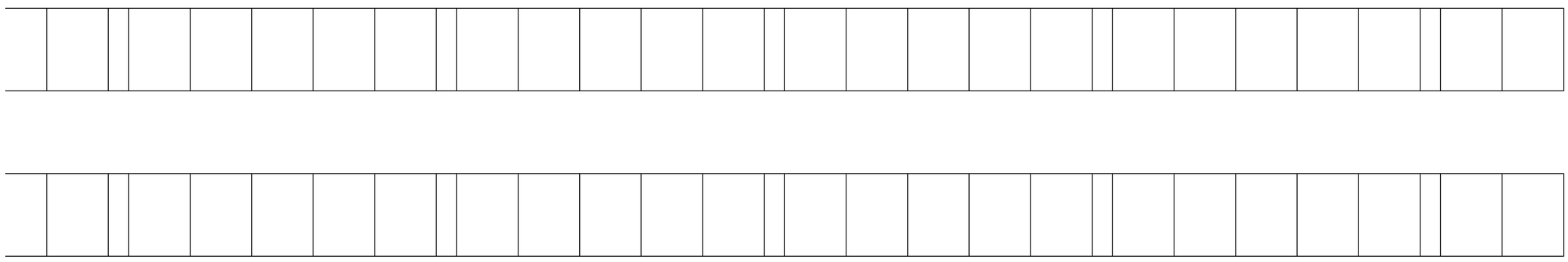
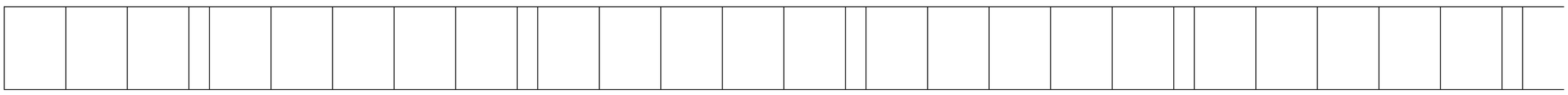
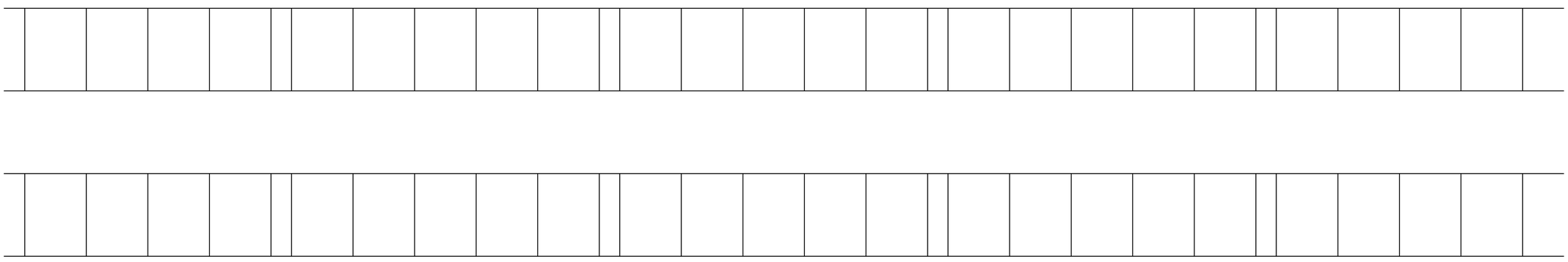
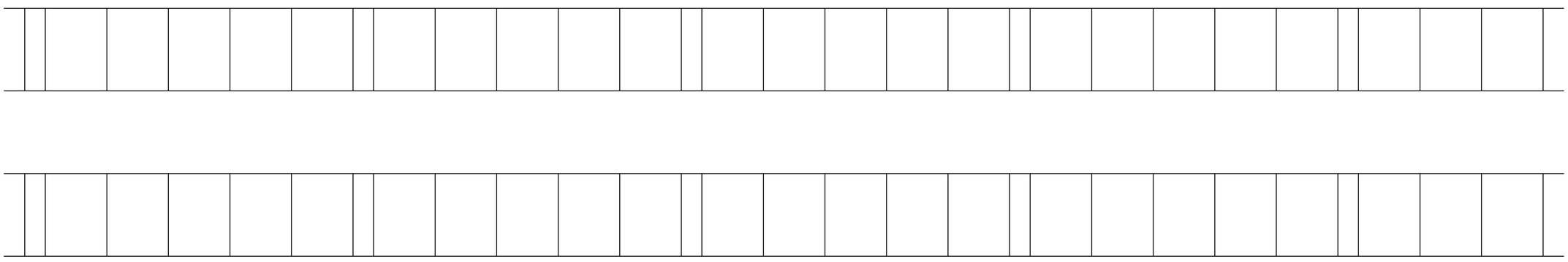
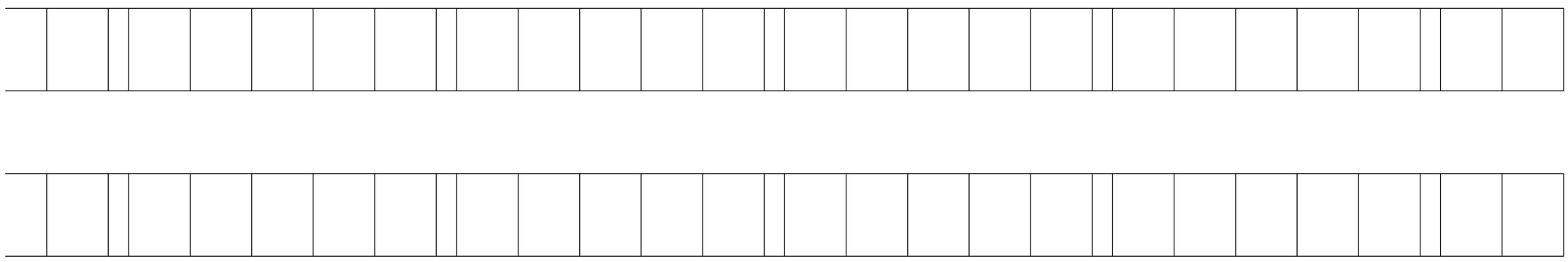
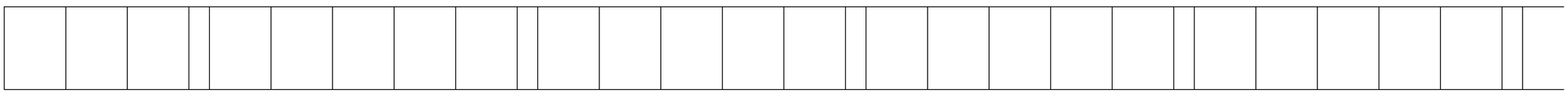
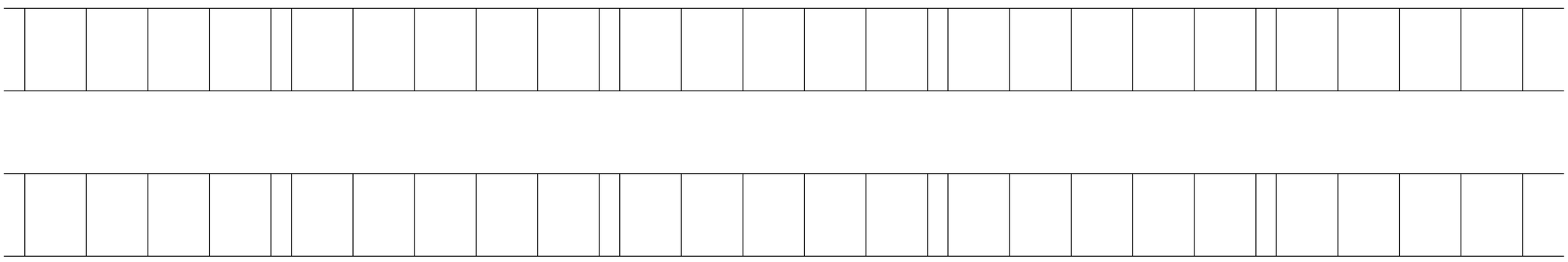
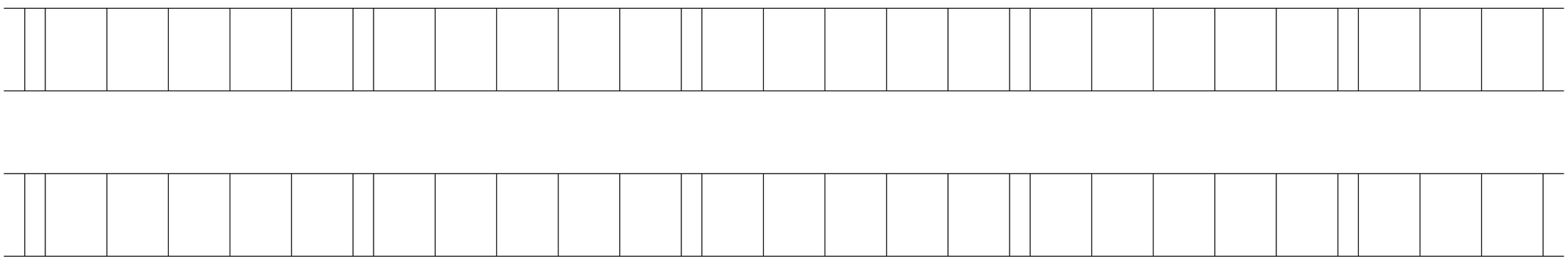
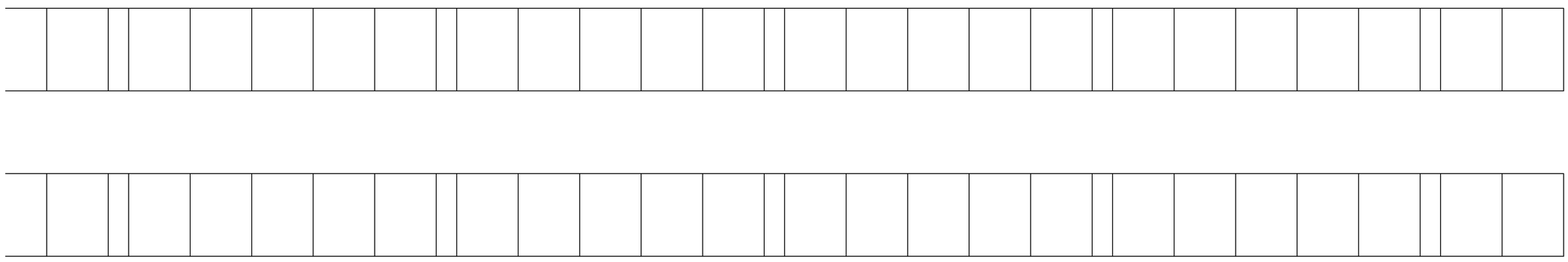
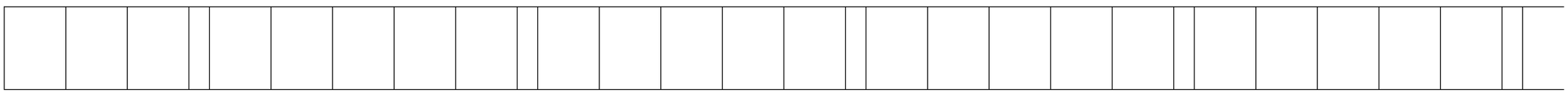
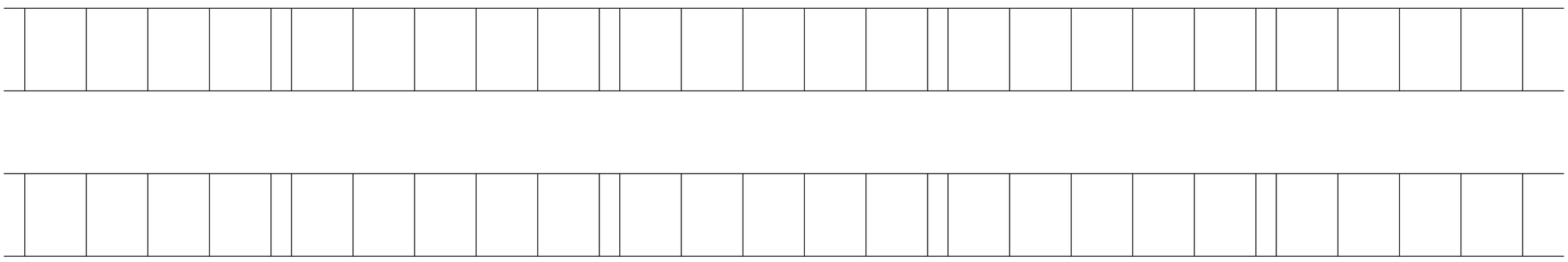
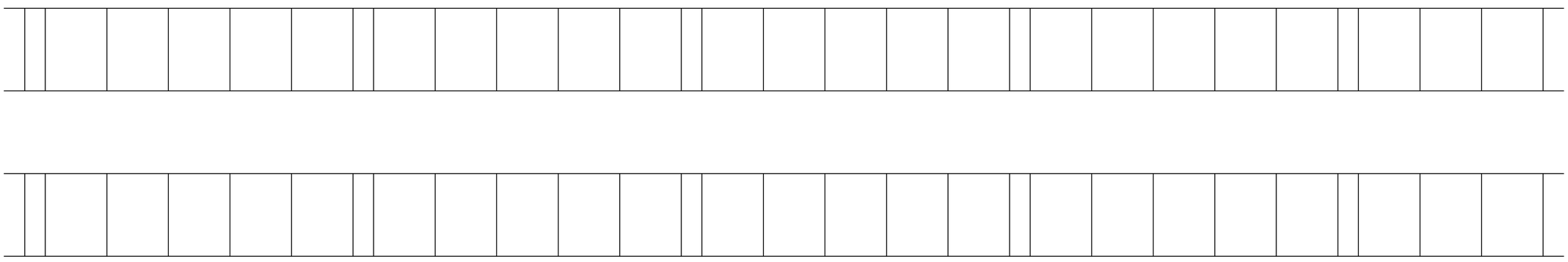
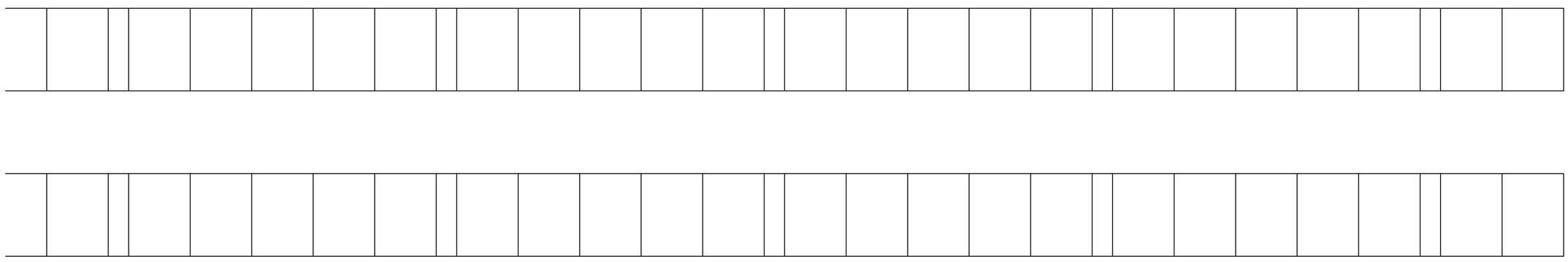
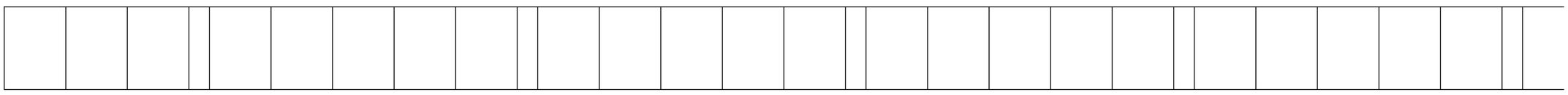
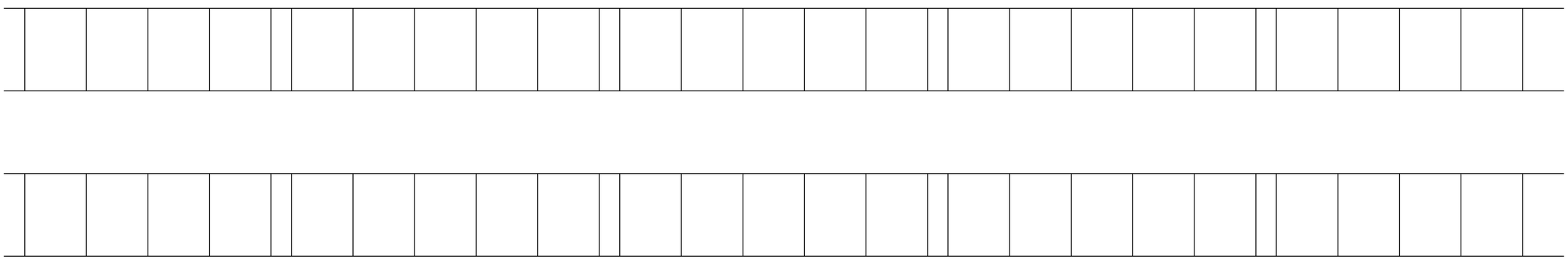
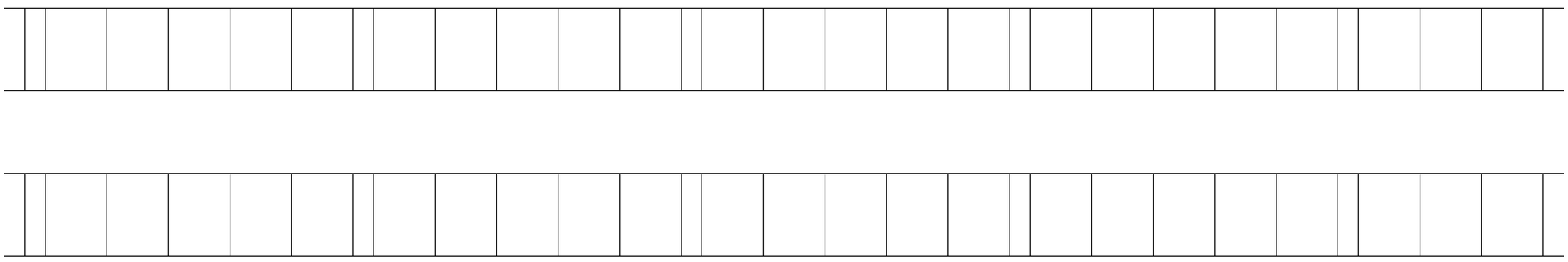
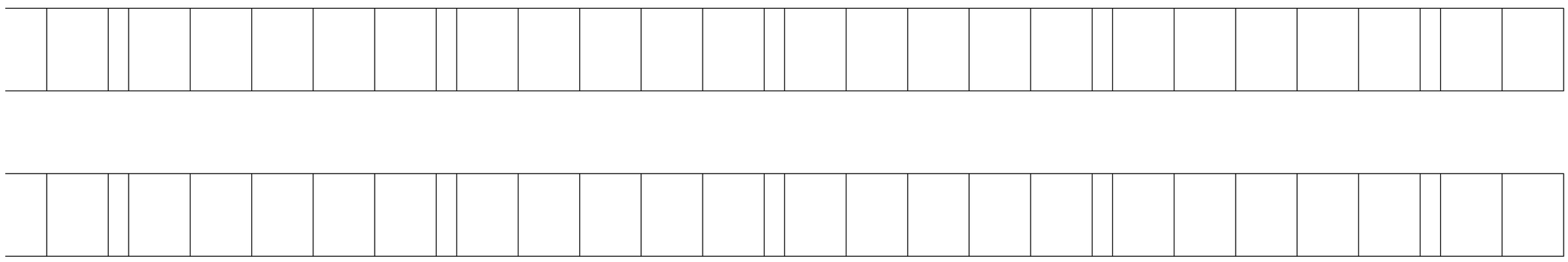
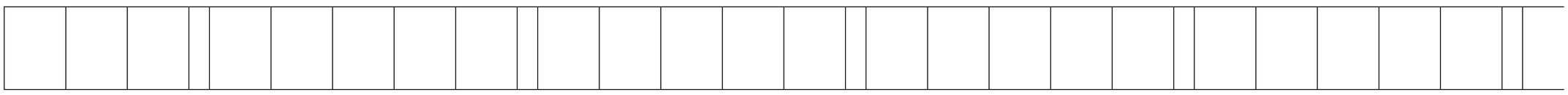
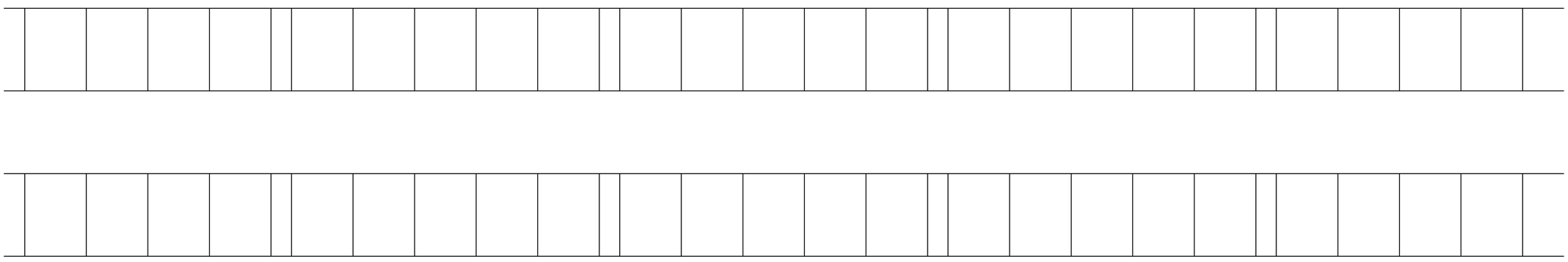
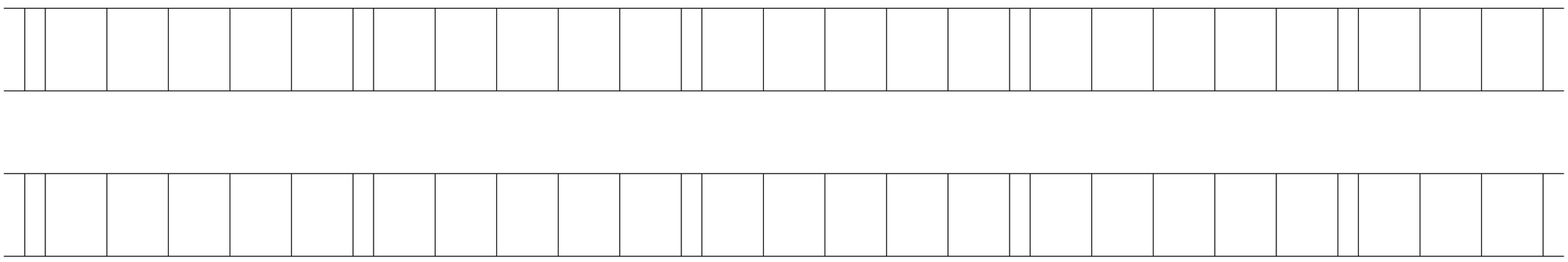
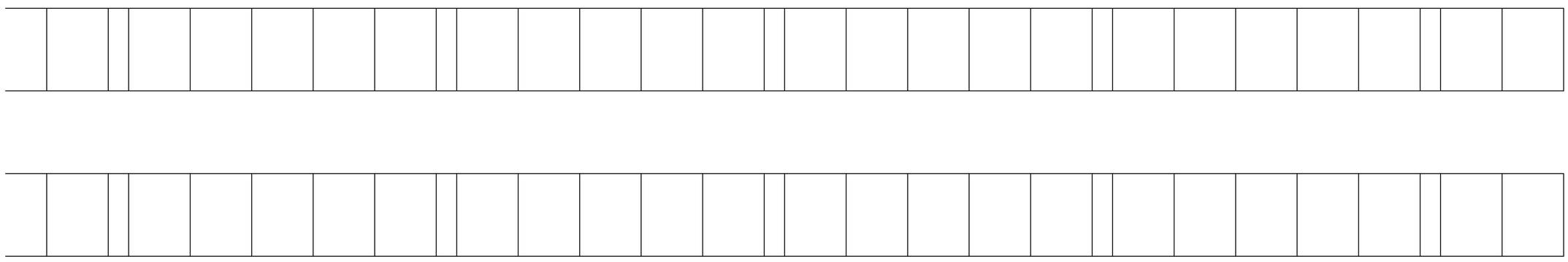
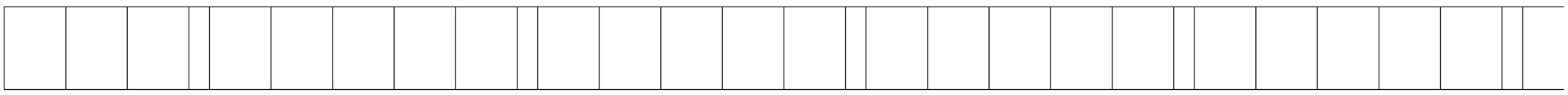
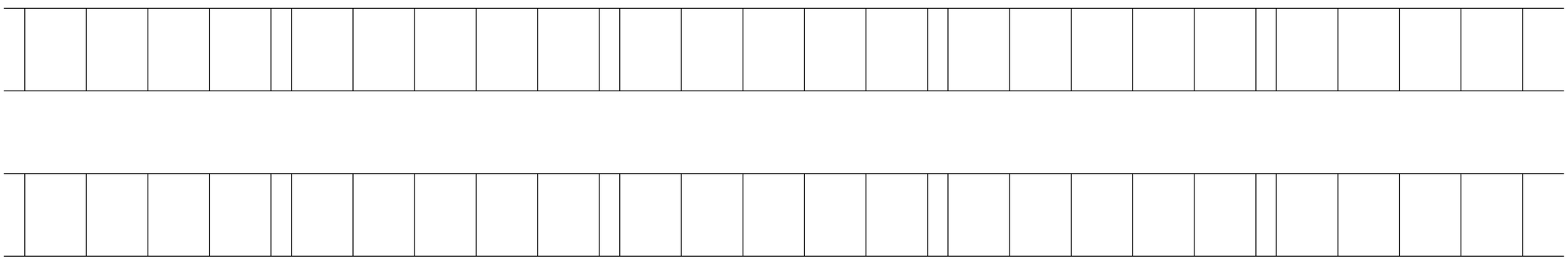
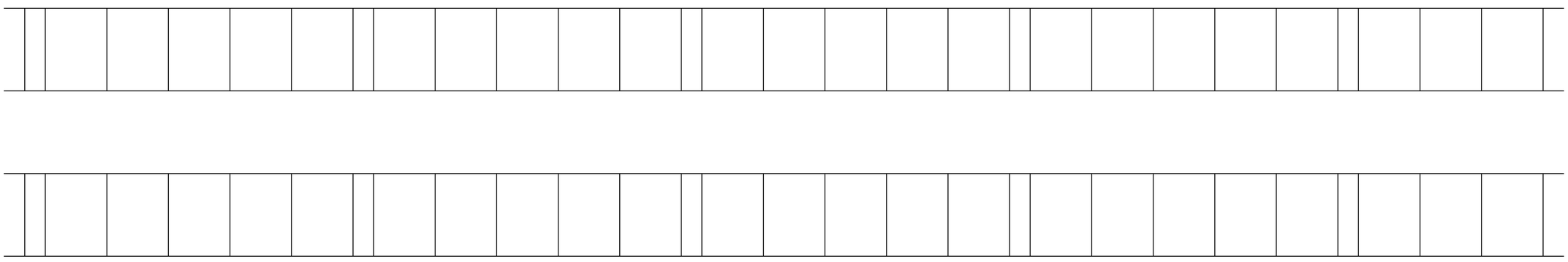
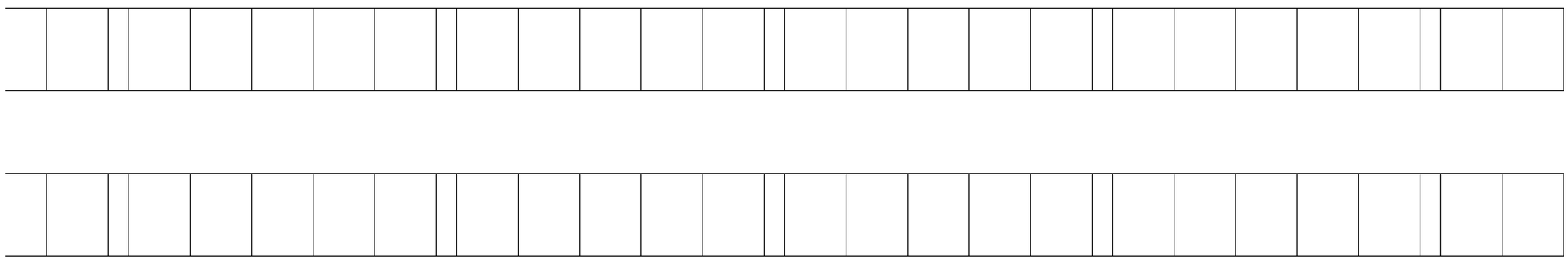
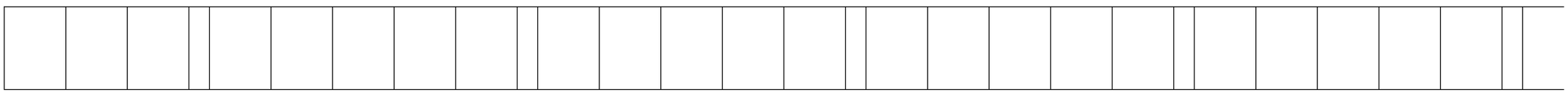
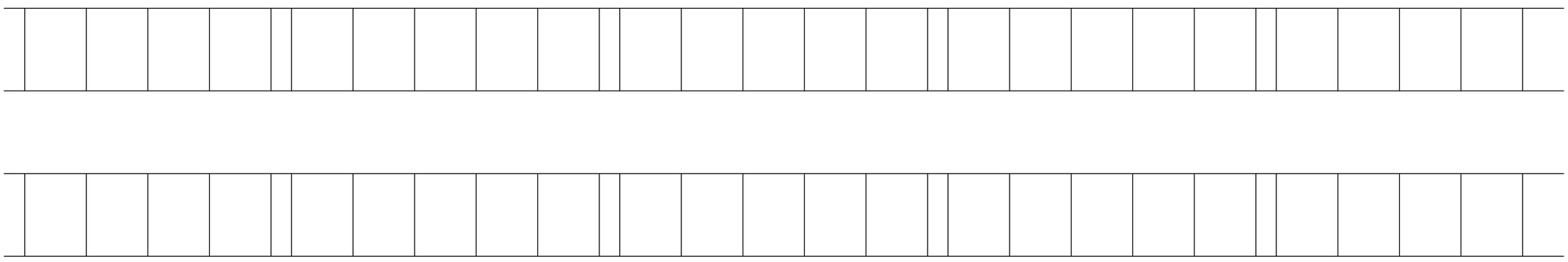
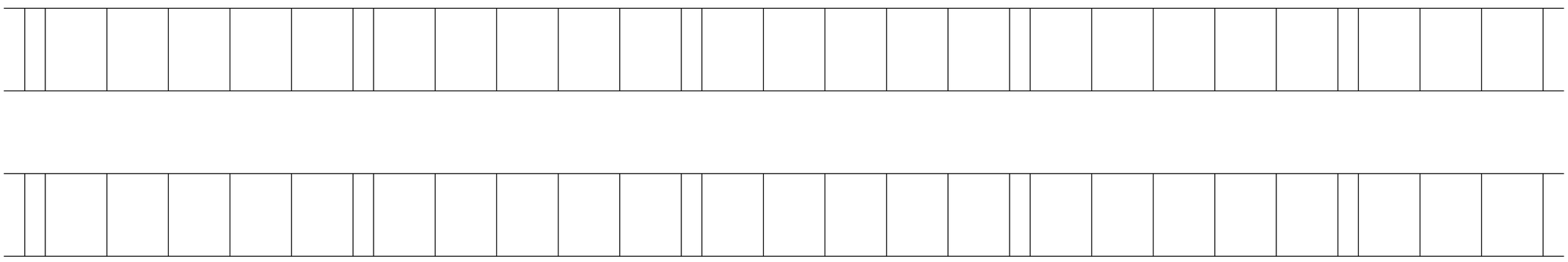
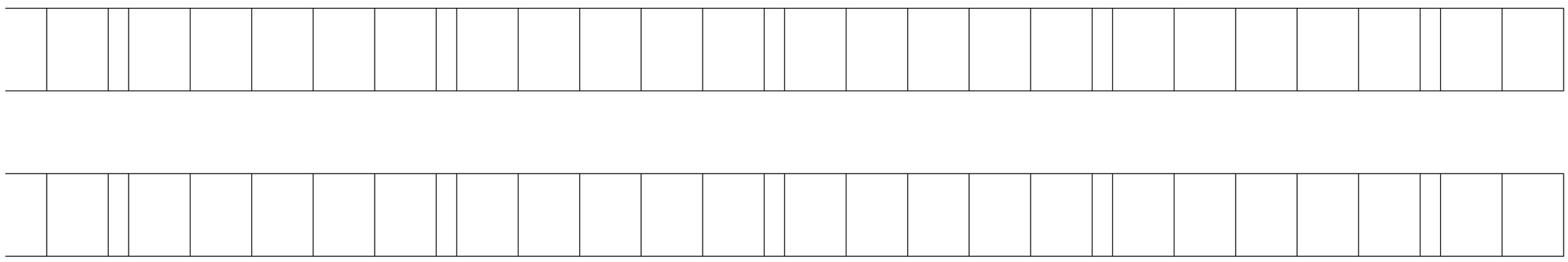
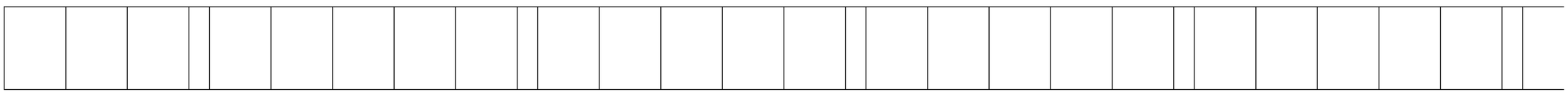
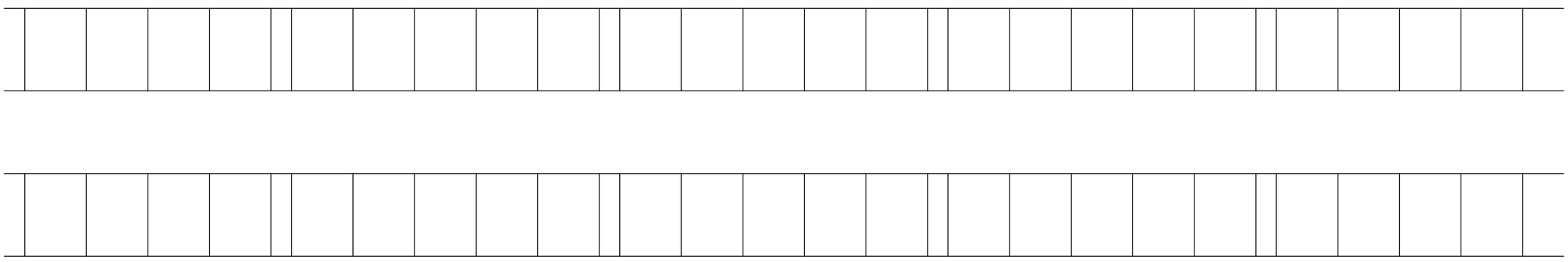
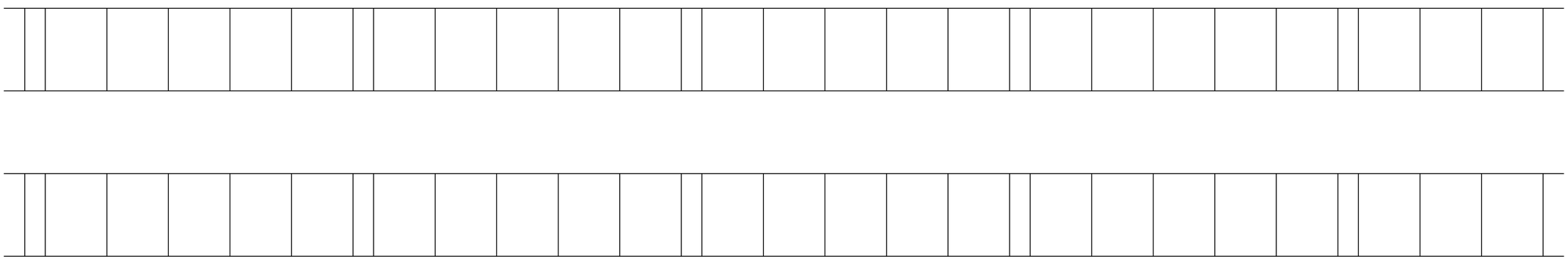
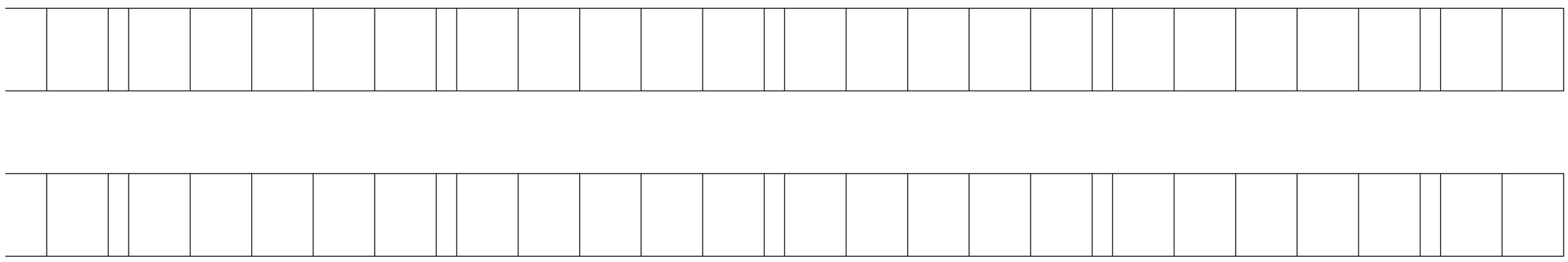
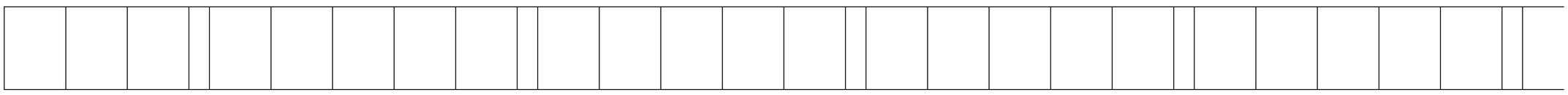
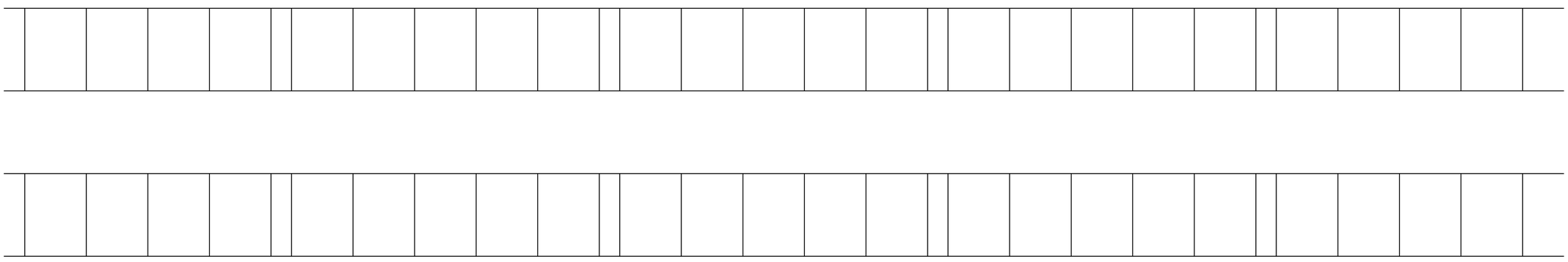
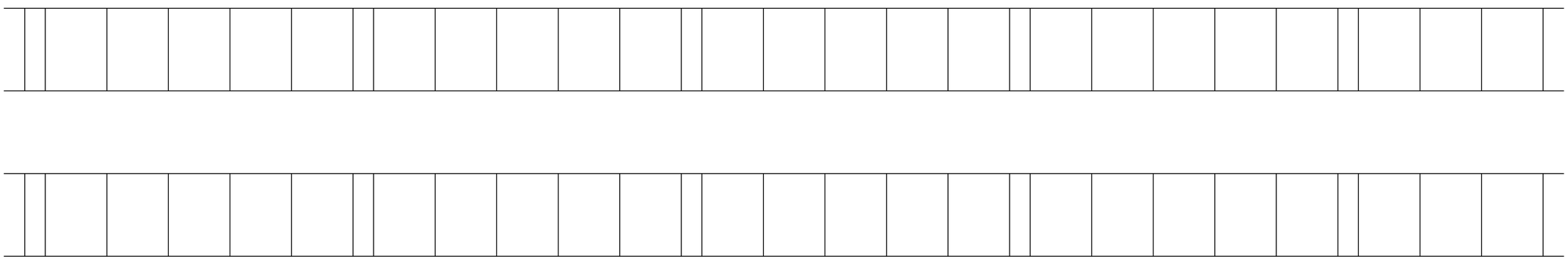
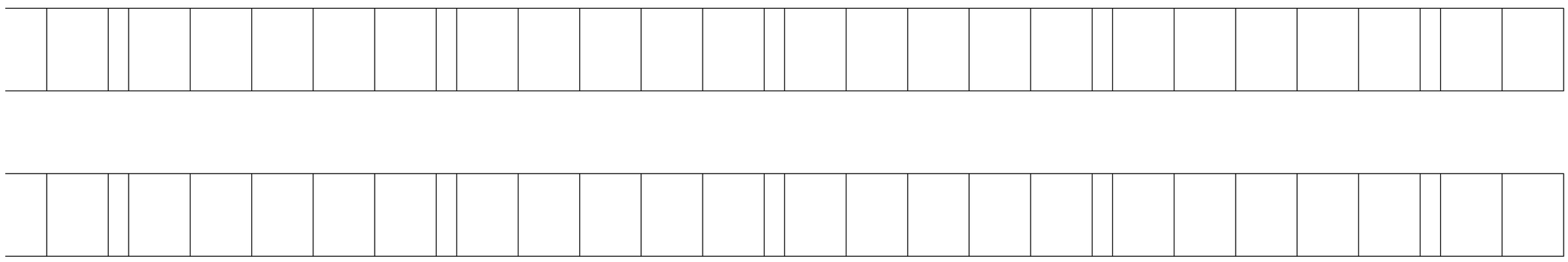
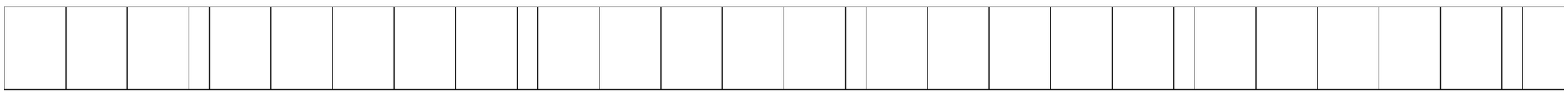
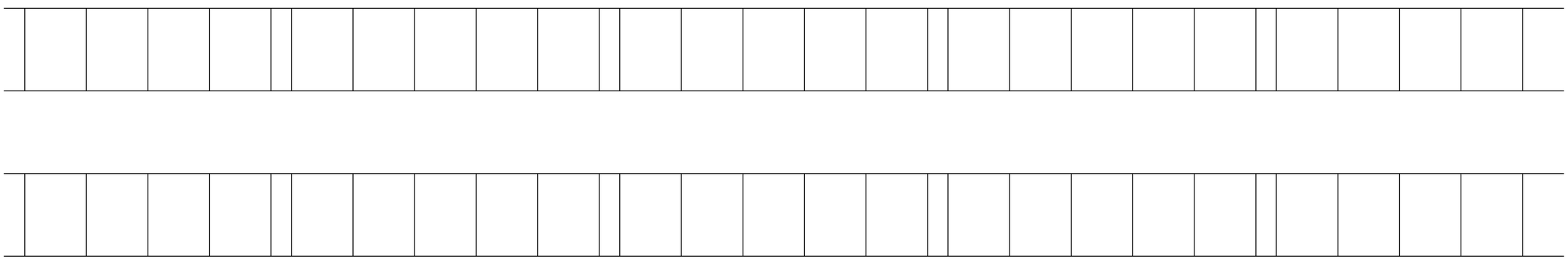
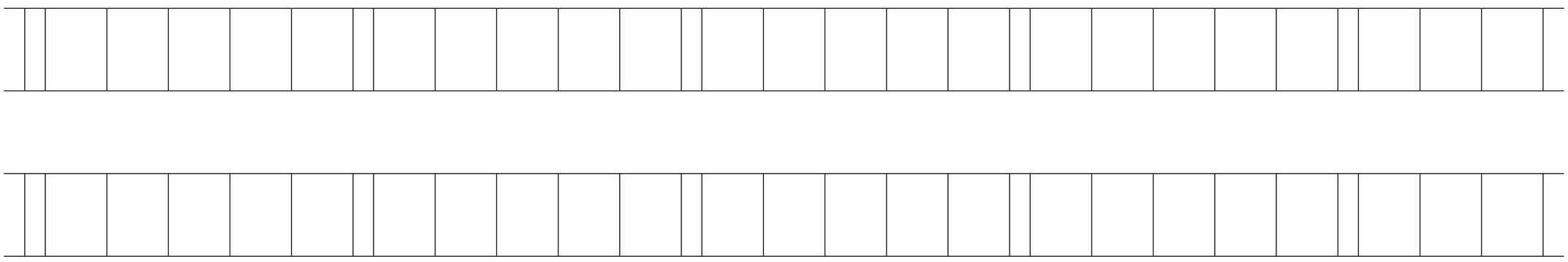
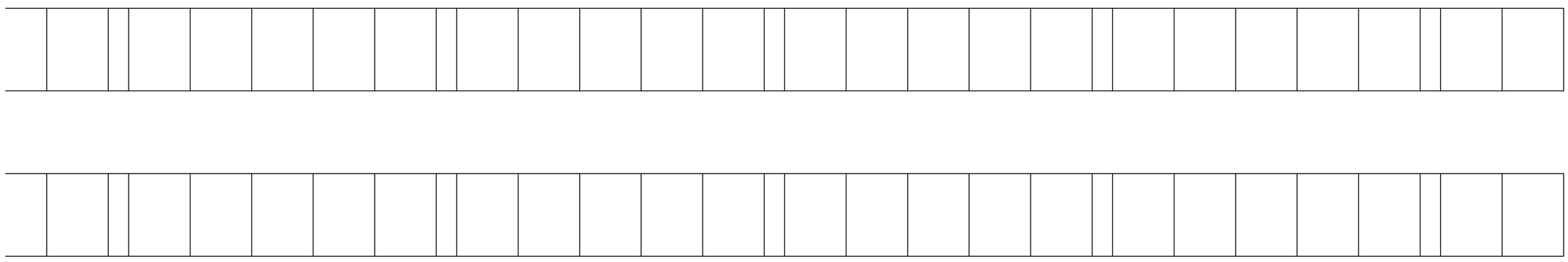
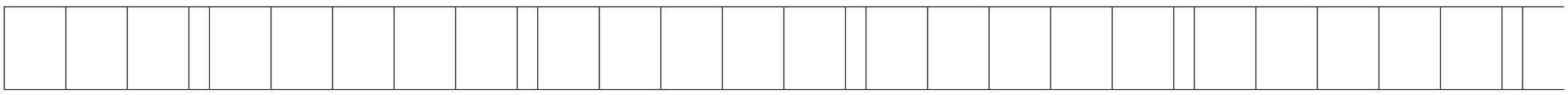
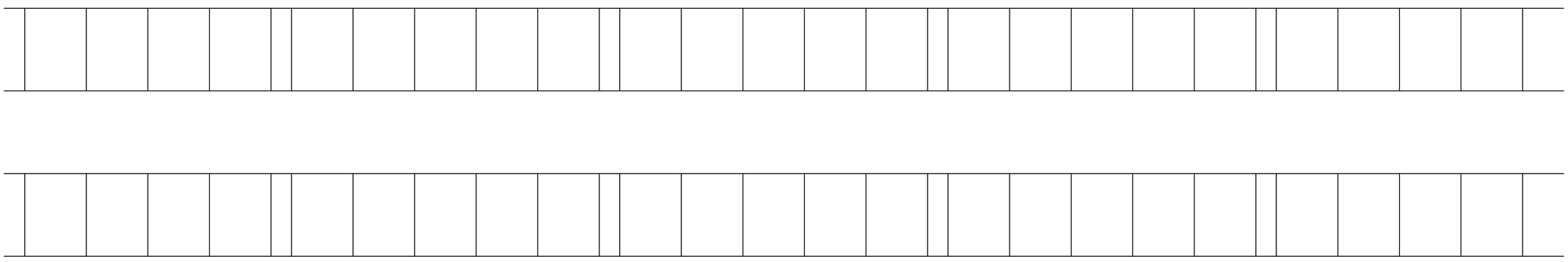
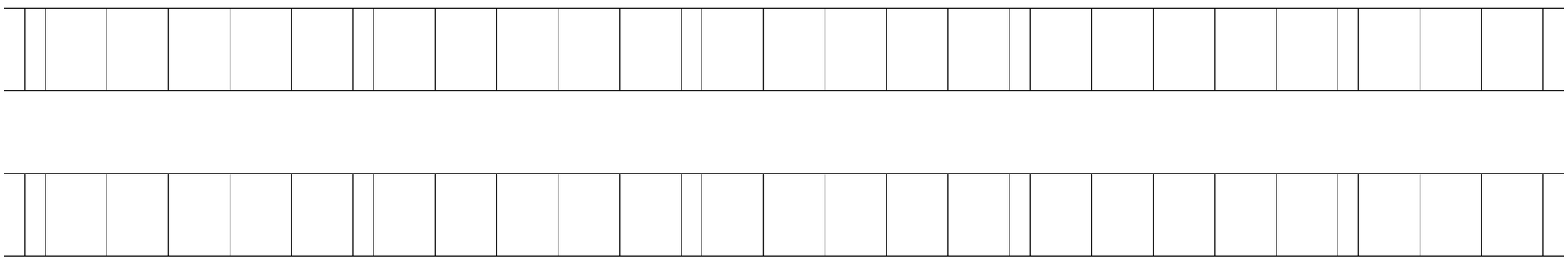
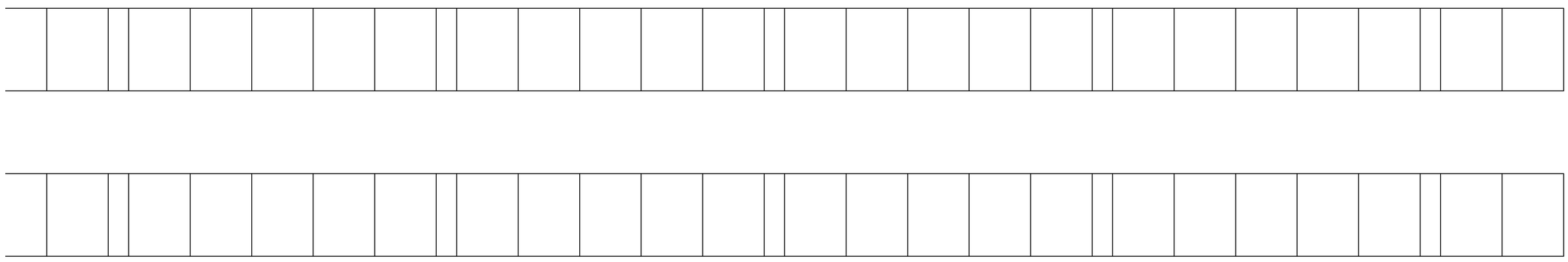
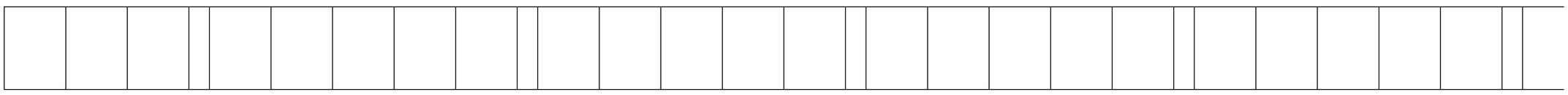
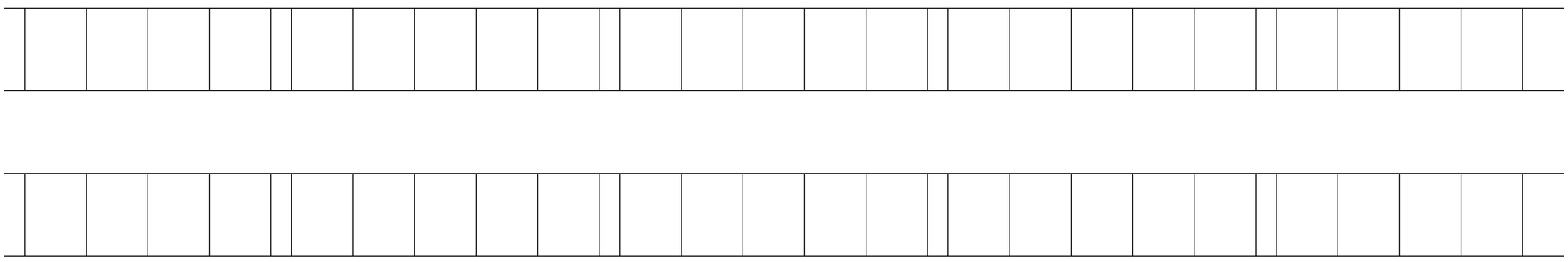
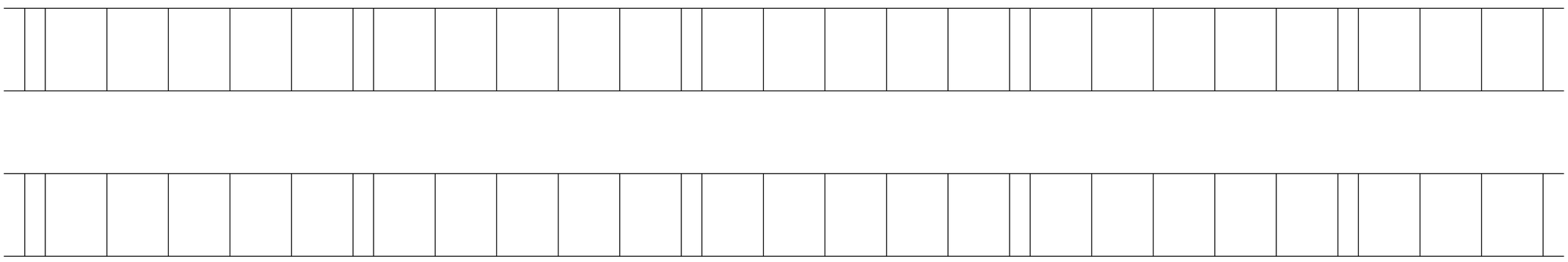
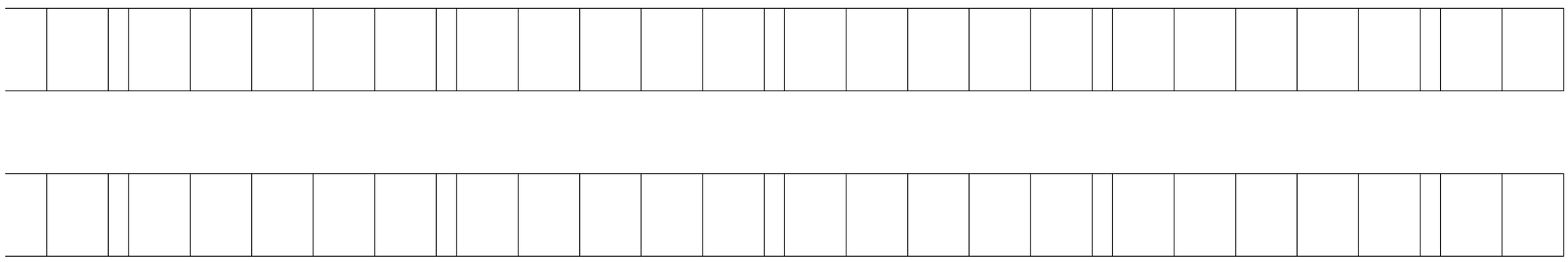
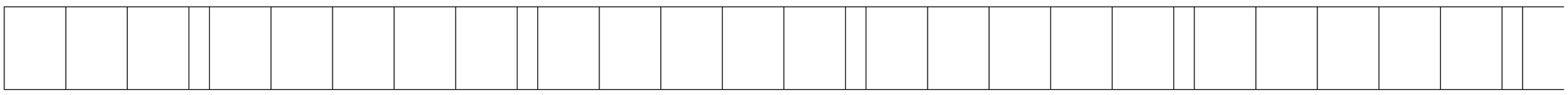
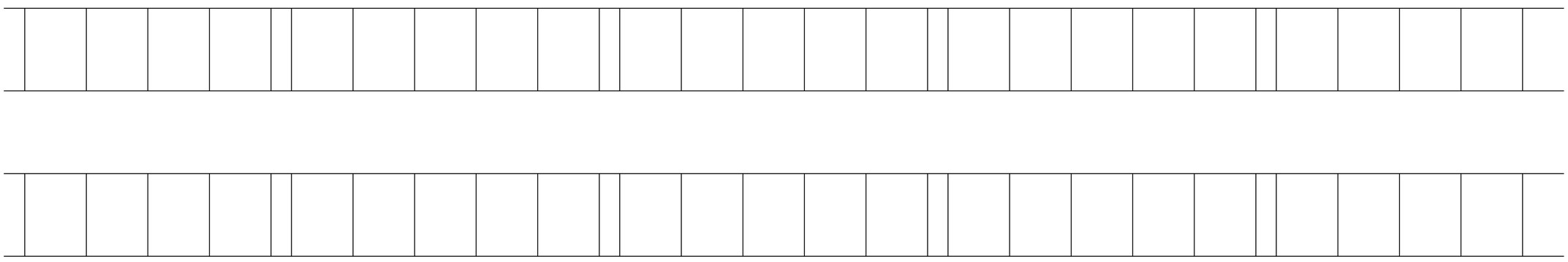
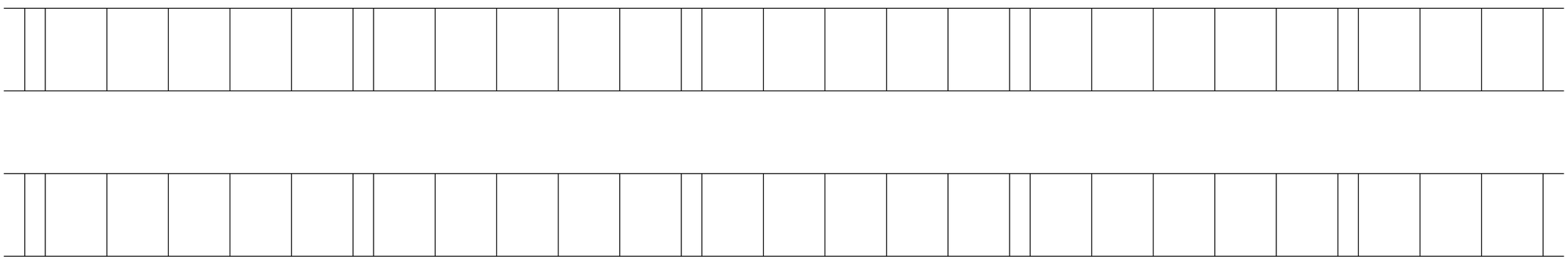
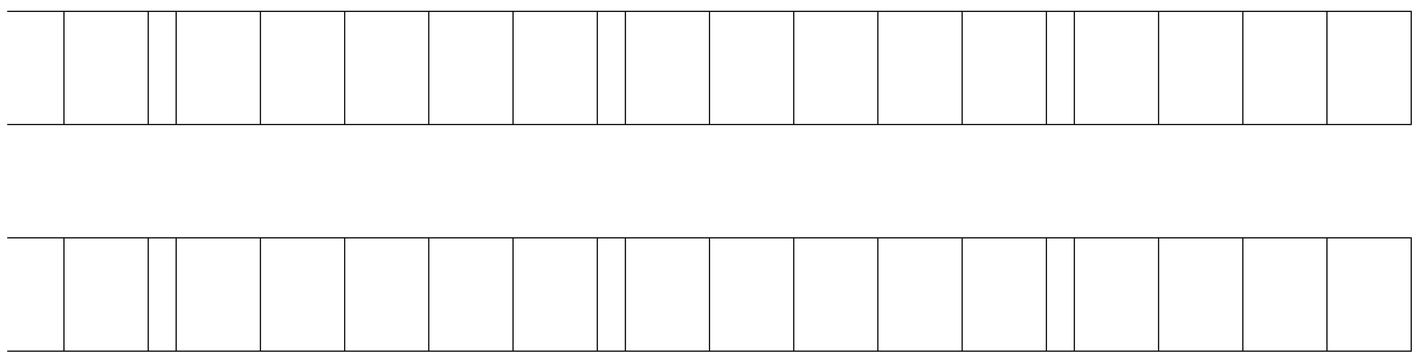
教科	国語	学年	第1学年

単元名	時数	単元の到達目標（小単元のねらい）	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
朝のリレー	2	・詩の特徴を理解し、詩の情景を読み取り、音読に生かすことができる。	音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。((1)ア) →声の強弱、間の取り方、言葉の調子、声の高さを工夫しながら音読している。		音声の働きや仕組みについて進んで理解を深め、小学校での学習を生かして音読しようとしている。
声を届ける／野原はうたう	2	・詩の特徴を理解し、詩の心情を読み取り、詩の内容に合わせた音読を工夫して行うことができる。	音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。((1)ア) →聞き手を意識して声の強弱、間の取り方、言葉の調子、声の大きさや高さを工夫している。 →情景や心情を表す表現に応じて、音読のしかたを工夫している。		音声の働きや仕組みについて進んで理解を深め、小学校での学習を生かして音読しようとしている。
はじまりの風	5	◎場面ごとの心情の変化を、図を用いて整理する。 ◎場面の展開に沿って、登場人物の心情の変化を捉える。	比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。((2)イ) →図などを使って、心情の変化を整理している。	「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。(C(1)イ) →場面ごとに会話や描写を整理して、登場人物の心情や関係の変化を捉えている。	場面の展開や心情の変化などについて、描写を基に積極的に捉え、学習の見通しをもって着目した表現や心情の変化について話し合おうとしている。
漢字に親しもう	1	◎中学校で習う漢字について理解する。	学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)イ) →漢字の組み立てと部首について理解し、漢和辞典を使って調べている。		学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
音声の仕組みや働き	2	母音と子音、音の高さや強さについて理解する。	音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。((1)ア) →日本語の音声が母音と子音で構成されることや、アクセント・イントネーションによって意味や調子が変化することなどを理解している。		声の出し方による伝わり方の違いを、試行錯誤しながら確認し、それらを生かして音声の働きや仕組みについて理解を深めようとしている。
話の構成を工夫しよう	5	自分の根拠が明確になるように、話の展開を分かりやすくする。	音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。((1)ア) →声の大きさ、話す速さ、間の取り方などに注意しながらスピーチをしている。	・「話すこと・聞くこと」において、自分の考えや根拠が明確になるように、話の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などに注意して、話の構成を考えている。(A(1)イ) →聞き手を想定し、伝えたいことが明確になるように、構成を考え、話す順番を工夫している。 ・「話すこと・聞くこと」において、相手の反応を踏まえながら、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫している。(A(1)ウ) →聞き手の反応を見ながら、伝えたいことがわかりやすく伝わるように表現を工夫して話している。	話の構成を粘り強く考え、学習の見通しをもってスピーチをしようとしている。
漢字の組み立てと部首	1	漢字の組み立てと部首について理解する。	学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)イ) →漢字の組み立てと部首について理解し、漢和辞典を使って調べている。		学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
ダイコンは大きな根？	5	◎比較がどんな場面で使われるかを確かめる。 ◎段落の役割に着目して、文章の内容にとらえる。	比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。((2)イ) →本文中で比較がどのように使われているかを理解している。	「読むこと」において、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。(C(1)ア) →「問い」と「答え」から中心的な部分を捉え、筆者の主張を理解している。	文章の中心的な部分と付加的な部分について積極的に捉え、今までの学習を生かして筆者の説明の工夫を伝え合おうとしている。
ちょっと立ち止まって	6	◎筆者の主張と事例との関係を整理する。 ◎文章の構成に着目し、要旨を捉える。	比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。((2)イ) →筆者の主張と事例との関係を整理している。	「読むこと」において、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。(C(1)ア) →序論・本論・結論の段落のまとまりに着目し、要旨を捉えている。	進んで要旨を把握し、学習の見通しをもって考えたことを伝え合おうとしている。
指示する語句と接続する語句	1	指示する語句と接続する語句の役割について理解する。	指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めている。((1)エ) →例を基に、指示する語句と接続する語句の種類や働き、使われ方などについて理解している。		今までの学習を生かして、積極的に指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めようとしている。
比較・分類	2	比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解し、分類する。	比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。((2)イ) →情報の整理のしかたを理解し、情報を比較したり、分類したりしている。		情報の整理のしかたについて積極的に理解を深め、学習したことを生かして練習問題に取り組もうとしている。
空の詩 三編	3	事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている	・事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)ウ)→詩の中の語句の意味を捉えながら、 語感を磨き、語彙を豊かにしている。	・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。(C(1)エ) →詩に描かれている情景を想像し、具体的な叙述を取り上げて表現の効果を考えている。	詩の構成や展開、表現の効果について積極的に考え、学習の見通しをもって詩を創作しようとしている。
詩の創作教室	2	詩の構成や展開、表現の仕方に着目しながら詩を創作する。	・比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使っている。((1)オ) →表現の技法を理解し、表現を工夫して詩を書いている。	・「書くこと」において、根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) →自分の思いが読み手に伝わるように、言葉や表現を工夫して詩を書いている。 ・「書くこと」において、根拠の明確さなどについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。(B(1)オ) →読み手の助言から、創作した詩のよい点や改善点を理解している。	詩の構成や展開、表現の効果について積極的に考え、学習の見通しをもって詩を創作しようとしている。
読書を楽しむ	3	読書に親しみ、自分の考えを広げる。	読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。((3)オ) →さまざまな読書の楽しみ方について理解し、読書が知識を得たり、新しいものの見方や考え方を知ったり、自分の考えを広げたりすることに役立っていることを理解している。		読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを進んで理解し、今までの学習を生かして本の魅力や感想を伝え合おうとしている。
比喩で広がる言葉の世界	3	比喩表現について理解し、文章での効果を考えることができる。	比喩などの表現の技法を理解し使っている。((1)オ) →文中で使われている比喩の文脈上の意味を理解している。	「読むこと」において、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。(C(1)ア) →各段落の役割を理解し、文章の中心となる部分を見つけ、要旨を捉えている。	進んで比喩について理解し、学習課題に沿って言葉について考えを深めようとしている。
言葉のまとまりを考えよう	2	言葉の単位について理解する。	単語の類別について理解している。((1)エ) →文法の必要性を知り、言葉の単位とその働きについて理解している。		今までの学習を生かして、積極的に単語の類別の前提となる言葉の単位について理解しようとしている。
大人になれなかった弟たちに……	5	登場人物の心情変化を理解する。	読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。((3)オ) →戦時中という時代背景や、その中で暮らす人々の生活苦を理解するうえで、読書が役立つことを理解している。	「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。(C(1)イ) →描写に着目して、登場人物の行動の理由や心情の変化を捉えている。	登場人物の心情の変化などについて、描写を基に積極的に捉え、学習したことを生かして朗読しようとしている。
聞き上手になろう	2	必要に応じて、適切な質問をすることができる。	音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。((1)ア) →話す速度や声の大きさ、言葉の調子や間の取り方などに注意しながら話している。	「話すこと・聞くこと」において、必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめている。(A(1)エ) →話し手の話に耳を傾け、質問のしかたを工夫しながら対話をし、話を十分に引き出している。	進んで質問しながら話の内容を捉え、学習したことを生かして話を引き出そうとしている。
方言と共通語	1	方言と共通語について理解できる。	共通語と方言の果たす役割について理解している。((3)ウ) →共通語と方言の役割や特徴について理解している。		今までの学習を生かして、積極的に共通語と方言の果たす役割について理解しようとしている。
いろは歌	1	古典に親しみ、言葉の調子やリズムを意識しながら音読する。	・古典にはさまざまな種類の作品があることを知っている。((3)イ) →小学校から親しんできた古典の作品を思い起こし、古典にはさまざまな種類の作品があることを理解している。 ・音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。((3)ア) →言葉の調子や間の取り方などを意識して音読している。		古文を積極的に、繰り返し音読し、3年間の学習の見通しをもって、古典の世界に親しもうとしている。
「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ	5	文章の構成や展開について根拠を明確にして、筆者の主張を読み取ることができる。	原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) →筆者の意見とそれを支える根拠との関係を理解している。	「読むこと」において、文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えている。(C(1)エ) →文章の構成や展開の効果について、根拠となる段落や部分を挙げて考えを書いている。	文章の構成や展開について粘り強く考え、学習の見通しをもって考えたことを文章にまとめようとしている。
項目を立てて書こう	2	表現技法を使って、文章を書くことができる。	比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法について、学習課題に沿って、積極的に理解を深めようとしている。	・「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) →伝えたい事柄・相手に応じて、必要な情報が明確に伝わるように、項目ごとに整理している。 ・「書くこと」において、書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えている。(B(1)イ) →相手が必要とする情報を明確に伝えるために、案内文の構成を考えている。	必要な情報を積極的に集めて整理し、学習の見通しをもって案内文を書こうとしている。
蓬莱の玉の枝	4	古文を読み、昔の人の考えやおもしろさについて理解することができる。	音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。((3)ア) →音読に必要な文語のきまりや、古典特有のリズムを確かめながら音読し、古典の世界に親しんでいる。	「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしている。(C(1)オ) →文章を読み、登場人物の思いや行動、現代との共通点や相違点について考えを深めている。	進んで古文を音読し、今までの学習を生かして、描かれている古典の世界を想像しようとしている。
研究の現場にようこそ	1	文章を読み、理解したことに基づいて、他者と意見を交流することができる。	読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。((3)オ) →読書の意義（読書が知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つこと）を理解している。	「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしている。(C(1)オ) →作品を読んで得た疑問や感想を、グループで伝え合う活動を通して、自分の考えを確かなものにしている。	読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを積極的に理解し、今までの学習を生かして考えたことを伝え合おうとしている。
星の花が降るころに	5	場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈している。	比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。((2)イ) →場面や描写の結び付きを、図などを用いて整理・比較している。	「読むこと」において、場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈している。(C(1)ウ) →場面ごとの状況や、場面と人物などの描写を結び付けて、内容を読み深めている。	進んで場面と場面、場面と描写などを結び付けて内容を解釈し、学習の見通しをもって考えを伝え合おうとしている。
言葉の関係を考えよう	2	「文節どうしの関係」「連文節」「文の成分」「文の組み立て」について、理解を深めている。	単語の類別について理解している。((1)エ) →「文節どうしの関係」「連文節」「文の成分」「文の組み立て」について、理解を深めている。		今までの学習を生かして、積極的に単語の類別の前提となる文の組み立てについて理解しようとしている。
根拠を明確にして考えよう	4	集めた資料やデータを根拠として明確に示しながら、自分の考えを書いている。	比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。((2)イ) →情報を整理し、自分の考えを裏づける資料やデータを選び、出典の示し方に気をつけながら引用している。	・「書くこと」において、根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) →集めた資料やデータを根拠として明確に示しながら、自分の考えを書いている。 ・「書くこと」において、根拠の明確さなどについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点などを見いだしている。(B(1)オ) →読み手の助言を基に、引用のしかたや根拠の明確さなどについて、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。	根拠を明確に示すことを粘り強く考え、学習の見通しをもってレポートを作成しようとしている。

さまざまな表現技法	1		比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解している。((1)オ) →比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法について、具体的な言葉を挙げて指摘している。		比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法について、学習課題に沿って、積極的に理解を深めようとしている。
今に生きる言葉	4	本文を読んで故事成語について理解したことに基づいて、自分の体験と故事成語を結び付けて考え、短い文章を書いている。	音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。((3)ア) →訓読のしかたや漢文特有のリズムを確かめながら音読し、古典の世界に親しんでいる。	・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしている。(C(1)オ) →本文を読んで故事成語について理解したことに基づいて、自分の体験と故事成語を結び付けて考え、短い文章を書いている。 ・「書くこと」において、書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えている。(B(1)イ) →故事成語と自分の体験とを重ねて、書く内容の中心が明確になるように文章の展開や構成を考えている。	積極的に漢文を音読し、今までの学習を生かして故事成語を使った文章を書こうとしている。
「不便」の価値を見つめ直す	6	文章を読んで理解したことに基づいて、筆者の主張に対する自分の考えをまとめている。	・原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) →自分の意見を述べるときには、根拠が必要であることを理解している。 ・比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。((2)イ) →情報の整理のしかたを理解し、必要な情報を選び、結び付けて、本文を要約している。	・「読むこと」において、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈している。(C(1)ウ) →目的に応じて必要な情報に着目し、要約している。 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしている。(C(1)オ) →文章を読んで理解したことに基づいて、筆者の主張に対する自分の考えをまとめている。 ・「書くこと」において、根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ)→立場を明確にして、自分の考えの根 拠となる事例を挙げながら、意見を書いている。	必要な情報に着目して、粘り強く要約し、試行錯誤しながら自分の考えを文章にまとめようとしている。
原因と結果	1	◎原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。	原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) →原因と結果がどうつながっているか整理し、その関係について理解している。		今までの学習を生かして、積極的に原因と結果の関係について理解しようとしている。
少年の日の思い出	7	◎文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。(思・判・表C(1)エ) ◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができる。(思・判・表C(1)オ) ◎根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)	事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)ウ) →行動描写や情景描写、心情を表す言葉に着目している。	・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。(C(1)エ) →時間・場所・出来事・語り手に着目して作品の構成や展開を捉えたり、具体的な表現を挙げてその効果について自分の考えをまとめたりしている。 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしている。(C(1)オ) →登場人物のものの見方について、自分の考えをもっている。 ・「書くこと」において、根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) →読み深めたことを基に、別の人物の視点から出来事や心情を捉え直して、作品を書き換えている。	文章の構成や展開、表現の効果について積極的に考え、学習の見通しをもって別の人物の視点から文章を書き換えようとしている。
単語の性質を見つけよう	2	◎単語の類別について理解することができる。	単語の類別について理解している。((1)エ) →「単語の分類」「品詞」「体言と用言」について、理解を深めている。		今までの学習を生かして、積極的に単語の類別について理解しようとしている。
漢字の音訓	1	漢字の音・訓について理解し、熟語を正しく読んだり、同じ熟語の音・訓の読み方を使って短い文を作ったりしている。	学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)イ) →漢字の音・訓について理解し、熟語を正しく読んだり、同じ熟語の音・訓の読み方を使って短い文を作ったりしている。		学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
本の世界を広げよう	1		進んで場面と場面、場面と描写などを結び付けて内容を解釈し、学習の見通しをもって考えを伝え合おうとしている。	「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしている。(C(1)オ) →作品を読んで得た疑問や感想を、グループで伝え合う活動を通して、自分の考えを確かなものにしている。	読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを積極的に理解し、今までの学習を生かして考えたことを伝え合おうとしている。
話題や展開を捉えて話し合おう	2	話し合いの話題や展開に沿って、互いの発言を結び付けながら話したり、自分の考えをまとめたりしている。	意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) →自分の考えをまとめる際に、意見に対する根拠を考えている。	「話すこと・聞くこと」において、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめている。(A(1)オ) →話し合いの話題や展開に沿って、互いの発言を結び付けながら話したり、自分の考えをまとめたりしている。	積極的に互いの発言を結び付けて考え、学習の見通しをもってグループで話し合いをしようとしている。
大阿蘇	1	詩の朗読を聞いて、それぞれの言葉がどのように使われているかを考えている。	事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)ウ) →詩の朗読を聞いて、それぞれの言葉がどのように使われているかを考えている。		進んで言葉の響きやリズムを味わい、語感を磨きながら、今までの学習を生かして詩を味わおうとしている。
二十歳になった日	4	★随筆を読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)ウ) →心情を表す語句や表現に着目し、感じたことを言語化している。	「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。(C(1)エ) →本文中の具体的な記述を挙げながら、構成の工夫や表現の効果について考えている。	進んで心情を表す表現とその効果について考え、学習したことを生かして筆者のものの見方を捉え、随筆を読み味わおうとしている。
聞き上手になろう	3	★紹介や報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問したり意見などを述べたりする。	音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。((1)ア) →話す速度や声の大きさ、言葉の調子や間の取り方などに注意しながら話している。	「話すこと・聞くこと」において、必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめている。(A(1)エ) →話し手の話に耳を傾け、質問のしかたを工夫しながら対話をし、話を十分に引き出している。	進んで質問しながら話の内容を捉え、学習したことを生かして話を引き出そうとしている。
構成や描写を工夫して書こう	4	★随筆など、感じたことや考えたことを書く。(思・判・表B(2)ウ)	事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)ウ) →体験や思いを伝えるために、情景や心情を表す言葉を適切に選んで使っている。	・「書くこと」において、書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えている。(B(1)イ) →読み手が状況をイメージできるよう、書く内容の中心が伝わるように、構成を工夫している。 ・「書くこと」において、根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) →体験に基づいて自分の考えを伝えるために、書き出しや結び、描写を工夫している。	粘り強く文章の構成や展開を考え、学習の見通しをもって随筆を書こうとしている。
漢字の成り立ち	1	◎学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)イ)	学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)イ) →漢字の成り立ちについて理解し、漢和辞典を使って調べている。		学習課題に沿って、積極的に漢字の成り立ちについて理解しようとしている。
ぼくがここに	3	◎比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使うことができる。 ◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができる。 ★詩を読み、考えたことなどを伝え合う。(思・判・表C(2)イ)	比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使っている。((1)オ) →詩に用いられている表現の技法を理解している。	「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしている。(C(1)オ) →表現や表現技法に着目して読み深めたことを基に、作者の思いを想像し、考えている。	積極的に詩を読み味わって考えを深め、学習課題に沿って、考えたことを伝え合おうとしている。
一年間の学びを振り返ろう	2	★紹介や報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問したり意見などを述べたりする。(思・判・表A(2)ア) ★本や資料から文章や図表などを引用して説明したり記録したりするなど、事実やそれを基に考えたことを書く。(思・判・表B(2)ア)	比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。((2)イ) →情報の整理のしかたを理解し、要点をわかりやすく資料にまとめている。	・「話すこと・聞くこと」において、相手の反応を踏まえながら、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫している。(A(1)ウ) →聞き手の反応を踏まえて、考えがわかりやすく伝わるように、用いる言葉を工夫して話している。 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) →「観点」に見合った情報を集めて整理し、発表の要点を資料に書いている。	集めた材料を積極的に整理し、今までの学習を生かして要点を資料にまとめ、発表しようとしている。